

## Ⅱ 家族からの加害行為と家庭・性格特性・非行

### 第6 被害・被虐待経験と家庭

Iにおいて、本調査対象となった非行少年のほぼ半数は、過去に虐待を受けた経験があるとしていることを述べた。ここでは、家庭の経済状況、実父母離婚の有無、親の負因、親の養育態度等の点から見た回答者の家庭状況について、被虐待経験のある者とない者を比較することを通じ、虐待と家庭環境との関連について考えてみたい。

#### 1 家庭の状況と被虐待経験

##### (1) 家庭の経済状況

###### ア 被虐待経験の有無・種類との関連

表21は、家庭の経済状況と被虐待経験の有無との関連を、虐待の種類ごとに男女別に見たものである。なお、分析に当たっては、調査票の選択肢のうち、「不詳」を除き、「生活保護受給」と「貧困」とを一つにまとめて、家庭の経済状況を「貧困層」、「普通層」（「普通」のもの）及び「富裕層」（「富裕」のもの）の3段階とした。

男子ではネグレクトについて有意な関連が認められ、残差分析を行ったところ、「貧困層」の場合に被虐待経験ありが有意に多い。女子では性的虐待①（接触）について有意な関連が認められ、「富裕層」の場合に被虐待経験ありが有意に多かったが、該当数が少ないことから、何らかの傾向を見出すことはできないと思われる。

表21 家庭の経済状況と被虐待経験の有無

	虐待の種類	経済状況	被虐待経験の有無		合計	検定の結果	
			なし	あり		P値	判定
男子	身体的虐待 ① (軽度)	貧困	332 (61.0)	212 (39.0)	544 (100.0)	0.203	
		普通	800 (56.7)	612 (43.3)	1,412 (100.0)		
		富裕	30 (55.6)	24 (44.4)	54 (100.0)		
		総数	1,162 (57.8)	848 (42.2)	2,010 (100.0)		
	身体的虐待 ② (重度)	貧困	384 (70.5)	161 (29.5)	545 (100.0)	0.565	
		普通	1,034 (72.8)	387 (27.2)	1,421 (100.0)		
		富裕	40 (74.1)	14 (25.9)	54 (100.0)		
		総数	1,458 (72.2)	562 (27.8)	2,020 (100.0)		
	性的虐待 ① (接触)	貧困	551 (99.1)	5 (0.9)	556 (100.0)	m 0.457	
		普通	1,444 (99.5)	7 (0.5)	1,451 (100.0)		
		富裕	58 (100.0)	-	58 (100.0)		
		総数	2,053 (99.4)	12 (0.6)	2,065 (100.0)		
	性的虐待 ② (性交)	貧困	557 (99.8)	1 (0.2)	558 (100.0)	m 1.000	
		普通	1,449 (99.9)	2 (0.1)	1,451 (100.0)		
		富裕	58 (100.0)	-	58 (100.0)		
		総数	2,064 (99.9)	3 (0.1)	2,067 (100.0)		
ネグレクト	貧困	515 (92.6) ▼ [-3.2]	41 (7.4) △ [3.2]	556 (100.0)	0.008	**	
	普通	1,391 (96.1) △ [3.1]	57 (3.9) ▼ [-3.1]	1,448 (100.0)			
	富裕	54 (94.7) [1.5]	3 (5.3) [-1.5]	57 (100.0)			
	総数	1,960 (95.1)	101 (4.9)	2,061 (100.0)			

	虐待の種類	経済状況	被虐待経験の有無		合計	検定の結果	
			なし	あり		P値	判定
女子	身体的虐待 ①（軽度）	貧困	35 (47.3)	39 (52.7)	74 (100.0)	m 0.731	
		普通	69 (52.7)	62 (47.3)	131 (100.0)		
		富裕	5 (55.6)	4 (44.4)	9 (100.0)		
		総数	109 (50.9)	105 (49.1)	214 (100.0)		
	身体的虐待 ②（重度）	貧困	46 (63.0)	27 (37.0)	73 (100.0)	0.197	
		普通	92 (67.6)	44 (32.4)	136 (100.0)		
		富裕	3 (37.5)	5 (62.5)	8 (100.0)		
		総数	141 (65.0)	76 (35.0)	217 (100.0)		
	性的虐待 ①（接触）	貧困	72 (93.5) [-1.1]	5 (6.5) [1.1]	77 (100.0)	m 0.014	*
		普通	135 (97.8) △ [2.1]	3 (2.2) ▼ [-2.1]	138 (100.0)		
		富裕	7 (77.8) ▼ [-2.6]	2 (22.2) △ [2.6]	9 (100.0)		
		総数	214 (95.5)	10 (4.5)	224 (100.0)		
性的虐待 ②（性交）	貧困	77 (98.7)	1 (1.3)	78 (100.0)	m 0.383		
	普通	138 (100.0)	-	138 (100.0)			
	富裕	9 (100.0)	-	9 (100.0)			
	総数	224 (99.6)	1 (0.4)	225 (100.0)			
ネグレクト	貧困	70 (89.7)	8 (10.3)	78 (100.0)	m 0.680		
	普通	127 (92.0)	11 (8.0)	138 (100.0)			
	富裕	9 (100.0)	-	9 (100.0)			
	総数	206 (91.6)	19 (8.4)	225 (100.0)			

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 「貧困」には、「生活保護受給」を含む。

4 「判定」欄の「\*」は有意水準5%以下、「\*\*」は有意水準1%以下で、それぞれ有意差が見られることを示す。

5 「P値」欄の「m」は、モンテカルロ法によることを示す。

6 ( )内は、構成比を示し、[ ]内は、調整済残差を示す。

△は、残差分析の結果、残差が有意に多いことを、▼は、有意に少ないことをそれぞれ示す。

次に、第2の2の(2)において、複数の虐待を経験した者がいることが分かったので、表22では「身体的虐待のみ」、「性的虐待のみ」、「ネグレクトのみ」、「身体的虐待・性的虐待」、「身体的虐待・ネグレクト」及び「身体的・性的虐待・ネグレクト」の6つの類型と経済状況との関連を調べた結果を示した。男女ともに有意な関連は認められなかった。

なお、先の2つの表も含め、虐待の種類別に見るときは、第2の2の(2)で明らかになったように、ネグレクトの経験者のかなりの者が、身体的虐待の経験者でもあるということに留意する必要がある。

表22 家庭の経済状況と虐待の類型

	経済状況	虐待の類型						合計	検定の結果	
		身体的虐待のみ	性的虐待のみ	ネグレクトのみ	身体的虐待・性的虐待	身体的虐待・ネグレクト	身体的・性的虐待・ネグレクト		P値	判定
男子	貧困	212 (82.2)	1 (0.4)	7 (2.7)	4 (1.6)	34 (13.2)	-	258 (100.0)	m 0.081	
	普通	641 (91.3)	2 (0.3)	7 (1.0)	2 (0.3)	48 (6.8)	2 (0.3)	702 (100.0)		
	富裕	23 (88.5)	-	-	-	3 (11.5)	-	26 (100.0)		
	総数	876 (88.8)	3 (0.3)	14 (1.4)	6 (0.6)	85 (8.6)	2 (0.2)	986 (100.0)		
女子	貧困	28 (70.0)	-	-	4 (10.0)	7 (17.5)	1 (2.5)	40 (100.0)	m 0.106	
	普通	63 (82.9)	1 (1.3)	3 (3.9)	2 (2.6)	7 (9.2)	-	76 (100.0)		
	富裕	3 (60.0)	-	-	2 (40.0)	-	-	5 (100.0)		
	総数	94 (77.7)	1 (0.8)	3 (2.5)	8 (6.6)	14 (11.6)	1 (0.8)	121 (100.0)		

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 表21の注2・3・5・6に同じ。

#### イ 虐待の開始時期との関連

第2の2の(2)で述べた「被虐待経験あり群」について、経済状況と虐待の開始時期の関連を男女別に示したものが表23であり、さらに虐待の種類ごとに男女別に示したものが表24である。虐待の開始時期とは、表23において単一の被虐待経験のある者の場合は、その時期を尋ねた問1（重複選択）に対する回答のうち最も早い時期、また、複数の被虐待経験のある者の場合は、それぞれの被虐待経験について選択された時期のうち最も早いものとした。また、表24においては、時期を尋ねた問いに対する回答のうち、最も早い時期を開始時期とした。なお、ここでは、選択肢の「いつだったか覚えていない」を分析から除き、「中学生の時」及び「中学卒業後」をまとめて「中学生以後」とし、虐待の開始時期を3段階とした。

表23では、男子について統計的に有意な関連が認められ、残差分析を行ったところ、「貧困層」の場合

は虐待の開始時期が「小学校入学前」,「普通層」の場合は「中学生以後」がそれぞれ有意に多い。

また,表24では,男子の身体的虐待②(重度)について有意な関連が認められ,残差分析を行ったところ,「貧困層」の場合は虐待の開始時期が「小学生の時」,「普通層」の場合は「中学生以後」がそれぞれ有意に多くなっている。

表23 家庭の経済状況と虐待の開始時期

	経済状況	虐待の開始時期			合計	検定の結果	
		小学校入学前	小学生の時	中学生以後		P値	判定
男子	貧困	95 (37.1) △ [2.1]	147 (57.4) [0.7]	14 (5.5) ▼ [-4.0]	256 (100.0)	0.000	**
	普通	207 (30.1) ▼ [-2.0]	374 (54.4) [-1.1]	107 (15.6) △ [4.4]	688 (100.0)		
	富裕	8 (30.8) [-0.1]	17 (65.4) [1.0]	1 (3.8) [-1.4]	26 (100.0)		
	総数	310 (32.0)	538 (55.5)	122 (12.6)	970		
女子	貧困	18 (43.9)	18 (43.9)	5 (12.2)	41 (100.0)	m 0.524	
	普通	23 (32.4)	35 (49.3)	13 (18.3)	71 (100.0)		
	富裕	3 (60.0)	2 (40.0)	-	5 (100.0)		
	総数	44 (37.6)	55 (47.0)	18 (15.4)	117		

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 「いつだったか覚えていない」及び無回答を除く。

3 「中学生以後」とは,「中学生の時」及び「中学卒業後」を併せたものである。

4 「判定」欄の「\*\*」は有意水準1%以下で,有意差が見られることを示す。

5 表21の注3・5・6に同じ。

表24 家庭の経済状況と虐待の開始時期（虐待の種類別）

	虐待の種類	経済状況	虐待の開始時期			合計	検定の結果	
			小学校入学前	小学生の時	中学生以後		P値	判定
男子	身体的虐待 ①（軽度）	貧困	79 (38.0)	119 (57.2)	10 (4.8)	208 (100.0)	0.052	
		普通	201 (33.7)	326 (54.6)	70 (11.7)	597 (100.0)		
		富裕	8 (34.8)	14 (60.9)	1 (4.3)	23 (100.0)		
		総数	288 (34.8)	459 (55.4)	81 (9.8)	828		
	身体的虐待 ②（重度）	貧困	44 (27.7) [0.7]	101 (63.5) △ [3.1]	14 (8.8) ▼ [-4.5]	159 (100.0)	m 0.000	**
		普通	94 (24.8) [-0.6]	184 (48.5) ▼ [-3.3]	101 (26.6) △ [4.6]	379 (100.0)		
		富裕	3 (21.4) [-0.4]	9 (64.3) [0.8]	2 (14.3) [-0.6]	14 (100.0)		
		総数	141 (25.5)	294 (53.3)	117 (21.2)	552		
	性的虐待 ①（接触）	貧困	3 (60.0)	2 (40.0)	-	5 (100.0)	f 0.524	
		普通	1 (20.0)	4 (80.0)	-	5 (100.0)		
		富裕	-	-	-	-		
		総数	4 (40.0)	6 (60.0)	-	10		
	性的虐待 ②（性交）	貧困	-	1 (100.0)	-	1 (100.0)	f 1.000	
		普通	-	-	1 (100.0)	1 (100.0)		
		富裕	-	-	-	-		
		総数	-	1 (50.0)	1 (50.0)	2		
ネグレクト	貧困	11 (27.5)	19 (47.5)	10 (25.0)	40 (100.0)	m 0.148		
	普通	6 (10.7)	25 (44.6)	25 (44.6)	56 (100.0)			
	富裕	1 (33.3)	1 (33.3)	1 (33.3)	3 (100.0)			
	総数	18 (18.2)	45 (45.5)	36 (36.4)	99			

	虐待の種類	経済状況	虐待の開始時期			合計	検定の結果	
			小学校入学前	小学生の時	中学生以後		P値	判定
女子	身体的虐待 ①（軽度）	貧困	17 (43.6)	17 (43.6)	5 (12.8)	39 (100.0)	m 0.819	
		普通	20 (34.5)	31 (53.4)	7 (12.1)	58 (100.0)		
		富裕	2 (50.0)	2 (50.0)	-	4 (100.0)		
		総数	39 (38.6)	50 (49.5)	12 (11.9)	101 (100.0)		
	身体的虐待 ②（重度）	貧困	11 (42.3)	11 (42.3)	4 (15.4)	26 (100.0)	m 0.339	
		普通	12 (29.3)	18 (43.9)	11 (26.8)	41 (100.0)		
		富裕	1 (20.0)	4 (80.0)	-	5 (100.0)		
		総数	24 (33.3)	33 (45.8)	15 (20.8)	72 (100.0)		
	性的虐待 ①（接触）	貧困	-	3 (60.0)	2 (40.0)	5 (100.0)	m 0.279	
		普通	-	-	3 (100.0)	3 (100.0)		
		富裕	-	1 (50.0)	1 (50.0)	2 (100.0)		
		総数	-	4 (40.0)	6 (60.0)	10 (100.0)		
	性的虐待 ②（性交）	貧困	-	1 (100.0)	-	1 (100.0)	-	-
		普通	-	-	-	-		
		富裕	-	-	-	-		
		総数	-	1 (100.0)	-	1 (100.0)		
ネグレクト	貧困	2 (28.6)	4 (57.1)	1 (14.3)	7 (100.0)	m 1.000		
	普通	2 (18.2)	6 (54.5)	3 (27.3)	11 (100.0)			
	富裕	-	-	-	-			
	総数	4 (22.2)	10 (55.6)	4 (22.2)	18 (100.0)			

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 「判定」欄の「\*\*」は有意水準1%以下で、有意差が見られることを示し、「-」は、検定ができなかったことをそれぞれ示す。

「P値」欄の「m」は、モンテカルロ法を、「f」は、フィッシャーの直接確率検定によることを示す。

3 表21の注3・6に同じ。

4 表23の注2・3に同じ。

## ウ 被虐待期間との関連

表25は、第3の2の(1)で設定した被虐待期間と経済状況との関連について、虐待の種類ごとに男女別に見たものであり、身体的虐待①（軽度）の男子、身体的虐待②（重度）の男女について有意な関連が認められた。男子では、「貧困層」の場合に「小学生までの虐待」が有意に多く、「普通層」の場合に「中学生からの虐待」が有意に多かった。②（重度）の女子では、「貧困層」の場合に「小学生までの虐待」が有意に多かった。



表25 家庭の経済状況と被虐待期間

	虐待の種類	経済状況	被虐待期間			合計	検定の結果	
			小学生 までの 虐待	中学生 からの 虐待	早発・ 長期間の 虐待		P値	判定
男子	身体的虐待 ①（軽度）	貧困	79 (38.9) △ [3.5]	10 (4.9) ▼ [-2.8]	114 (56.2) [-1.5]	203 (100.0)	0.001	**
		普通	153 (26.0) ▼ [-3.4]	70 (11.9) △ [3.0]	366 (62.1) [1.4]	589 (100.0)		
		富裕	7 (31.8) [0.3]	1 (4.5) [-0.9]	14 (63.6) [0.3]	22 (100.0)		
		総数	239 (29.4)	81 (10.0)	494 (60.7)	814 (100.0)		
	身体的虐待 ②（重度）	貧困	49 (31.2) △ [4.1]	14 (8.9) ▼ [-4.5]	94 (59.9) [0.4]	157 (100.0)	m 0.000	**
		普通	59 (15.7) ▼ [-3.8]	101 (26.9) △ [4.6]	215 (57.3) [-0.8]	375 (100.0)		
		富裕	2 (14.3) [-0.6]	2 (14.3) [-0.7]	10 (71.4) [1.0]	14 (100.0)		
		総数	110 (20.1)	117 (21.4)	319 (58.4)	546 (100.0)		
	性的虐待 ①（接触）	貧困	5 (100.0)	-	-	5 (100.0)	f 0.444	
		普通	3 (3.0)	-	2 (2.0)	5 (100.0)		
		富裕	-	-	-	-		
		総数	8 (80.0)	-	2 (20.0)	10 (100.0)		
性的虐待 ②（性交）	貧困	1 (100.0)	-	-	1 (100.0)	f 1.000		
	普通	-	1 (100.0)	-	1 (100.0)			
	富裕	-	-	-	-			
	総数	1 (50.0)	1 (50.0)	-	2 (100.0)			
ネグレクト	貧困	14 (35.9)	10 (25.6)	15 (38.5)	39 (100.0)	m 0.214		
	普通	12 (21.4)	25 (44.6)	19 (33.9)	56 (100.0)			
	富裕	-	1 (33.3)	2 (66.7)	3 (100.0)			
	総数	26 (26.5)	36 (36.7)	36 (36.7)	98 (100.0)			

	虐待の種類	経済状況	被虐待期間			合計	検定の結果	
			小学生 までの 虐待	中学生 からの 虐待	早発・ 長期間の 虐待		P値	判定
女子	身体的虐待 ①（軽度）	貧困	11 (28.2)	5 (12.8)	23 (59.0)	39 (100.0)	m 0.149	
		普通	6 (10.9)	7 (12.7)	42 (76.4)	55 (100.0)		
		富裕	-	-	4 (100.0)	4 (100.0)		
		総数	17 (17.3)	12 (12.2)	69 (70.4)	98 (100.0)		
身体的虐待 ②（重度）	貧困	10 (38.5) △ [2.8]	4 (15.4) [-0.9]	12 (46.2) [-1.6]	26 (100.0)	m 0.027	*	
	普通	5 (12.2) ▼ [-2.1]	11 (26.8) [1.4]	25 (61.0) [0.5]	41 (100.0)			
	富裕	- [-1.2]	- [-1.2]	5 (100.0) △ [2.0]	5 (100.0)			
	総数	15 (20.8)	15 (20.8)	42 (58.3)	72 (100.0)			
性的虐待 ①（接触）	貧困	1 (20.0)	2 (40.0)	2 (40.0)	5 (100.0)	m 0.379		
	普通	-	3 (100.0)	-	3 (100.0)			
	富裕	1 (50.0)	1 (50.0)	-	2 (100.0)			
	総数	2 (20.0)	6 (60.0)	2 (20.0)	10 (100.0)			
性的虐待 ②（性交）	貧困	-	-	1 (100.0)	1 (100.0)	-	-	
	普通	-	-	-	- (100.0)			
	富裕	-	-	-	-			
	総数	-	-	1 (100.0)	1 (100.0)			
ネグレクト	貧困	4 (57.1)	1 (14.3)	2 (28.6)	7 (100.0)	m 0.703		
	普通	4 (36.4)	3 (27.3)	4 (36.4)	11 (100.0)			
	富裕	-	-	-	-			
	総数	8 (44.4)	4 (22.2)	6 (33.3)	18 (100.0)			

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 「判定」欄の「\*\*」は有意水準1%以下で、「\*」は有意水準5%以下で、それぞれ有意差が見られることを示し、「-」は、検定ができなかったことを示す。

「P値」欄の「m」は、モンテカルロ法を、「f」は、フィッシャーの直接確率検定によることを示す。

3 表21の注2・3・6に同じ。

## (2) 実父母の離婚

実父母の離婚の有無と被虐待経験の有無との関連を、虐待の種類ごとに男女別に示したものが表26である。

身体的虐待②（重度）の男子、ネグレクトの男女について統計的に有意な関連が認められ、いずれも実父母が離婚している場合に、被虐待経験がある者が有意に多かった。

表26 実父母離婚と被虐待経験の有無

	虐待の種類	実父母 離婚	被虐待経験の有無		合 計	検定の結果	
			なし	あり		P 値	判定
男子	身体的虐待 ①（軽度）	非 該 当	677 (58.0)	490 (42.0)	1,167 (100.0)	0.841	
		該 当	502 (57.6)	370 (42.4)	872 (100.0)		
		総 数	1,179 (57.8)	860 (42.2)	2,039 (100.0)		
	身体的虐待 ②（重度）	非 該 当	871 (74.2)	303 (25.8)	1,174 (100.0)	0.016	*
		該 当	607 (69.4)	268 (30.6)	875 (100.0)		
		総 数	1,478 (72.1)	571 (27.9)	2,049 (100.0)		
	性的虐待 ①（接触）	非 該 当	1,197 (99.4)	7 (0.6)	1,204 (100.0)	0.789	
		該 当	884 (99.3)	6 (0.7)	890 (100.0)		
		総 数	2,081 (99.4)	13 (0.6)	2,094 (100.0)		
	性的虐待 ②（性交）	非 該 当	1,203 (99.9)	1 (0.1)	1,204 (100.0)	f 0.318	
		該 当	889 (99.7)	3 (0.3)	892 (100.0)		
		総 数	2,092 (99.8)	4 (0.2)	2,096 (100.0)		
ネグレクト	非 該 当	1,157 (96.4)	43 (3.6)	1,200 (100.0)	0.001	**	
	該 当	829 (93.1)	61 (6.9)	890 (100.0)			
	総 数	1,986 (95.0)	104 (5.0)	2,090 (100.0)			

	虐待の種類	実父母 離婚	被虐待経験の有無		合 計	検定の結果	
			なし	あり		P 値	判定
女子	身体的暴力 ① (軽度)	非 該 当	56 (52.8)	50 (47.2)	106 (100.0)	0.676	
		該 当	56 (50.0)	56 (50.0)	112 (100.0)		
		総 数	112 (51.4)	106 (48.6)	218 (100.0)		
	身体的暴力 ② (重度)	非 該 当	76 (70.4)	32 (29.6)	108 (100.0)	0.085	
		該 当	67 (59.3)	46 (40.7)	113 (100.0)		
		総 数	143 (64.7)	78 (35.3)	221 (100.0)		
	性的暴力 ① (接触)	非 該 当	107 (96.4)	4 (3.6)	111 (100.0)	f 0.749	
		該 当	111 (94.9)	6 (5.1)	117 (100.0)		
		総 数	218 (95.6)	10 (4.4)	228 (100.0)		
	性的暴力 ② (性交)	非 該 当	111 (100.0)	-	111 (100.0)	f 1.000	
		該 当	117 (99.2)	1 (0.8)	118 (100.0)		
		総 数	228 (99.6)	1 (0.4)	229 (100.0)		
ネグレクト	非 該 当	107 (96.4)	4 (3.6)	111 (100.0)	0.013	*	
	該 当	103 (87.3)	15 (12.7)	118 (100.0)			
	総 数	210 (91.7)	19 (8.3)	229 (100.0)			

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 「P 値」欄の「f」は、フィッシャーの直接確率検定によることを示す。

3 ( ) 内は、構成比を示す。

4 表21の注2・4に同じ。

表22の分析で用いた虐待の6つの類型を用い、実父母の離婚との関連について男女別に示したものが表27である。男子について、統計的に有意な関連が認められ、実父母が離婚している場合は、「ネグレクトのみ」及び「身体的虐待・ネグレクト」の場合が有意に多く、「身体的虐待のみ」が有意に少ない。

表27 実父母離婚と虐待の種類

	実父母 離婚	虐 待 の 種 類						合 計	検定の結果	
		身体的 虐待 のみ	性的虐待 のみ	ネグ レクト のみ	身体的 虐待・ 性的 虐待	身体的 虐待・ ネグ レクト	身体的・ 性的虐待・ ネグ レクト		P 値	判定
男子	非該当	509 (91.4) △ [3.1]	2 (0.4) [0.4]	3 (0.5) ▼[-2.8]	3 (0.5) [-0.7]	39 (7.0) ▼[-2.1]	1  [-0.2]	557 (100.0)	m 0.012	*
	該 当	379 (85.2) ▼[-3.1]	1 (0.2) [-0.4]	12 (2.7) △ [2.8]	4 (0.9) [0.7]	48 (10.8) △ [2.1]	1 (0.2) [0.2]	445 (100.0)		
	総 数	888 (88.6)	3 (0.3)	15 (1.5)	7 (0.7)	87 (8.7)	2 (0.2)	1,002 (100.0)		
女子	非該当	49 (87.5)	-	1	3 (5.4)	2 (3.6)	1 (1.8)	56 (100.0)	m 0.062	
	該 当	47 (70.1)	1 (1.5)	2 (3.0)	5 (7.5)	12 (17.9)	-	67 (100.0)		
	総 数	96 (78.0)	1 (0.8)	3 (2.4)	8 (6.5)	14 (11.4)	1 (0.8)	123 (100.0)		

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 「判定」欄の「\*」は有意水準5%以下で有意差が見られることを示す。

3 表21の注2・5・6に同じ。

### (3) きょうだい数

#### ア きょうだい数との関連

回答者総数で見ると、きょうだいがいる者は約90%を占める。きょうだい数(回答者本人を含まない。)を「なし」、「1人」、「2人」及び「3人以上」の4つに分類して、被虐待経験の有無との関連を、虐待の種類ごとに男女別で示したものが表28である。

男女とも、身体的虐待①(軽度)で有意な関連が認められ、被虐待経験ありが、男女ともきょうだいが3人以上の場合に有意に少なくなっているほか、女子ではきょうだいなしの場合に有意に多くなっている。

表28 きょうだい数と被虐待経験の有無

	虐待の種類	きょうだい数	被虐待経験の有無		合計	検定の結果	
			なし	あり		P値	判定
男子	身体的虐待 ① (軽度)	なし	136 (52.9) [-1.7]	121 (47.1) [1.7]	257 (100.0)	0.032	*
		1人	446 (57.3) [-0.4]	332 (42.7) [0.4]	778 (100.0)		
		2人	369 (56.9) [-0.6]	280 (43.1) [0.6]	649 (100.0)		
		3人以上	228 (64.2) △ [2.7]	127 (35.8) ▼ [-2.7]	355 (100.0)		
		総数	1,179 (57.8)	860 (42.2)	2,039 (100.0)		
	身体的虐待 ② (重度)	なし	189 (72.4)	72 (27.6)	261 (100.0)	0.976	
		1人	560 (71.7)	221 (28.3)	781 (100.0)		
		2人	469 (72.7)	176 (27.3)	645 (100.0)		
		3人以上	260 (71.8)	102 (28.2)	362 (100.0)		
		総数	1,478 (72.1)	571 (27.9)	2,049 (100.0)		
	性的虐待 ① (接触)	なし	261 (99.2)	2 (0.8)	263 (100.0)	m 0.700	
		1人	792 (99.2)	6 (0.8)	798 (100.0)		
		2人	662 (99.7)	2 (0.3)	664 (100.0)		
		3人以上	366 (99.2)	3 (0.8)	369 (100.0)		
		総数	2,081 (99.4)	13 (0.6)	2,094 (100.0)		
	性的虐待 ② (性交)	なし	261 (99.2)	2 (0.8)	263 (100.0)	m 0.105	
		1人	797 (99.9)	1 (0.1)	798 (100.0)		
		2人	665 (100.0)	- (0.0)	665 (100.0)		
		3人以上	369 (99.7)	1 (0.3)	370 (100.0)		
		総数	2,092 (99.8)	4 (0.2)	2,096 (100.0)		
ネグレクト	なし	245 (93.5)	17 (6.5)	262 (100.0)	0.308		
	1人	759 (95.1)	39 (4.9)	798 (100.0)			
	2人	636 (96.1)	26 (3.9)	662 (100.0)			
	3人以上	346 (94.0)	22 (6.0)	368 (100.0)			
	総数	1,986 (95.0)	104 (5.0)	2,090 (100.0)			

	虐待の種類	きょうだい数	被虐待経験の有無		合計	検定の結果	
			なし	あり		P値	判定
女子	身体的虐待 ①(軽度)	なし	9 (33.3) ▼ [-2.0]	18 (66.7) △ [2.0]	27 (100.0)	0.030	*
		1人	42 (46.2) [-1.3]	49 (53.8) [1.3]	91 (100.0)		
		2人	37 (57.8) [1.2]	27 (42.2) [-1.2]	64 (100.0)		
		3人以上	24 (66.7) △ [2.0]	12 (33.3) ▼ [-2.0]	36 (100.0)		
		総数	112 (51.4)	106 (48.6)	218 (100.0)		
	身体的虐待 ②(重度)	なし	18 (64.3)	10 (35.7)	28 (100.0)	0.517	
		1人	54 (60.0)	36 (40.0)	90 (100.0)		
		2人	43 (66.2)	22 (33.8)	65 (100.0)		
		3人以上	28 (73.7)	10 (26.3)	38 (100.0)		
		総数	143 (64.7)	78 (35.3)	221 (100.0)		
	性的虐待 ①(接触)	なし	27 (93.1)	2 (6.9)	29 (100.0)	m 0.901	
		1人	88 (96.7)	3 (3.3)	91 (100.0)		
		2人	64 (95.5)	3 (4.5)	67 (100.0)		
		3人以上	39 (95.1)	2 (4.9)	41 (100.0)		
		総数	218 (95.6)	10 (4.4)	228 (100.0)		
	性的虐待 ②(性交)	なし	29 (100.0)	-	29 (100.0)	m 1.000	
		1人	90 (98.9)	1 (1.1)	91 (100.0)		
		2人	68 (100.0)	-	68 (100.0)		
		3人以上	41 (100.0)	-	41 (100.0)		
		総数	228 (99.6)	1 (0.4)	229 (100.0)		
ネグレクト	なし	27 (93.1)	2 (6.9)	29 (100.0)	m 0.223		
	1人	81 (89.0)	10 (11.0)	91 (100.0)			
	2人	66 (97.1)	2 (2.9)	68 (100.0)			
	3人以上	36 (87.8)	5 (12.2)	41 (100.0)			
	総数	210 (91.7)	19 (8.3)	229 (100.0)			

- 注 1 法務総合研究所の調査による。  
 2 表21の注2・5・6に同じ。  
 3 表27の注2に同じ。

## イ 第1子であることとの関連

第1子であることと被虐待経験の有無との関連を男女別に示したものが表29である。

表29 第1子と被虐待経験の有無

	第1子	被虐待経験の有無		合計	検定の結果	
		なし	あり		P値	判定
男子	非該当	658 (55.0)	539 (45.0)	1,197 (100.0)	0.000	**
	該当	367 (43.8)	470 (56.2)	837 (100.0)		
	総数	1,025 (50.4)	1,009 (49.6)	2,034 (100.0)		
女子	非該当	62 (51.2)	59 (48.8)	121 (100.0)	0.006	**
	該当	32 (32.7)	66 (67.3)	98 (100.0)		
	総数	94 (42.9)	125 (57.1)	219 (100.0)		

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 表21の注2に同じ。

3 表23の注4に同じ。

4 表26の注3に同じ。

男女ともに統計的に有意な関連が認められ、第1子である場合に被虐待経験ありが有意に多くなっている。さらにこれを虐待の種類ごとに男女別に示したものが表30である。男子では、身体的虐待①（軽度）、身体的虐待②（重度）及びネグレクトに、女子では、身体的虐待①（軽度）及び身体的虐待②（重度）について統計的に有意な関連が認められ、いずれも第1子である場合に被虐待経験ありが有意に多い。



表30 第1子と被虐待経験の有無

	虐待の種類	第1子	被虐待経験の有無		合計	検定の結果	
			なし	あり		P値	判定
男子	身体的虐待 ① (軽度)	非該当	756 (63.0)	444 (37.0)	1,200 (100.0)	0.000	**
		該当	423 (50.4)	416 (49.6)	839 (100.0)		
		総数	1,179 (57.8)	860 (42.2)	2,039 (100.0)		
	身体的虐待 ② (重度)	非該当	910 (75.1)	301 (24.9)	1,211 (100.0)	0.000	**
		該当	568 (67.8)	270 (32.2)	838 (100.0)		
		総数	1,478 (72.1)	571 (27.9)	2,049 (100.0)		
	性的虐待 ① (接触)	非該当	1,236 (99.4)	8 (0.6)	1,244 (100.0)	0.875	
		該当	845 (99.4)	5 (0.6)	850 (100.0)		
		総数	2,081 (99.4)	13 (0.6)	2,094 (100.0)		
	性的虐待 ② (性交)	非該当	1,243 (99.8)	2 (0.2)	1,245 (100.0)	f 1.000	
		該当	849 (99.8)	2 (0.2)	851 (100.0)		
		総数	2,092 (99.8)	4 (0.2)	2,096 (100.0)		
ネグレクト	非該当	1,194 (96.1)	48 (3.9)	1,242 (100.0)	0.005	**	
	該当	792 (93.4)	56 (6.6)	848 (100.0)			
	総数	1,986 (95.0)	104 (5.0)	2,090 (100.0)			

	虐待の種類	第1子	被虐待経験の有無		合計	検定の結果	
			なし	あり		P値	判定
女子	身体的虐待 ① (軽度)	非該当	75 (62.0)	46 (38.0)	121 (100.0)	0.000	**
		該当	37 (38.1)	60 (61.9)	97 (100.0)		
		総数	112 (51.4)	106 (48.6)	218 (100.0)		
	身体的虐待 ② (重度)	非該当	86 (71.1)	35 (28.9)	121 (100.0)	0.029	*
		該当	57 (57.0)	43 (43.0)	100 (100.0)		
		総数	143 (64.7)	78 (35.3)	221 (100.0)		
	性的虐待 ① (接触)	非該当	123 (96.1)	5 (3.9)	128 (100.0)	f 0.752	
		該当	95 (95.0)	5 (5.0)	100 (100.0)		
		総数	218 (95.6)	10 (4.4)	228 (100.0)		
性的虐待 ② (性交)	非該当	127 (99.2)	1 (0.8)	128 (100.0)	f 1.000		
	該当	101 (100.0)	-	101 (100.0)			
	総数	228 (99.6)	1 (0.4)	229 (100.0)			
ネグレクト	非該当	118 (92.2)	10 (7.8)	128 (100.0)	0.765		
	該当	92 (91.1)	9 (8.9)	101 (100.0)			
	総数	210 (91.7)	19 (8.3)	229 (100.0)			

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 表21の注2・4に同じ。

3 表26の注2・3に同じ。

#### ウ きょうだい順位と被虐待経験との関連

きょうだいの有無とその中における回答者の順位を、「第1子(きょうだいなし)」、「第1子(きょうだいあり)」及び「第2子以降」の3類型に分け、被虐待経験の有無との関連について、虐待の種類ごとに男女別に示したものが表31である。

男子については、身体的虐待①(軽度)、身体的虐待②(重度)、ネグレクト、女子については、身体的虐待①(軽度)で有意な関連が認められ、残差分析の結果、被虐待経験ありは第1子(きょうだいあり)の場合に有意に多く、第2子以降の場合に有意に少ない。女子については、これに加え第1子(きょうだいなし)の場合にも有意に多い。

表31 きょうだい順位と被虐待経験の有無

	虐待の種類	きょうだい順位	被虐待経験の有無		合計	検定の結果	
			なし	あり		P値	判定
男子	身体的虐待 ① (軽度)	第1子 (きょうだいなし)	136 (52.9) [-1.7]	121 (47.1) [1.7]	257 (100.0)	0.000	**
		第1子 (きょうだいあり)	287 (49.3) ▼[-4.9]	295 (50.7) △[4.9]	582 (100.0)		
		第2子以降	756 (63.0) △[5.7]	444 (37.0) ▼[-5.7]	1,200 (100.0)		
		総数	1,179 (57.8)	860 (42.2)	2,039 (100.0)		
	身体的虐待 ② (重度)	第1子 (きょうだいなし)	189 (72.4) [0.1]	72 (27.6) [-0.1]	261 (100.0)	0.000	**
		第1子 (きょうだいあり)	379 (65.7) ▼[-4.1]	198 (34.3) △[4.1]	577 (100.0)		
		第2子以降	910 (75.1) △[3.7]	301 (24.9) ▼[-3.7]	1,211 (100.0)		
		総数	1,478 (72.1)	571 (27.9)	2,049 (100.0)		
	性的虐待 ① (接触)	第1子 (きょうだいなし)	261 (99.2)	2 (0.8)	263 (100.0)	m 0.937	
		第1子 (きょうだいあり)	584 (99.5)	3 (0.5)	587 (100.0)		
		第2子以降	1,236 (99.4)	8 (0.6)	1,244 (100.0)		
		総数	2,081 (99.4)	13 (0.6)	2,094 (100.0)		
	性的虐待 ② (性交)	第1子 (きょうだいなし)	261 (99.2)	2 (0.8)	263 (100.0)	m 0.065	
		第1子 (きょうだいあり)	588 (100.0)	-	588 (100.0)		
		第2子以降	1,243 (99.8)	2 (0.2)	1,245 (100.0)		
		総数	2,092 (99.8)	4 (0.2)	2,096 (100.0)		
ネグレクト	第1子 (きょうだいなし)	245 (93.5) [-1.2]	17 (6.5) [1.2]	262 (100.0)	0.018	*	
	第1子 (きょうだいあり)	547 (93.3) ▼[-2.2]	39 (6.7) △[2.2]	586 (100.0)			
	第2子以降	1,194 (96.1) △[2.8]	48 (3.9) ▼[-2.8]	1,242 (100.0)			
	総数	1,986 (95.0)	104 (5.0)	2,090 (100.0)			

	虐待の種類	きょうだい順位	被虐待経験の有無		合計	検定の結果	
			なし	あり		P値	判定
女子	身体的虐待 ①（軽度）	第1子（きょうだいなし）	9 (33.3) ▼[-2.0]	18 (66.7) △[2.0]	27 (100.0)	0.002	**
		第1子（きょうだいあり）	28 (40.0) ▼[-2.3]	42 (60.0) △[2.3]	70 (100.0)		
		第2子以降	75 (62.0) △[3.5]	46 (38.0) ▼[-3.5]	121 (100.0)		
		総数	112 (51.4)	106 (48.6)	218 (100.0)		
身体的虐待 ②（重度）	身体的虐待 ②（重度）	第1子（きょうだいなし）	18 (64.3)	10 (35.7)	28 (100.0)	0.059	
		第1子（きょうだいあり）	39 (54.2)	33 (45.8)	72 (100.0)		
		第2子以降	86 (71.1)	35 (28.9)	121 (100.0)		
		総数	143 (64.7)	78 (35.3)	221 (100.0)		
性的虐待 ①（接触）	性的虐待 ①（接触）	第1子（きょうだいなし）	27 (93.1)	2 (6.9)	29 (100.0)	m 0.807	
		第1子（きょうだいあり）	68 (95.8)	3 (4.2)	71 (100.0)		
		第2子以降	123 (96.1)	5 (3.9)	128 (100.0)		
		総数 (95.6)	218 (4.4)	10 (100.0)	228 (100.0)		
性的虐待 ②（性交）	性的虐待 ②（性交）	第1子（きょうだいなし）	29 (100.0)	-	29 (100.0)	m 1.000	
		第1子（きょうだいあり）	72 (100.0)	-	72 (100.0)		
		第2子以降	127 (99.2)	1 (0.8)	128 (100.0)		
		総数	228 (99.6)	1 (0.4)	229 (100.0)		
ネグレクト	ネグレクト	第1子（きょうだいなし）	27 (93.1)	2 (6.9)	29 (100.0)	0.858	
		第1子（きょうだいあり）	65 (90.3)	7 (9.7)	72 (100.0)		
		第2子以降	118 (92.2)	10 (7.8)	128 (100.0)		
		総数	210 (91.7)	19 (8.3)	229 (100.0)		

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 表21の注2・4・5・6に同じ。

第1子かどうかということと、虐待の最もひどい加害者との関連を、虐待の種類ごとに男女別に見たものが表32である。なお、ここでは最もひどい被害を与えた人を尋ねた問3のbに対する回答のうち、実父と義父を併せて「父」（以下、本稿において同じ。）及び実母と義母を併せて「母」（以下、本稿において同じ。）並びに祖父及び祖母を併せて「祖父母」（以下、本稿において同じ。）とする。

表32 第1子と最もひどい加害者

	虐待の種類	第1子	最もひどい加害者			合計	検定の結果	
			父	母	祖父母		P値	判定
男子	身体的虐待 ①（軽度）	非該当	307 (75.1) △ [3.2]	92 (22.5) ▼ [-3.1]	10 (2.4) [-0.5]	409 (100.0)	0.005	**
		該当	238 (64.5) ▼ [-3.2]	120 (32.5) △ [3.2]	11 (3.0) [0.5]	369 (100.0)		
		総数	545 (70.1)	212 (27.2)	21 (2.7)	778 (100.0)		
	身体的虐待 ②（重度）	非該当	244 (85.6)	35 (12.3)	6 (2.1)	285 (100.0)	m 0.253	
		該当	205 (82.0)	42 (16.8)	3 (1.2)	250 (100.0)		
		総数	449 (83.9)	77 (14.4)	9 (1.7)	535 (100.0)		
	性的虐待 ①（接触）	非該当	3 (37.5)	5 (62.5)	-	8 (100.0)	f 1.000	
		該当	2 (40.0)	3 (60.0)	-	5 (100.0)		
		総数	5 (38.5)	8 (61.5)	-	13 (100.0)		
	性的虐待 ②（性交）	非該当	2 (100.0)	-	-	2 (100.0)	-	-
		該当	1 (100.0)	-	-	1 (100.0)		
		総数	3 (100.0)	-	-	3 (100.0)		
ネグレクト	非該当	20 (43.5)	25 (54.3)	1 (2.2)	46 (100.0)	m 0.778		
	該当	23 (41.8)	29 (52.7)	3 (5.5)	55 (100.0)			
	総数	43 (42.6)	54 (53.5)	4 (4.0)	101 (100.0)			

	虐待の種類	第1子	最もひどい加害者			合計	検定の結果	
			父	母	祖父母		P値	判定
女子	身体的虐待 ①（軽度）	非該当	23 (50.0)	21 (45.7)	2 (4.3)	46 (100.0)	m 1.000	
		該当	28 (51.9)	24 (44.4)	2 (3.7)	54 (100.0)		
		総数	51 (51.0)	45 (45.0)	4 (4.0)	100 (100.0)		
	身体的虐待 ②（重度）	非該当	20 (57.1)	14 (40.0)	1 (2.9)	35 (100.0)	m 0.739	
		該当	20 (48.8)	20 (48.8)	1 (2.4)	41 (100.0)		
		総数	40 (52.6)	34 (44.7)	2 (2.6)	76 (100.0)		
	性的虐待 ①（接触）	非該当	3 (75.0)	1 (25.0)	-	4 (100.0)	f 0.444	
		該当	5 (100.0)	-	-	5 (100.0)		
		総数	8 (88.9)	1 (11.1)	-	9 (100.0)		
	性的虐待 ②（性交）	非該当	1 (100.0)	-	-	1 (100.0)	-	-
		該当	-	-	-	-		
		総数	1 (100.0)	-	-	1 (100.0)		
ネグレクト	非該当	6 (66.7) △ [3.0]	3 (33.3) ▼ [-3.0]	-	9 (100.0)	f 0.009	**	
	該当	- ▼ [-3.0]	9 (100.0) △ [3.0]	-	9 (100.0)			
	総数	6 (33.3)	12 (66.7)	-	18 (100.0)			

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 「父」とは、実父及び義父のことをいい、「母」とは、実母及び義母のことをいい、「祖父母」とは、祖父及び祖母のことをいう。

3 表21の注2・6に同じ。

4 表24の注2に同じ。

身体的虐待①（軽度の）男子及びネグレクトの女子に統計的な有意な関連が認められた。第1子である場合、最もひどい加害者は母であるとする者が有意に多い。

#### (4) 父母の負因

本調査では、実父、義父、実母、義母、きょうだい、祖父及び祖母のそれぞれについて、「犯罪／非行」、「酒乱／アル中」及び「薬物使用」の有無を調べた。以下の分析では、個々の家族成員について、この3項目のどれか1つにでも該当する場合、その人に「負因あり」とし、1つも該当しない場合を「負因なし」とする。

##### ア 父の負因

父の負因の有無と被虐待経験の有無の関連を、虐待の種類ごとに男女別に見たものが表33である。

身体的虐待②（重度）の男子について統計的に有意な関連が認められ、「負因あり」の場合に被虐待経験ありが有意に多い。

表33 父の負因と被虐待経験の有無

	虐待の種類	被虐待経験の有無	父の負因		合計	検定の結果	
			なし	あり		P値	判定
男子	身体的虐待①（軽度）	なし	1,024 (86.9)	155 (13.1)	1,179 (100.0)	0.409	
		あり	736 (85.6)	124 (14.4)	860 (100.0)		
		総数	1,760 (86.3)	279 (13.7)	2,039 (100.0)		
	身体的虐待②（重度）	なし	1,294 (87.6)	184 (12.4)	1,478 (100.0)	0.013	*
		あり	476 (83.4)	95 (16.6)	571 (100.0)		
		総数	1,770 (86.4)	279 (13.6)	2,049 (100.0)		
	性的虐待①（接触）	なし	1,797 (86.4)	284 (13.6)	2,081 (100.0)	f 1.000	
		あり	12 (92.3)	1 (7.7)	13 (100.0)		
		総数	1,809 (86.4)	285 (13.6)	2,094 (100.0)		
	性的虐待②（性交）	なし	1,808 (86.4)	284 (13.6)	2,092 (100.0)	f 0.443	
		あり	3 (75.0)	1 (25.0)	4 (100.0)		
		総数	1,811 (86.4)	285 (13.6)	2,096 (100.0)		
ネグレクト	なし	1,714 (86.3)	272 (13.7)	1,986 (100.0)	0.531		
	あり	92 (88.5)	12 (11.5)	104 (100.0)			
	総数	1,806 (86.4)	284 (13.6)	2,090 (100.0)			

	虐待の種類	被虐待経験の有無	父の負因		合計	検定の結果	
			なし	あり		P値	判定
女子	身体的虐待 ①（軽度）	なし	91 (81.3)	21 (18.8)	112 (100.0)	0.710	
		あり	84 (79.2)	22 (20.8)	106 (100.0)		
		総数	175 (80.3)	43 (19.7)	218 (100.0)		
	身体的虐待 ②（重度）	なし	113 (79.0)	30 (21.0)	143 (100.0)	0.590	
		あり	64 (82.1)	14 (17.9)	78 (100.0)		
		総数	177 (80.1)	44 (19.9)	221 (100.0)		
	性的虐待 ①（接触）	なし	175 (80.3)	43 (19.7)	218 (100.0)	f 1.000	
		あり	8 (80.0)	2 (20.0)	10 (100.0)		
		総数	183 (80.3)	45 (19.7)	228 (100.0)		
	性的虐待 ②（性交）	なし	184 (80.7)	44 (19.3)	228 (100.0)	f 0.197	
		あり	-	1 (100.0)	1 (100.0)		
		総数	184 (80.3)	45 (19.7)	229 (100.0)		
ネグレクト	なし	167 (79.5)	43 (20.5)	210 (100.0)	f 0.381		
	あり	17 (89.5)	2 (10.5)	19 (100.0)			
	総数	184 (80.3)	45 (19.7)	229 (100.0)			

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 「父」とは、実父及び義父のことをいい、「父の負因あり」とは、家族の負因の3項目の1つでも該当した場合をいう。

3 表21の注2に同じ。

4 表26の注2・3に同じ。

5 表27の注2に同じ。

## イ 母の負因

同様に母の負因の有無と被虐待経験の有無との関連を、虐待の種類ごとに男女別に見たものが表34である。身体的虐待①（軽度）の男子について統計的に有意な関連が認められ、「負因あり」の場合に被虐待経験ありが有意に少ない。



表34 母の負因と被虐待経験の有無

	虐待の種類	被虐待経験の有無	母の負因		合計	検定の結果	
			なし	あり		P値	判定
男子	身体的虐待 ① (軽度)	なし	1,129 (95.8)	50 (4.2)	1,179 (100.0)	0.005	**
		あり	843 (98.0)	17 (2.0)	860 (100.0)		
		総数	1,972 (96.7)	67 (3.3)	2,039 (100.0)		
	身体的虐待 ② (重度)	なし	1,424 (96.3)	54 (3.7)	1,478 (100.0)	0.173	
		あり	557 (97.5)	14 (2.5)	571 (100.0)		
		総数	1,981 (96.7)	68 (3.3)	2,049 (100.0)		
	性的虐待 ① (接触)	なし	2,013 (96.7)	68 (3.3)	2,081 (100.0)	f 1.000	
		あり	13 (100.0)	-	13 (100.0)		
		総数	2,026 (96.8)	68 (3.2)	2,094 (100.0)		
	性的虐待 ② (性交)	なし	2,024 (96.7)	68 (3.3)	2,092 (100.0)	f 1.000	
		あり	4 (100.0)	-	4 (100.0)		
		総数	2,028 (96.8)	68 (3.2)	2,096 (100.0)		
	ネグレクト	なし	1,923 (96.8)	63 (3.2)	1,986 (100.0)	0.385	
		あり	99 (95.2)	5 (4.8)	104 (100.0)		
		総数	2,022 (96.7)	68 (3.3)	2,090 (100.0)		
女子	身体的虐待 ① (軽度)	なし	104 (92.9)	8 (7.1)	112 (100.0)	0.200	
		あり	93 (87.7)	13 (12.3)	106 (100.0)		
		総数	197 (90.4)	21 (9.6)	218 (100.0)		
	身体的虐待 ② (重度)	なし	130 (90.9)	13 (9.1)	143 (100.0)	0.778	
		あり	70 (89.7)	8 (10.3)	78 (100.0)		
		総数	200 (90.5)	21 (9.5)	221 (100.0)		
	性的虐待 ① (接触)	なし	197 (90.4)	21 (9.6)	218 (100.0)	f 1.000	
		あり	9 (90.0)	1 (10.0)	10 (100.0)		
		総数	206 (90.4)	22 (9.6)	228 (100.0)		
	性的虐待 ② (性交)	なし	206 (90.4)	22 (9.6)	228 (100.0)	f 1.000	
		あり	1 (100.0)	-	1 (100.0)		
		総数	207 (90.4)	22 (9.6)	229 (100.0)		
	ネグレクト	なし	192 (91.4)	18 (8.6)	210 (100.0)	f 0.094	
		あり	15 (78.9)	4 (21.1)	19 (100.0)		
		総数	207 (90.4)	22 (9.6)	229 (100.0)		

- 注 1 法務総合研究所の調査による。  
 2 「母」とは、実母及び義母のことをいい、「母の負因あり」とは、家族の負因の3項目の1つでも該当した場合をいう。  
 3 表21の注2に同じ。  
 4 表23の注4に同じ。  
 5 表26の注2・3に同じ。

## 2 父母の養育態度と虐待

本調査では父及び母の養育態度について、「普通」、「放任」、「拒否」、「厳格」、「過干渉」、「期待過剰」、「溺愛」、「その他」及び「非該当」の9項目を挙げて、該当するものを重複選択により調査した。

表35は、父母の養育態度（「非該当」及び「その他」を除く。）と被虐待経験の有無との関連を男女別に示したものである。

父の養育態度は、被虐待経験ありの男子では、「拒否」及び「厳格」が有意に多く、「溺愛」が有意に少ない。また、女子では、「普通」が有意に少ない。母の養育態度は、被虐待経験ありの男子では、「拒否」が有意に多く、「溺愛」が有意に少ないほか、女子では、「厳格」が有意に多く、「普通」が有意に少ない。

表36及び図32は、父母の養育態度と被虐待経験の有無との関連を、虐待の種類ごとに男女別に示したものである。全体的に見ると父母いずれの場合も、男女とも性的虐待を除き、有意に多いものは「拒否」あるいは「厳格」であり、有意に少ないものは「普通」あるいは「溺愛」である。

表35 父母の養育態度と被虐待経験の有無

	被虐待経験の有無	父の養育態度							
		総数	普通	放任	拒否	厳格	過干渉	期待過剰	溺愛
男子	なし	1,025	221 (21.6)	287 (28.0)	29 (2.8)	118 (11.5)	17 (1.7)	17 (1.7)	44 (4.3)
	あり	1,009	195 (19.3)	264 (26.2)	47 (4.7)	186 (18.4)	22 (2.2)	22 (2.2)	19 (1.9)
	合計	2,034	416 (20.5)	551 (27.1)	76 (3.7)	304 (14.9)	39 (1.9)	39 (1.9)	63 (3.1)
	p 値判定		0.212	0.352	0.030 *	0.000 **	0.391	0.333	0.002 **
女子	なし	94	23 (24.5)	11 (11.7)	-	12 (12.8)	2 (2.1)	1 (1.1)	3 (3.2)
	あり	125	15 (12.0)	23 (18.4)	3 (2.4)	23 (18.4)	3 (2.4)	2 (1.6)	7 (5.6)
	合計	219	38 (17.4)	34 (15.5)	3 (1.4)	35 (16.0)	5 (2.3)	3 (1.4)	10 (4.6)
	p 値判定		0.016 *	0.176	0.262 f	0.260	1.000 f	1.000 f	0.521 f
	被虐待経験の有無	母の養育態度							
		総数	普通	放任	拒否	厳格	過干渉	期待過剰	溺愛
男子	なし	1025	306 (29.9)	267 (26.0)	30 (2.9)	36 (3.5)	80 (7.8)	39 (3.8)	141 (13.8)
	あり	1009	315 (31.2)	244 (24.2)	55 (5.5)	48 (4.8)	76 (7.5)	40 (4.0)	109 (10.8)
	合計	2034	621 (30.5)	511 (25.1)	85 (4.2)	84 (4.1)	156 (7.7)	79 (3.9)	250 (12.3)
	p 値判定		0.504	0.322	0.004 **	0.158	0.817	0.852	0.043 *
女子	なし	94	33 (35.1)	20 (21.3)	3 (3.2)	3 (3.2)	11 (11.7)	6 (6.4)	4 (4.3)
	あり	125	19 (15.2)	36 (28.8)	9 (7.2)	15 (12.0)	22 (17.6)	5 (4.0)	8 (6.4)
	合計	219	52 (23.7)	56 (25.6)	12 (5.5)	18 (8.2)	33 (15.1)	11 (5.0)	12 (5.5)
	p 値判定		0.001 **	0.207	0.197	0.019 *	0.227	0.536 f	0.490

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 表は、養育態度のうち、「非該当」及び「その他」を除き、集計結果のうち、該当したものを表示している。

3 重複選択による。

4 ( ) 内は、総数に対する比率である。

5 表21の注2・4に同じ。

6 表26の注2に同じ。

表36 父母の養育態度

## ①父の養育態度

	虐待の種類	養育態度							
		総数	普通	放任	拒否	厳格	過干渉	期待過剰	溺愛
男子	身体的虐待 ①(軽度)	860	164 (19.1)	222 (25.8)	38 (4.4)	171 △(19.9)	20 (2.3)	20 (2.3)	15 ▼(1.7)
		判定				**			**
	身体的虐待 ②(重度)	571	108 (18.9)	147 (25.7)	33 △(5.8)	125 △(21.9)	11 (1.9)	14 (2.5)	12 (2.1)
		判定			**	**			
	性的虐待 ①(接触)	13	4 (30.8)	3 (23.1)	-	1 (7.7)	-	-	-
	性的虐待 ②(性交)	4	1 (25.0)	-	-	-	-	-	-
女子	身体的虐待 ①(軽度)	106	15 (14.2)	19 (17.9)	3 (2.8)	18 (17.0)	3 (2.8)	1 (0.9)	6 (5.7)
	身体的虐待 ②(重度)	78	7 ▼(9.0)	17 (21.8)	3 △(3.8)	15 (19.2)	2 (2.6)	2 (2.6)	2 (2.6)
		判定	*		*				
	性的虐待 ①(接触)	10	2 (20.0)	2 (20.0)	-	-	1 (10.0)	-	1 (10.0)
	性的虐待 ②(性交)	1	-	-	-	-	-	-	-
	ネグレクト	19	-	6 (31.6)	1 (5.3)	2 (10.5)	-	-	-

## ②母の養育態度

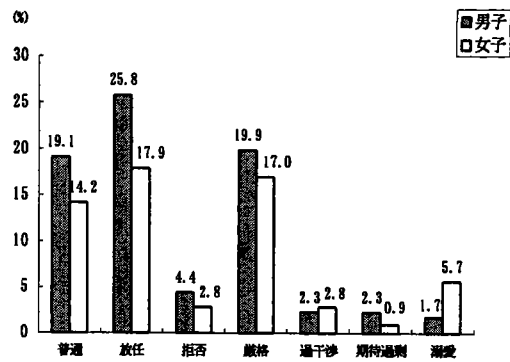
	虐待の種類	養育態度							
		総数	普通	放任	拒否	厳格	過干渉	期待過剰	溺愛
男子	身体的虐待 ①(軽度)	860	268 (31.2)	202 (23.5)	53 △(6.2)	43 (5.0)	65 (7.6)	34 (4.0)	93 (10.8)
		判定			**				
	身体的虐待 ②(重度)	571	182 (31.9)	135 (23.6)	31 (5.4)	28 (4.9)	37 (6.5)	17 (3.0)	58 (10.2)
	性的虐待 ①(接触)	13	5 (38.5)	3 (23.1)	2 (15.4)	-	1 (7.7)	1 (7.7)	1 (7.7)
	性的虐待 ②(性交)	4	2 (50.0)	1 (25.0)	2 △(50.0)	-	-	-	-
		判定			*				
女子	身体的虐待 ①(軽度)	106	16 ▼(15.1)	31 (29.2)	8 (7.5)	14 △(13.2)	19 (17.9)	4 (3.8)	7 (6.6)
		判定	**			*			
	身体的虐待 ②(重度)	78	10 ▼(12.8)	23 (29.5)	7 (9.0)	12 △(15.4)	15 (19.2)	3 (3.8)	6 (7.7)
		判定	**			**			
	性的虐待 ①(接触)	10	1 (10.0)	5 (50.0)	-	2 (20.0)	2 (20.0)	1 (10.0)	1 (10.0)
	性的虐待 ②(性交)	1	-	-	-	-	-	-	-
ネグレクト	19	3 (15.8)	9 (47.4)	1 (5.3)	1 (5.3)	3 (15.8)	-	2 (10.5)	

- 注 1 法務総合研究所の調査による。  
 2 重複選択による。  
 3 △は $\chi^2$ 検定の結果、有意に多いことを示し、▼は有意に少ないことを示す。  
 4 表21の注2・4に同じ。  
 5 表35の注2・4に同じ。

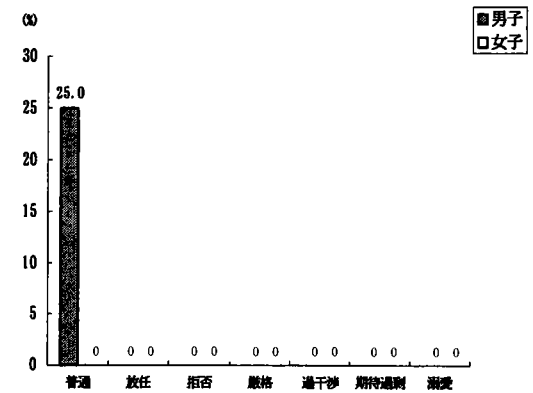
図32 父母の養育態度

1 父の養育態度

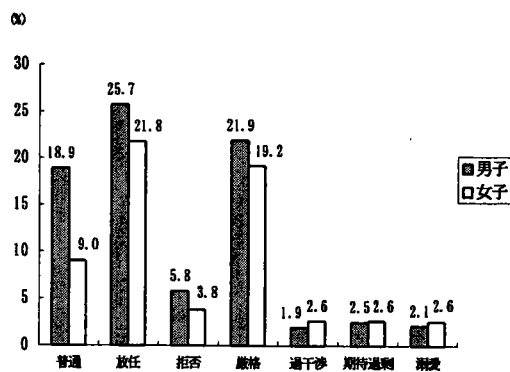
① 身体的虐待① (程度)



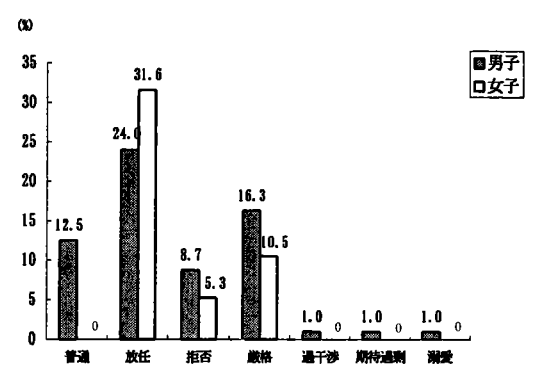
④ 性的虐待② (性交)



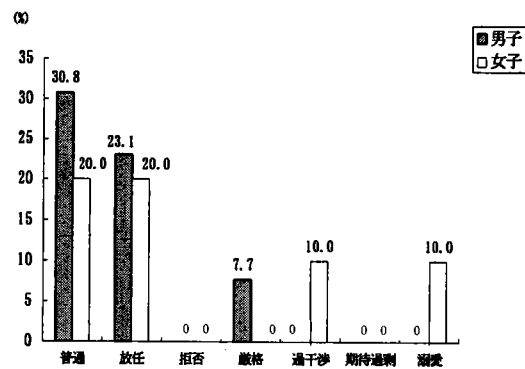
② 身体的虐待② (重傷)



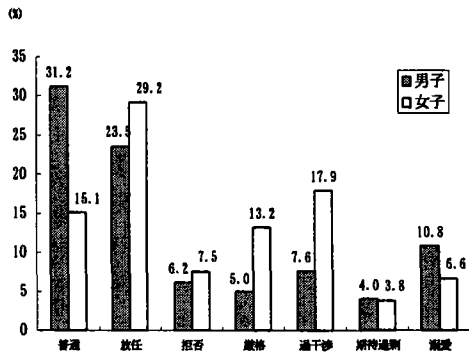
⑤ ネグレクト



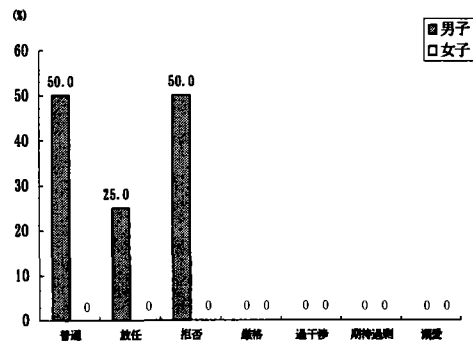
③ 性的虐待① (接触)



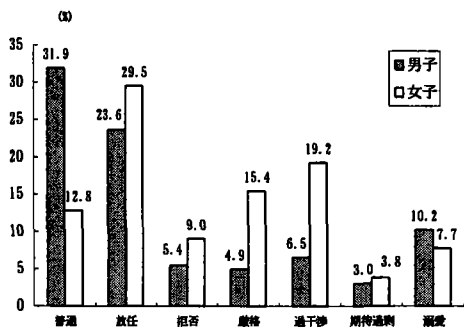
2 母の養育態度  
① 身体的虐待① (程度)



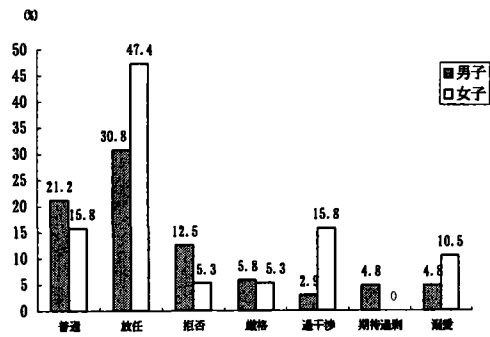
④性的虐待② (性交)



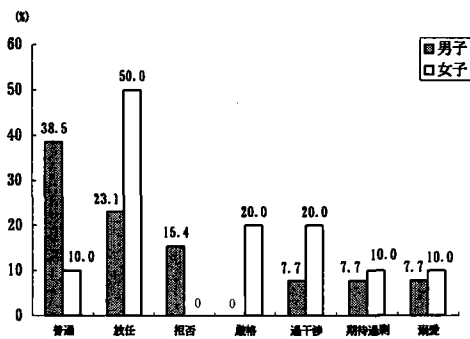
②身体的虐待② (重症)



⑤ネグレクト



③性的虐待① (接触)



- 注 1 法務総合研究所の調査による。
- 注 2 養育態度のうち、「非該当」及び「その他」を除き、集計結果のうち、「被害経験あり」に該当したものを表示している。
- 注 3 重複選択による。
- 注 4 表21の注2に同じ。

さらに父母の養育態度と被虐待経験の有無との関連について経済状況を軸にして、男女別に示したものが表37である。

これによると、統計的に有意差の見られたものとして、被虐待経験のある男子について、父の養育態度では、「貧困層」で「普通」が少なく「厳格」が多い。「普通層」では「溺愛」が少なく「厳格」が多い。「富裕層」では「溺愛」が少ない。母の養育態度では、「貧困層」で「拒否」が多く、「普通層」で「溺愛」が少ない。また、被虐待経験のある女子について、「普通層」で父母とも「普通」が少ないほか、母の養育態度については、「厳格」が多い。

表37 被虐待経験の有無と父母の養育態度（家庭の経済状況別）

## ① 父の養育態度

	家庭の 経済状況	被虐待経 験の有無	総数	普通	放任	拒否	厳格	過干渉	期待過剰	溺愛
男子	貧困	なし	279	31 (11.1)	78 (28.0)	7 (2.5)	13 (4.7)	1 (0.4)	-	5 (1.8)
		あり	260	7 (2.7)	74 (28.5)	13 (5.0)	27 (10.4)	3 (1.2)	-	4 (1.5)
		合計	539	38 (7.1)	152 (28.2)	20 (3.7)	40 (7.4)	4 (0.7)	-	9 (1.7)
		p 値 判定		0.000 **	0.897	0.126	0.011 *	0.357 <sup>f</sup>	-	1.000 <sup>f</sup>
	普通	なし	706	184 (26.1)	196 (27.8)	21 (3.0)	102 (14.4)	14 (2.0)	13 (1.8)	30 (4.2)
		あり	706	185 (26.2)	178 (25.2)	34 (4.8)	152 (21.5)	19 (2.7)	19 (2.7)	14 (2.0)
		合計	1,412	369 (26.1)	374 (26.5)	55 (3.9)	254 (18.0)	33 (2.3)	32 (2.3)	44 (3.1)
		p 値 判定		0.952	0.278	0.074	0.001 **	0.378	0.283	0.014 *
	富裕	なし	27	4 (14.8)	11 (40.7)	-	3 (11.1)	2 (7.4)	4 (14.8)	9 (33.3)
		あり	27	1 (3.7)	11 (40.7)	-	7 (25.9)	-	3 (11.1)	1 (3.7)
		合計	54	5 (9.3)	22 (40.7)	-	10 (18.5)	2 (3.7)	7 (13.0)	10 (18.5)
		p 値 判定		0.351 <sup>f</sup>	1.000	-	0.293 <sup>f</sup>	0.491 <sup>f</sup>	1.000 <sup>f</sup>	0.005 **
女子	貧困	なし	32	4 (12.5)	1 (3.1)	-	2 (6.3)	1 (3.1)	-	-
		あり	41	3 (7.3)	6 (14.6)	2 (4.9)	2 (4.9)	1 (2.4)	-	-
		合計	73	7 (9.6)	7 (9.6)	2 (2.7)	4 (5.5)	2 (2.7)	-	-
		p 値 判定		0.692 <sup>f</sup>	0.127 <sup>f</sup>	0.501 <sup>f</sup>	1.000 <sup>f</sup>	1.000 <sup>f</sup>	-	-
	普通	なし	57	17 (29.8)	10 (17.5)	-	10 (17.5)	1 (1.8)	1 (1.8)	3 (5.3)
		あり	77	10 (13.0)	17 (22.1)	1 (1.3)	20 (26.0)	2 (2.6)	1 (1.3)	6 (7.8)
		合計	134	27 (20.1)	27 (20.1)	1 (0.7)	30 (22.4)	3 (2.2)	2 (1.5)	9 (6.7)
		p 値 判定		0.016 *	0.518	1.000 <sup>f</sup>	0.247	1.000 <sup>f</sup>	1.000 <sup>f</sup>	0.732 <sup>f</sup>
	富裕	なし	3	2 (66.7)	-	-	-	-	-	-
		あり	5	2 (40.0)	-	-	1 (20.0)	-	1 (20.0)	1 (20.0)
		合計	8	4 (50.0)	-	-	1 (12.5)	-	1 (12.5)	1 (12.5)
		p 値 判定		1.000 <sup>f</sup>	-	-	1.000 <sup>f</sup>	-	1.000 <sup>f</sup>	1.000 <sup>f</sup>

## ② 母の養育態度

	家庭の 経済状況	被虐待経 験の有無	総数	普通	放任	拒否	厳格	過干渉	期待過剰	溺愛
男子	貧困	なし	279	53 (19.0)	109 (39.1)	12 (4.3)	10 (3.6)	10 (3.6)	9 (3.2)	25 (9.0)
		あり	260	47 (18.1)	93 (35.8)	23 (8.8)	8 (3.1)	16 (6.2)	3 (1.2)	24 (9.2)
		合計	539	100 (18.6)	202 (37.5)	35 (6.5)	18 (3.3)	26 (4.8)	12 (2.2)	49 (9.1)
		p 値 判定		0.784	0.429	0.032 *	0.743	0.164	0.145 <sup>f</sup>	0.913
	普通	なし	706	246 (34.8)	151 (21.4)	18 (2.5)	23 (3.3)	65 (9.2)	26 (3.7)	105 (14.9)
		あり	706	260 (36.8)	143 (20.3)	28 (4.0)	35 (5.0)	56 (7.9)	32 (4.5)	76 (10.8)
		合計	1412	506 (35.8)	294 (20.8)	46 (3.3)	58 (4.1)	121 (8.6)	58 (4.1)	181 (12.8)
		p 値 判定		0.437	0.600	0.134	0.108	0.392	0.421	0.021 *
	富裕	なし	27	4 (14.8)	7 (25.9)	-	2 (7.4)	5 (18.5)	4 (14.8)	11 (40.7)
		あり	27	5 (18.5)	6 (22.2)	2 (7.4)	5 (18.5)	3 (11.1)	5 (18.5)	7 (25.9)
		合計	54	9 (16.7)	13 (24.1)	2 (3.7)	7 (13.0)	8 (14.8)	9 (16.7)	18 (33.3)
		p 値 判定		1.000 <sup>f</sup>	0.750	0.491 <sup>f</sup>	0.420 <sup>f</sup>	0.704 <sup>f</sup>	1.000 <sup>f</sup>	0.248
女子	貧困	なし	32	6 (18.8)	11 (34.4)	1 (3.1)	2 (6.3)	3 (9.4)	2 (6.3)	1 (3.1)
		あり	41	5 (12.2)	18 (43.9)	4 (9.8)	4 (9.8)	6 (14.6)	1 (2.4)	4 (9.8)
		合計	73	11 (15.1)	29 (39.7)	5 (6.8)	6 (8.2)	9 (12.3)	3 (4.1)	5 (6.8)
		p 値 判定		0.518 <sup>f</sup>	0.409	0.377 <sup>f</sup>	0.689 <sup>f</sup>	0.722 <sup>f</sup>	0.578 <sup>f</sup>	0.377 <sup>f</sup>
	普通	なし	57	27 (47.4)	7 (12.3)	2 (3.5)	1 (1.8)	7 (12.3)	4 (7.0)	2 (3.5)
		あり	77	14 (18.2)	18 (23.4)	3 (3.9)	9 (11.7)	13 (16.9)	2 (2.6)	2 (2.6)
		合計	134	41 (30.6)	25 (18.7)	5 (3.7)	10 (7.5)	20 (14.9)	6 (4.5)	4 (3.0)
		p 値 判定		0.000 **	0.103	1.000 <sup>f</sup>	0.044 <sup>f</sup> *	0.460	0.401 <sup>f</sup>	1.000 <sup>f</sup>
	富裕	なし	3	-	-	-	-	1 (33.3)	-	1 (33.3)
		あり	5	-	-	1 (20.0)	2 (40.0)	3 (60.0)	2 (40.0)	2 (40.0)
		合計	8	-	-	1 (12.5)	2 (25.0)	4 (50.0)	2 (25.0)	3 (37.5)
		p 値 判定		-	-	1.000 <sup>f</sup>	0.464 <sup>f</sup>	1.000 <sup>f</sup>	0.464 <sup>f</sup>	1.000 <sup>f</sup>

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 重複選択による。

3 表21の注2・3に同じ。

4 表25の注2に同じ。

5 表26の注2に同じ。

6 表35の注2・4に同じ。



### 3 まとめ

- (1) 被虐待経験の有無と経済状況との関連では、男子のネグレクトについて有意な関連が認められ、「貧困層」に有意に多くなっている。
- (2) 被虐待経験の有無と虐待の開始時期との関連は、男子について有意であり、「貧困層」で虐待の開始時期が「小学校入学前」の場合が有意に多い。
- (3) 実父母離婚と被虐待経験の有無との関連では、身体的虐待②（重度）及びネグレクトの男子及びネグレクトの女子について有意な関連が認められた。
- (4) 被虐待経験の有無と回答者が第1子であることとの関連では、男女ともに有意な関連が認められた。さらに虐待の種類ごとにこの関連を見ると、男子は身体的虐待①（軽度）及び②（重度）及びネグレクト、女子は身体的虐待②（重度）について有意な関連が認められ、被虐待経験がある場合が有意に多い。
- (5) 被虐待経験の有無ときょうだい順位との関連では、男女ともに有意な関連が認められ、被虐待経験は、「第1子(きょうだいあり)」に該当する場合に有意に多く、「第2子以降」の場合に有意に少ない。
- (6) 第1子に対する最もひどい加害者としては、身体的虐待①（軽度）の男子及びネグレクトの女子で母が有意に多い。
- (7) 父母の負因と被虐待経験の有無との関連では、父の負因との関連で男子の身体的虐待②（重度）に、母の負因との関連では身体的虐待①（軽度）にそれぞれ有意な関連が認められた。
- (8) 父母の養育態度と被虐待経験の有無とは、有意な関連が認められ、父の養育態度において、有意に多いものは、身体的虐待①（軽度）の男子に対しては「厳格」、②（重度）の男子については「拒否」及び「厳格」であり、身体的虐待②（重度）の女子に対しては「拒否」であり、母の養育態度では、身体的虐待①（軽度）、性的虐待②（性交）及びネグレクトの男子に対しては「拒否」、身体的虐待①（軽度）及び②（重度）の女子に対しては「厳格」である。

### 4 考察

成長期の子供にとって保護者や家庭は重要な存在であり、精神面、物質面等多くを依存している子供に与える影響は計り知れない。しかしながら、親子の関係は大人から子供への一方通行ではなく双方向の関係であることから、親自身が家庭の経済状況や配偶者等との関係、あるいは育児の方法や子供との関係等について、何らかの不安や悩みを抱えている場合に、子供に身体的暴力等の加害行為を加えることもある一方、子供の側がかかえる問題や性格等が誘因となり虐待に至る場合があるなど、互いに影響し合う要因も十分考慮しなくてはならず、そのことがこの問題を複雑にしている。

今回は、家庭の経済状況、親の養育態度等、いくつかの観点から回答者の家庭状況等について被虐待経験のある者とない者を比較してみた。その結果によれば、全体的に一貫した傾向として指摘できるものは見られなかったが、例えば、経済状況が貧困であることや実父母の離婚といった家庭状況の不安定さを表すと思われる事項とネグレクトとの関連がうかがわれることなど、部分的にはいくつかの特徴が得られた。以下では、その中から、今後、家庭と虐待の問題を考えていく上で手がかりになるとと思われる点を2つ述べたい。

第1点としては、被虐待経験者で、父母の養育態度が「厳格」あるいは「拒否」とされる者が有意に多かったことである。このうち、親子としての関係自体を拒む「拒否」的な養育態度と虐待との間に何らかの関係があることは、容易に推測できることであるが、「厳格」については、それが必ずしも否定的な養育態度を意味するものではないだけに、解釈には慎重を要する。

今回の養育態度の調査については、少年簿、少年調査記録等の公的な資料等に基づいて、職員が該当する項目を選択する形で行ったため、各項目について、いつの時期のどのような行為があって選択されたかは特定できない。したがって、「厳格」とされた親の養育態度には、親として当然と思われるき然とした態度や、苛烈な体罰等を行しがちな態度等、さまざまな様相があるものと思われるが、ここでは「しつけ」との関連に留意したい。

全国児童相談所長会「全国児童相談所における家庭内虐待調査」（平成9年3月）によれば、虐待者（不明を含み、父母、きょうだい、祖父母等）の虐待に対する考え方について、『「身体的虐待」で「行為は認めるが主義（しつけなど）、信条によるとして虐待を認めない」ものが33.1%あり、3分の1が虐待かしつけかと認識のずれが問題となる』と述べている。虐待としつけとの境界をどこに置くかは、親子関係やその時々状況等により異なるものであり、また人それぞれの考えもあり、一律に決められるものではないことは事実である。しかし、「これはしつけだ」とする親により、本調査で身体的虐待②としてあげたような行為が繰り返されるようなことは、やはり問題であると思われることから、一つ一つの事例に則してしつけと虐待の境界を探ることを積み重ね、一般的なルールとして、両者を画す線を設定することが必要ではないかと考える。

第2点としては、第1子に被虐待経験者が有意に多かったことである。これは、身体的虐待①の男子とネグレクトの女子において、母親が第1子に対する最もひどい加害者である場合が有意に多いことと考え合わせると、第1子に対しては、母親の育児に対する不安や不満等親の側にストレスがあることが推察される。本年度当研究部が実施した児童虐待に関する研究会において、虐待の再発防止には、加害者に対する物心両面の援助が必要であるとする意見が出されていたが、その必要性を改めて確認した結果とも言える。

本調査と並行して行った一般青少年の面接結果によると、被虐待経験のある青少年の中には、将来自分が親になった時、自分の親と同じことを繰り返すのではないかと心配し、新しい家庭を持つことに消極的な者が見られた。いわゆる児童虐待の世代間連鎖については、今後の慎重な研究の成果に待たなければならないが、児童虐待は現在のみならず、将来の家庭問題にも係わるものであるとも言える。

今回調査した家庭状況は、取り上げた項目が少なく、ごく限定的なものであったので、今後は、親自身の被虐待経験の有無を含めた生育歴や親子関係、子育てに関する考え方、配偶者等の身近な人々との人間関係、さらには育児支援のための社会環境の整備状況等、さまざまな観点から検討する必要があると思われる。

## 第7 被害・被虐待経験と性格特性

### 1 分析の目的及び概要

ここでは、各種類の被害あるいは被虐待経験の有無と性格特性との関連を探ることとする。性格特性の指標として「法務省式人格目録（MJPI）」の得点を使用する。

手法としては、まず、被害種類ごとに、主として、なし群、家族被害群、被虐待群の3群間のMJPI得点の差を一元配置の分散分析及び多重比較により検定し、被害の種類や程度の差がどの性格特性の差と関連しているかを調べた。さらに、有意差の見られた性格特性については、どのような被害がより強く群間の性格特性の差に影響しているのかを探るため、性格特性を目的変数、被害の種類及び程度を説明変数とした重回帰分析を行った。

### 2 法務省式人格目録（MJPI）について

法務省式人格目録（MJPI）は、犯罪や非行に関係が深いとされている性格特性を測定することを目的として法務省矯正局により開発された自己報告法による性格検査であり、3つの妥当性尺度、10の臨床尺度から構成されている（表38。以下尺度名は表中の下線部で表す。）。

各尺度は粗点20点満点であるが、解釈においては平均50、標準偏差10に標準化したT得点を使用する。本分析において使用するのもT得点である。T得点が高いほど、各尺度で示される性格特性が強いことを表す。

表38 法務省式人格目録（MJPI）の各尺度名と尺度の示す性格特性

尺度名	尺度の示す性格特性
(妥当性尺度)	
虚構尺度	テストの結果を過度に良く見せようとし、そのために実行不可能なことでも行なうと反応する傾向
偏向尺度	テストを受ける構え、またはものの考え方や感じ方がいちじるしく偏っている傾向
自我防衛尺度	自分を守るために自分の弱点をかくし、よく見せようとする傾向
(臨床尺度)	
心気症傾向	自分の心身の変化に敏感であったり、些細なことにこだわり元気をなくするというような神経質、無気力、心気症的な傾向
自信欠如傾向	他人の評価を気にし、自分の能力や行動に自信を持ってない傾向
抑うつ傾向	些細なことに気が沈み、消極的、悲観的、絶望的になり、暗い気分が続く傾向
不安定傾向	周囲の状況に関係なく気分が変化したり、些細な刺激で行動が変わりやすい傾向
爆発傾向	短気で怒りや不満を抱きやすく、また攻撃的にふるまいやすい傾向
自己顕示傾向	自己中心的で支配欲が強かったり、他人から嫌われまいとして自分をよく見せようとする傾向
過活動傾向	刺激をすぐ行動に移したり、気軽で即行的にふるまったりする傾向
軽躁傾向	おおむねほがらかで人づき合いを好むというような楽天的な傾向
従属傾向	他からの働きかけに動かされやすく、自主性を欠く弱い依存的な傾向
偏狭傾向	自己中心的で社会に対する不平不満を持ち、被害感、不信感などが強い傾向

注 矯正局「法務省式人格目録解釈手引」による。

### 3 MJPI 各尺度の平均値の差の検定結果

#### (1) 被害種類別に見た場合

##### ア 全体

まず、MJPI 各尺度の T 得点の平均に、なし群・家族被害群・被虐待群で差があるかどうかを調べるために、被害種類別に一元配置の分散分析を行った。次に分散分析で有意差が見られた尺度において、平均値の差の検定を多重比較（ボンフェローニ法）で行った結果をまとめて示したものが表39である。ボンフェローニ法は、各群のケース数が等しいという仮定に基づかず、個々のペアの検定を厳しい有意確率で実行して、全体的な第1種の誤りが指定の値（たとえば、5%）を超えないことを保証する検定方法である。

表39 多重比較により T 得点の平均の差が有意となった群及び平均値の大小（被害種類別）

尺度名	身体的暴力①（軽度）	身体的暴力②（重度）	性的暴力①（接触）	性的暴力②（性交）	不適切な保護態度
	N；なし=816 家族被害=475 被虐待=966	N；なし=1,201 家族被害=420 被虐待=649	N；なし=2,260 家族被害=39 被虐待=23	N；なし=2,307 家族被害=13 被虐待=5	N；なし=2,135 家族被害=61 ネグレクト=123
虚構	なし・家族被害>被虐待	なし>被虐待			家族被害>被虐待
偏向			なし<家族被害		なし<被虐待
自我防衛	なし>被虐待	なし>被虐待			
心気症	なし<被虐待	なし<被虐待	なし<家族被害		なし<被虐待
自信欠如					
抑うつ	なし<被虐待	なし<被虐待			なし<被虐待
不安定	なし・家族被害<被虐待	なし・家族被害<被虐待			
爆発		なし<被虐待			
自己顕示	なし・家族被害<被虐待	なし・家族被害<被虐待			なし<被虐待
過活動					
軽躁	なし<被虐待				
従属					
偏狭	なし・家族被害<被虐待	なし<家族被害・被虐待	なし<家族被害		なし<被虐待

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 5%水準で有意差が認められた群の差の大小を不等号で示している。「・」で結ばれた群の間には有意差がないが、不等号ではさまれた群とはそれぞれが有意差を持つ。たとえば、「なし・家族被害<被虐待」は、「なし群は被虐待群と有意差があり、家族被害群も被虐待群と有意差があるが、なし群と家族被害群の間には有意差がない。」と読む。

4 統計量の詳細については資料2を参照のこと。

「自信欠如」、「従属」を除くすべての尺度に、少なくとも一つ以上の被害種類において、群間の差が認められた。その多くがなし群と被虐待群との差である。家族被害群は、他の2群との有意差が認められない場合が多く、また、有意差が認められる場合でも、尺度や被害種類により、なし群との差になったり、被虐待群との差になったりする。つまり、家族被害群はなし群と被虐待群との中間に位置することが多い。ただし、性的暴力①（接触）の被害については、なし群と家族被害群の差だけが見られる。性的暴力②（性交）の被害については、統計的な有意差が認められなかった。

有意差の認められた平均値の大小関係について見ると、性的暴力①（接触）を除き、臨床尺度においては、被虐待群が、一貫してなし群より高い値を示している。また、信頼性尺度の「虚構」、「自我防衛」においては、なし群の値の方が、「偏向」においては被虐待群の方が、高い値を示している（一部家族被害群との差になっている。）。「自我防衛」は、「神経質傾向を有し、それを率直に出す人」が低得点を取りやすいことが分かっており、被虐待群が、臨床尺度において高い得点を示す傾向があることと矛盾しない。

最も多くの被害種類において有意差が認められた臨床尺度は「偏狭」と「心気症」であり、性的暴力②（性交）以外のすべての被害種類において有意差が認められた。「抑うつ」、「自己顕示」は、身体的暴力①（軽度）、身体的暴力②（重度）、不適切な保護態度の3つの種類において有意差が認められた。

#### イ 男女別

今回の回答者には、MJPIの多くの尺度において男女差が認められる。女子の方が男子より、「偏向」、「心気症」、「自信欠如」、「抑うつ」、「不安定」、「爆発」、「自己顕示」及び「偏狭」において平均値が高く、「自我防衛」及び「軽躁」において低かった。有意差が見られなかったのは「虚構」、「過活動」及び「従属」だけであった（資料3参照）。少年院に収容されている女子は、男子に比べて神経質で過敏な傾向があると言える。その上で、被害や被虐待の体験の有無により性格傾向に差が認められるかどうか男女別に群間比較を行ったのが表40及び表41である（女子の性的暴力②（性交）についてはケース数が1の群が生じたため分析しなかった。）

表40 多重比較によりT得点の平均の差が有意となった群及び平均値の大小（男子）

尺度名	身体的暴力①（軽度） N；なし=758 家族被害=421 被虐待=860	身体的暴力②（重度） N；なし=1,109 家族被害=369 被虐待=571	性的暴力①(接触) N；なし=2,066 家族被害=15 被虐待=13	性的暴力②(性交) N；なし=2,089 家族被害=3 被虐待=4	不適切な保護態度 N；なし=1,930 家族被害=56 ネグレクト=104
虚構	なし・家族被害>被虐待	なし>被虐待			
偏向			なし<家族被害		
自我防衛	なし>被虐待	なし>被虐待			
心気症	なし<被虐待	なし<被虐待			なし<被虐待
自信欠如					
抑うつ	なし<被虐待	なし<被虐待			なし<被虐待
不安定	なし・家族被害<被虐待	なし・家族被害<被虐待			
爆発		なし<被虐待	なし<家族被害		
自己顕示	なし<被虐待	なし・家族被害<被虐待			
過活動					
軽躁	なし<被虐待				
従属					
偏狭	なし・家族被害<被虐待	なし<家族被害・被虐待	なし<家族被害		なし<被虐待

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 表39の注2・3に同じ。

3 統計量の詳細については、資料4を参照のこと。

表41 多重比較によりT得点の平均の差が有意となった群及び平均値の大小（女子）

尺度名	身体的暴力①（軽度） N；なし=58 家族被害=54 被虐待=106	身体的暴力②（重度） N；なし=92 家族被害=51 被虐待=78	性的暴力①（接触） N；なし=194 家族被害=24 被虐待=10	不適切な保護態度 N；なし=205 家族被害=5 ネグレクト=19
虚構				なし・被虐待<家族被害
偏向				
自我防衛				
心気症				
自信欠如				
抑うつ				
不安定			なし・被虐待>家族被害	
爆発				
自己顕示				
過活動			なし>家族被害	
軽躁				
従属				
偏狭				

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 表39の注2・3に同じ。

3 統計量の詳細については、資料5を参照のこと。

男子における結果は、全体に占める男子の比率を考えると当然のことながら、全体の結果とかなり類似している。身体的暴力①（軽度）における「自己顕示」が「なし・家族被害<被虐待」から「なし<被虐待」に変わったほか、不適切な保護態度における「虚構」、「偏向」、「自己顕示」の有意差及び性的暴力①（接触）における「心気症」の有意差がなくなり、「爆発」に有意差が見られるようになったことが全体の結果と異なる点である。

女子における結果には、ほとんど有意差が見られない。また、有意差が見られるのは家族被害群との間であり、家族被害群がなし群と被虐待群との中間に位置していない。データ数が少ない（特に「不適切な保護態度」において）群の影響が強い可能性もあり、結論を導くことは難しい。

以上のことから、男女別（特に女子のみ）の分析を進めることは困難であるが、一方、男子の分析のみ進めることも適当ではないと考えられるため、以下では全体の分析のみ行う。解釈にあたっては、データが女子のデータを加えた全体のデータであると同時に、主に男子の傾向を反映していることに留意する必要がある。

## （2）被害種類をまとめた場合

次に、被害の性質による影響をより明確にするために、(1)の被害種類の一部を「身体的暴力」、「性的暴力」にまとめた。身体的暴力①（軽度）と身体的暴力②（重度）のいずれの被害も被虐待も経験していない群を「身体的暴力」のなし群、どちらかあるいは両方で被害を経験しているがどちらでも被虐待は経験していない群を家族被害群、どちらかあるいは両方で被虐待を経験している群を被虐待群として、3群間の平均値の差を検定した。同様に、性的暴力①（接触）と性的暴力②（性交）の被害を「性的暴

表42 多重比較によりT得点の平均の差が有意となった群及び平均値の大小  
(被害種類をまとめた場合)

尺度名	身体的暴力 N；なし=630 家族被害=514 被虐待=1,109	性的暴力 N；なし=2,259 家族被害=39 被虐待=24	全被害 N；経験なし=613 家族被害経験=506 被虐待経験=1,134
虚構	なし・家族被害>被虐待		なし・家族被害>被虐待
偏向		なし<家族被害	
自我防衛	なし>家族被害・被虐待		なし>家族被害・被虐待
心気症	なし<被虐待	なし<家族被害	なし<被虐待
自信欠如			
抑うつ	なし<被虐待		なし<被虐待
不安定	なし・家族被害<被虐待		なし・家族被害<被虐待
爆発	なし<被虐待		なし<被虐待
自己顕示	なし・家族被害<被虐待		なし・家族被害<被虐待
過活動	家族被害<被虐待		家族被害<被虐待
軽躁			
従属			
偏狭	なし<被虐待	なし<家族被害	なし<被虐待

注 1 法務総合研究所の調査による。  
2 表39の注2・3に同じ。  
3 統計量の詳細については資料6を参照のこと。

力」としてまとめた。また、種類が何であれ、何らかの被害や虐待を受けた経験の有無が性格特性と関連しているかどうかを知るために、「全被害」の経験なし群、家族被害経験群、被虐待経験群の3群の差の検定も行った。これらの結果をまとめて示したものが表42である。

身体的暴力については、おおむね身体的暴力①（軽度）と身体的暴力②（重度）の結果を組み合わせたような結果となったが、身体的暴力①（軽度）で見られていた「軽躁」の有意差がなくなり、「過活動」での有意差が認められた。

性的暴力については、性的暴力②（性交）の被害者数が少なかったためと思われるが、性的暴力①（接触）の種類で見られたパターンと同じ結果になっている。

全被害についても、身体的暴力に比べて性的暴力を受けたケースが少なかったため、結果は身体的暴力のパターンとほぼ同じになっている。本調査における全被害の3群比較の結果は、およそ身体的暴力の3群を反映している可能性が高い。

### (3) 虐待の種類を組合せた場合

虐待の種類の影響を見るために、身体的虐待、性的虐待、ネグレクトの経験者を、受けた虐待の種類の手合わせにより、「身体的虐待のみ」、「性的虐待のみ」、「ネグレクト」、「身体的虐待+性的虐待」、「身体的虐待+ネグレクト」、「性的虐待+ネグレクト」及び「身体的虐待+性的虐待+ネグレクト」の7群に分けて群間比較を行った（資料7参照）。

その結果、「抑うつ」及び「偏狭」において、身体的虐待のみ群よりも、身体的虐待+ネグレクト群の値が有意に高いことが認められた。

#### (4) 虐待を受けた期間で見た場合

虐待を受けた期間によって性格特性が異なるかどうかを見るために、被虐待群を「小学生までの虐待」、  
「中学生からの虐待」及び「早発・長期間の虐待」の3群に分けて群間比較を行ったものが表43である（性的暴力②（性交）についてはケース数が1の群が生じたため分析しなかった。）。

有意差が見られた尺度は多くなかったが、性的虐待①においては、3つの尺度で早発・長期間の群との差が認められた。有意差の見られない尺度でも、性的虐待①における3群の平均値の差はかなり大きいものが多い。虐待の中でも、早い時期からの長期間にわたる性的虐待は、性格特性とより強く関連する可能性がある。

表43 虐待を受けた期間により有意差が見られた尺度（被害種類別）

尺度名	身体的虐待①（軽度） N；小学生まで=258 中学生から=94 早発・長期間=925	身体的虐待②（重度） N；小学生まで=126 中学生から=134 早発・長期間=369	性的虐待①（接触） N；小学生まで=11 中学生から=6 早発・長期間=4	ネグレクト N；小学生まで=34 中学生から=42 早発・長期間=42
虚構				
偏向				
自我防衛			小学生まで>早発・長期間	
心気症				
自信欠如			中学生から<早発・長期間	
抑うつ			小学生まで<早発・長期間	
不安定				
爆発				
自己顕示	小学生まで>中学生から			
過活動				
軽躁				小学生まで<早発・長期間
従属				
偏狭				

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 表39の注2・3に同じ。

3 統計量の詳細については資料8を参照のこと。

#### 4 MJPI 各尺度を目的変数とした重回帰分析

MJPIの値の変動が被害や被虐待経験の有無によって説明できるか、説明できるとしたらどの経験がより強く影響するのかを探るため、ここでは、MJPIの各尺度を目的変数とし、各被害種類のなし群、家族被害群、被虐待群をすべて一つ一つの説明変数として、重回帰分析を行った。3群それぞれを変数化するにあたっては、なし群を基準としたダミー変数を作成している。また、変数の選択にあたっては、ステップワイズ法を採用した。その結果、MJPIの各尺度を説明するのに有効であるとされた変数の係数をまとめたものが表44である。

採用された変数の数が最も多かったのは「偏狭」で、5つの変数が採用された。ネグレクト、身体的暴力②（重度）・被虐待、性的暴力①（接触）・被害、身体的暴力①（軽度）・虐待、身体的暴力②（重度）・



表44 重回帰分析により MJPI 各尺度の説明に有効であるとされた変数とその係数

尺度名	身体的暴力①(軽度)		身体的暴力②(重度)		性的暴力①(接触)		性的暴力②(性交)		不適切な保護態度	
	被害	虐待	被害	虐待	被害	虐待	被害	虐待	被害	ネグレクト
虚構		-1.83**							2.88*	
偏向					4.79**	4.44*				1.73*
自我防衛			-1.30*	-1.87**			-6.94*			
心気症		1.36**			3.97*					
自信欠如										
抑うつ							7.20*			2.71**
不安定				1.96**						
爆発				1.73**						
自己顕示		2.11**								1.99*
過活動		0.81*								1.78*
軽躁		1.09**					-6.55*			
従属										
偏狭		1.04*	1.14*	1.34*	4.35*					3.53**

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 表中の数字は、重回帰分析によって示された回帰式の係数である。正の値は、その変数が1大きくなると、当該 MJPI の尺度がその係数分大きくなることを、負の値は変数が大きくなると MJPI 尺度の値がその係数分小さくなることを示す。

4 表中の「\*」及び「\*\*」は、その係数がそれぞれ5%水準、1%水準で有意であったことを示す。

5 「自信欠如」及び「従属」に関しては、有意な回帰式は得られなかった。

6 統計量の詳細については、資料9を参照のこと。

家族被害、の順に標準化係数（その変数が目的変数に貢献している度合いを見る指標）が大きい。この回帰式は、保護者から繰り返し食事を与えられず、ささいな暴力もけがをするようなひどい暴力も繰り返し受け、保護者から1回あるいはきょうだいなどから1回以上性的にいたずらされた経験を持つ者は、そうした経験のない者に比べて「偏狭」のT得点が定数の49.95から60.21（=49.95+3.53+1.04+1.34+4.35）にまで上がる可能性を示唆している。次に多くの変数が採用されたのは「偏向」と「自我防衛」である。「偏向」においては、性的暴力①（接触）・家族被害、性的暴力①（接触）・被虐待及びネグレクトがT得点を上げる方向に働き、「自我防衛」においては、身体的暴力②（重度）・被虐待、身体的暴力②（重度）・家族被害及び性的暴力②（性交）・家族被害がT得点を下げる方向に働くという結果が出た。ただし、最も説明率の高い「偏狭」でも、上記変数による説明率はわずか2.4%であり、被害や被虐待経験の有無だけで性格傾向が説明できるのはごく一部である。

変数の側から見てみると、最も多くの尺度の説明に採用されたのは、身体的暴力①（軽度）・被虐待であり、「虚構」、「心気症」、「自己顕示」、「過活動」、「軽躁」及び「偏狭」の6つの尺度を説明するのに有意とされた。次に多かったのは、ネグレクトであった。性的暴力関係の変数は、採用された尺度の数が身体的暴力関係の変数や不適切な保護態度関係の変数よりも少なく、有意水準も緩やかな基準でしか採用されていないものの、係数の値が大きいのが特徴である。このことは、データ数の関係などから、今回の結果の確からしさは他の変数にくらべて十分ではないものの、性的被害や被虐待の有無が性格特性

により大きく影響する可能性を示している。

## 5 まとめ

この項では、家族から受けた被害や虐待の経験が、性格特性と関連しているかどうかを探るために、法務省式人格目録（MJPI）を性格特性の指標として、いくつかの分析を行った。

その結果の概要は以下のとおりである。

- ① なし群、家族被害群、被虐待群の3群間の差を調べた結果、MJPIの多くの尺度において有意差が見られた。このことは、家族から受けた被害や虐待の経験の有無によって性格特性の多くの面で差があることを示す。
- ② 身体的暴力、不適切な保護態度、性的暴力、どの種類の被害においてもいずれかの尺度で有意差が見られた。このことは、どのようなタイプの被害・被虐待経験においても、その有無によって性格特性に差があることを示す。
- ③ 有意差は主になし群と被虐待群との間に見られた。ただし、家族被害群との間にもいくつかの有意差が見られている。このことは、保護者から繰り返し受けた被害の経験の方が、それ以外の被害よりも大きな性格特性の差につながるものの、それ以外の被害であっても家族から受けた被害は性格特性の差につながり得ることを示す。
- ④ 有意差の見られた群の値の大小を見ると、臨床尺度においてはほぼ一貫して被虐待群の方がなし群よりも大きい。このことは、有意差の見られた尺度の特性から考えると、虐待を受けた経験がある者の方が、そうした経験のない者に比べて、神経質で被害感が強く抑うつ的である一方、落ち着きのない自己顕示的な性格特性を表しやすいことを示す。
- ⑤ 少年院在院中の女子は、全般に男子よりも神経質で過敏な性格傾向を示している。男女別に3群間の差を調べたところ、男子は全体と同様の傾向を示したが、女子においては、①から④の結果を、そのまま当てはめられる結果は得られなかった。原因としては、確からしいデータを得るだけの十分なデータ数がなかったことと、結果が男子とは異なるパターンを示すこととの、両方の可能性がある。
- ⑥ 被虐待経験を有する者のうち、虐待の種類を組み合わせ方や、虐待を受けた時期で群を分けた場合、一部において有意差が認められた。このことは、虐待の種類や虐待を受けた時期により、性格特性の差が大きくなることを示す。
- ⑦ MJPIの各尺度の得点を目的変数とした場合、被害や被虐待の有無が説明変数になり得るかを調べたところ、①において有意差の見られた尺度では、少なくとも1つの被害や被虐待の経験が説明変数として採用された。このことは、被害や被虐待の経験の有無により性格特性が変動する可能性を示す。しかし、今回の調査で定義した被害や被虐待の有無のみで性格特性を説明できる割合は非常に低く、これらの経験が決定的なものでないことも同時に示している。

## 6 考察

虐待を含めた過去の被害体験が、性格形成に及ぼす影響については、これまでも経験の中から多くのことが言われてきた。しかし、解離症状などの精神医学的所見やうつといった特定の指標を用いた研究は見られるものの、統計的手法を用いて被害・被虐待経験と一般的な性格特性との関連を研究したものは非常に少ない。また、今回は被虐待経験のあり、なしの二分ではなく、被害経験という群を設けているのも特徴であり、児童虐待防止法によって定義された「虐待」以外の、家族からの被害の影響についても考えた。もちろん、今回の結果は、少年院在院者という特定の集団に対してのみ適用できるもので

あるが、以下のような結論を導くことができよう。

家族から受けた被害に関しては、確かに被虐待群の方が家族被害群よりもなし群との差がはっきりしている。ただし、一部においては、その他の被害経験でもなし群よりは被虐待群に近いパターンを示しており、児童虐待防止法の定義では「虐待」とはいえない被害でも虐待と同様の影響を受け得ることを示唆している。

身体的虐待とネグレクトを両方受けて、虐待を早期から長期間にわたって受けたりした場合の性格特性への影響の大きさも示唆された。つまり、虐待の有無のみでなく、その種類や時期についても十分注意を払う必要があるということである。

今回指標とした性格特性のうち、多重比較における有意差の多さや、重回帰分析において採用された変数の多さ・説明率等から考えて、家族からの被害・被虐待経験と最も強く関連しているのは「偏狭傾向」であると言えよう。この尺度は、被害感や対人不信感の強さの指標であり、自分を愛し保護すべき家族から存在を脅かされた経験がそうした性格傾向に結びついていくことは不自然ではない。「偏狭」は非行深度や予後の悪さとの関連が研究されており、被虐待経験を持つ非行少年の処遇が容易ではないことを裏付けるであろう。5の④で述べたように、虐待を受けた非行少年は、そうでない非行少年よりも神経質さと自己顕示性を示しやすい。非行のない少年と非行少年とのMJPIを比較した研究によると、非行少年は一般的に「自己顕示」の値が高いが、「従属」及び「過活動」の値も共に高い傾向があり、「非行少年は一般に、付和雷同・追従的で、軽率、人付き合いをうまくやって承認欲求を満たそうとする傾向をより強く示す。」と解釈される。一方、「自己顕示」と共に「抑うつ」、「不安定」、「爆発」、「過活動」、「偏狭」などが高い、虐待を受けた非行少年の場合は、仲間に合わせるといよりも、うっ憤を晴らす衝動を背景とした、自己中心的で支配的な行為で自己をアピールする傾向があると解釈できるかもしれない。逆に、このようなMJPIの結果が得られた場合、過去に被害体験があるのではないかとこの仮説を頭の隅に置きながら面接に臨むことが有効と言える。

しかし、今回の調査で定義した被害・被虐待の経験が性格特性を説明する割合は、非常に低いことにも留意しなければならない。言うまでもなく、性格形成にはその他無数の要因が存在するのであり、被虐待経験があると知ったからといって、対象少年の性格上の偏りを何でも虐待に帰属させることは適当ではない。虐待の体験を少年がどのように受け止めたのか、その後周囲とどのような相互作用があって現在の性格が形成されてきたのかを丁寧に理解する必要がある。ただし、被害・被虐待経験と性格特性との関連について仮説を持つことは、それまで単純に「問題少年」とみなされ、行動を統制することがもっぱら処遇の目標になっていたような少年の処遇において、処遇者に別の少年像と処遇方針を与えるきっかけになるのではないかと考えられる。

最後に、今回は被害・被虐待経験を原因、性格特性を結果として仮説を立て分析を行ったが、今回の調査方法では厳密に言えば因果関係を証明することはできないことを断っておく。縦断的に取ったデータではないため、本来は両者の関連の有無を言えるに過ぎず、ある性格特性を有する者が被害・虐待を受けやすい、という説明も論理的にはなされ得るのである。また、今回の結論は、主に身体的暴力を受けた男子の少年院在院者の傾向を反映していることにも留意したい。身体的暴力にネグレクトが加わった場合の影響については若干述べたが、ネグレクトや性的暴力を受けた者及び女子在院者の傾向については、更なる検討が必要であり、今後の課題である。

#### 参考文献・引用文献

法務省矯正局，法務省式人格目録解釈手引，1970

## 資料1 MJPI 基礎統計量

尺度名	度数		平均値	中央値	最頻値	標準偏差	最小値	最大値
	有効	欠損値						
虚構	2,348	6	50.25	49	46	9.75	32	90
偏向	2,348	6	47.45	46	40	8.47	40	98
自我防衛	2,348	6	49.75	50	52	9.29	25	77
心気症	2,348	6	53.37	53	48	9.99	35	79
自信欠如	2,348	6	49.64	49	45	9.77	33	72
抑うつ	2,348	6	49.93	48	44	9.19	34	77
不安定	2,348	6	49.41	49	51	10.19	30	73
爆発	2,348	6	50.34	48	39	9.74	19	75
自己顯示	2,348	6	51.63	50	50	9.79	33	80
過活動	2,348	6	53.81	54	54	8.97	28	75
軽躁	2,348	6	52.11	53	57	9.01	22	68
従属	2,348	6	50.42	51	52	9.59	24	70
偏狭	2,347	7	51.25	51	51	9.80	30	83

## 資料2 被害種類別・3群間の分散分析及び多重比較

## ① 身体的暴力①(軽度)

尺度名	分散分析		多重比較				
	F値 (2, 2248)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構**	9.84	0.000	なし	51.19	家族被害	0.44	1.000
			家族被害	50.75	被虐待**	1.97	0.000
			被虐待	49.24	被虐待*	1.53	0.015
偏向	0.10	0.901	なし	47.55	家族被害	0.07	1.000
			家族被害	47.48	被虐待	0.18	1.000
			被虐待	47.38	被虐待	0.11	1.000
自我防衛**	7.32	0.001	なし	50.71	家族被害	1.00	0.190
			家族被害	49.72	被虐待**	1.70	0.000
			被虐待	49.03	被虐待	0.70	0.548
心気症**	6.74	0.001	なし	52.38	家族被害	-1.05	0.208
			家族被害	53.43	被虐待**	-1.75	0.001
			被虐待	54.11	被虐待	-0.70	0.641
自信欠如	1.50	0.224	なし	49.16	家族被害	-0.48	1.000
			家族被害	49.63	被虐待	-0.81	0.252
			被虐待	49.94	被虐待	-0.33	1.000
抑うつ*	3.61	0.027	なし	49.34	家族被害	-0.54	0.930
			家族被害	49.87	被虐待*	-1.17	0.022
			被虐待	50.50	被虐待	-0.63	0.658
不安定**	6.27	0.002	なし	48.85	家族被害	0.19	1.000
			家族被害	48.66	被虐待**	-1.46	0.008
			被虐待	50.29	被虐待*	-1.65	0.012
爆発	2.82	0.060	なし	49.82	家族被害	-0.32	1.000
			家族被害	50.14	被虐待	-1.07	0.062
			被虐待	50.88	被虐待	-0.75	0.501
自己顕示**	16.36	0.000	なし	50.23	家族被害	-1.09	0.161
			家族被害	51.32	被虐待**	-2.64	0.000
			被虐待	52.87	被虐待*	-1.55	0.014
過活動*	3.19	0.041	なし	53.46	家族被害	0.22	1.000
			家族被害	53.24	被虐待	-0.87	0.125
			被虐待	54.33	被虐待	-1.09	0.091
軽躁*	4.05	0.018	なし	51.64	家族被害	-0.01	1.000
			家族被害	51.65	被虐待*	-1.10	0.032
			被虐待	52.72	被虐待	-1.09	0.095
従属	1.89	0.151	なし	49.93	家族被害	-0.54	0.983
			家族被害	50.47	被虐待	-0.88	0.158
			被虐待	50.81	被虐待	-0.34	1.000
偏狭**	9.30	0.000	なし	50.41	家族被害	-0.16	1.000
			家族被害	50.58	被虐待**	-1.86	0.000
			被虐待	52.27	被虐待**	-1.69	0.006

## ② 身体的暴力② (重度)

尺度名	分散分析		多重比較				
	F値 (2, 2262)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構**	5.34	0.005	なし	50.72	家族被害	0.30	1.000
					被虐待**	1.54	0.004
			家族被害	50.42	被虐待	1.24	0.128
			被虐待	49.20			
偏向*	3.26	0.039	なし	47.00	家族被害	-0.89	0.180
					被虐待	-0.90	0.081
			家族被害	47.90	被虐待	-0.01	1.000
			被虐待	47.92			
自我防衛**	9.37	0.000	なし	50.55	家族被害	1.16	0.081
					被虐待**	1.90	0.000
			家族被害	49.38	被虐待	0.74	0.609
			被虐待	48.66			
心気症**	3.88	0.021	なし	52.79	家族被害	-1.10	0.157
					被虐待*	-1.21	0.038
			家族被害	53.89	被虐待	-0.11	1.000
			被虐待	53.98			
自信欠如	1.18	0.306	なし	49.28	家族被害	-0.78	0.482
					被虐待	-0.49	0.915
			家族被害	50.06	被虐待	0.29	1.000
			被虐待	49.74			
抑うつ*	4.11	0.016	なし	49.39	家族被害	-0.95	0.201
					被虐待*	-1.19	0.024
			家族被害	50.35	被虐待	-0.23	1.000
			被虐待	50.57			
不安定**	9.12	0.000	なし	48.77	家族被害	-0.48	1.000
					被虐待**	-2.10	0.000
			家族被害	49.25	被虐待*	-1.62	0.033
			被虐待	50.84			
爆発**	8.15	0.000	なし	49.69	家族被害	-0.80	0.439
					被虐待**	-1.91	0.000
			家族被害	50.49	被虐待	-1.11	0.207
			被虐待	51.59			
自己顕示**	6.51	0.002	なし	51.13	家族被害	0.08	1.000
					被虐待**	-1.61	0.002
			家族被害	51.05	被虐待*	-1.69	0.017
			被虐待	52.75			
過活動	1.96	0.141	なし	53.69	家族被害	0.40	1.000
					被虐待	-0.66	0.400
			家族被害	53.30	被虐待	-1.05	0.185
			被虐待	54.35			
軽躁	0.62	0.537	なし	52.07	家族被害	0.25	1.000
					被虐待	-0.35	1.000
			家族被害	51.82	被虐待	-0.61	0.850
			被虐待	52.42			
従属	0.25	0.776	なし	50.53	家族被害	0.38	1.000
					被虐待	0.13	1.000
			家族被害	50.15	被虐待	-0.25	1.000
			被虐待	50.38			
偏狭**	12.03	0.000	なし	50.34	家族被害*	-1.35	0.043
					被虐待**	-2.28	0.000
			家族被害	51.69	被虐待	-0.92	0.391
			被虐待	52.61			

## ③ 性的暴力① (接触)

尺度名	分散分析		多重比較				
	F値 (2, 2313)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構	0.50	0.605	なし	50.20	家族被害	-1.42	1.000
			家族被害	51.62	被虐待	-0.93	1.000
			被虐待	51.13		0.48	1.000
偏向**	9.90	0.000	なし	47.33	家族被害 **	-5.18	0.000
			家族被害	52.51	被虐待	-4.06	0.062
			被虐待	51.39		1.12	1.000
自我防衛	0.11	0.894	なし	49.77	家族被害	0.66	1.000
			家族被害	49.10	被虐待	-0.32	1.000
			被虐待	50.09		-0.98	1.000
心気症*	4.31	0.014	なし	53.28	家族被害 *	-3.94	0.044
			家族被害	57.23	被虐待	-3.49	0.288
			被虐待	56.78		0.45	1.000
自信欠如	0.30	0.739	なし	49.61	家族被害	-1.18	1.000
			家族被害	50.79	被虐待	-0.47	1.000
			被虐待	50.09		0.71	1.000
抑うつ	2.72	0.660	なし	49.88	家族被害	-3.22	0.090
			家族被害	53.10	被虐待	-1.68	1.000
			被虐待	51.57		1.54	1.000
不安定	2.04	0.131	なし	49.41	家族被害	0.57	1.000
			家族被害	48.85	被虐待	-4.24	0.142
			被虐待	53.65		-4.81	0.219
爆発	2.09	0.123	なし	50.28	家族被害	-2.74	0.245
			家族被害	53.03	被虐待	-2.24	0.820
			被虐待	52.52		0.50	1.000
自己顕示	0.60	0.547	なし	51.59	家族被害	-0.41	1.000
			家族被害	52.00	被虐待	-2.20	0.854
			被虐待	53.78		-1.78	1.000
過活動	1.58	0.206	なし	53.80	家族被害	1.96	0.534
			家族被害	51.85	被虐待	-2.15	0.760
			被虐待	55.96		-4.11	0.247
軽躁	1.92	0.147	なし	52.18	家族被害	2.80	0.163
			家族被害	49.38	被虐待	-0.64	1.000
			被虐待	52.83		-3.44	0.439
従属	0.54	0.582	なし	50.48	家族被害	1.36	1.000
			家族被害	49.13	被虐待	1.14	1.000
			被虐待	49.35		-0.22	1.000
偏狭*	4.43	0.012	なし	51.15	家族被害 *	-4.54	0.012
			家族被害	55.69	被虐待	-1.63	1.000
			被虐待	52.78		2.91	0.772

## ④ 性的暴力② (性交)

尺度名	分散分析		多重比較				
	F値 (2, 2316)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構	0.08	0.920	なし	50.24	家族被害	-0.16	1.000
					被虐待	-1.77	1.000
			家族被害	50.38	被虐待	-1.62	1.000
			被虐待	52.00			
偏向	2.72	0.066	なし	47.44	家族被害	-2.34	0.957
					被虐待	-7.97	0.104
			家族被害	49.77	被虐待	-5.63	0.612
			被虐待	55.40			
自我防衛	1.56	0.210	なし	49.79	家族被害	4.56	0.235
					被虐待	0.59	1.000
			家族被害	45.23	被虐待	-3.97	1.000
			被虐待	49.20			
心気症	1.33	0.265	なし	53.36	家族被害	-4.40	0.342
					被虐待	1.77	1.000
			家族被害	57.77	被虐待	6.17	0.725
			被虐待	51.60			
自信欠如	0.62	0.540	なし	49.62	家族被害	-2.99	0.814
					被虐待	0.62	1.000
			家族被害	52.62	被虐待	3.62	1.000
			被虐待	49.00			
抑うつ	2.18	0.113	なし	49.92	家族被害	-4.77	0.186
					被虐待	-3.88	1.000
			家族被害	54.69	被虐待	0.89	1.000
			被虐待	53.80			
不安定	0.53	0.588	なし	49.44	家族被害	1.91	1.000
					被虐待	-3.55	1.000
			家族被害	47.54	被虐待	-5.46	0.927
			被虐待	53.00			
爆発	0.23	0.797	なし	50.34	家族被害	-1.81	1.000
					被虐待	-0.45	1.000
			家族被害	52.15	被虐待	1.35	1.000
			被虐待	50.80			
自己顕示	0.17	0.844	なし	51.62	家族被害	-1.22	1.000
					被虐待	1.62	1.000
			家族被害	52.85	被虐待	2.85	1.000
			被虐待	50.00			
過活動	0.28	0.756	なし	53.81	家族被害	1.66	1.000
					被虐待	1.41	1.000
			家族被害	52.15	被虐待	-0.25	1.000
			被虐待	52.40			
軽躁	2.61	0.074	なし	52.17	家族被害	5.56	0.079
					被虐待	2.18	1.000
			家族被害	46.62	被虐待	-3.38	1.000
			被虐待	50.00			
従属	0.12	0.885	なし	50.45	家族被害	-0.32	1.000
					被虐待	2.05	1.000
			家族被害	50.77	被虐待	2.37	1.000
			被虐待	48.40			
偏狭	1.66	0.191	なし	51.22	家族被害	-4.55	0.284
					被虐待	-3.18	1.000
			家族被害	55.77	被虐待	1.37	1.000
			被虐待	54.40			



## ⑤ 不適切な保護態度

尺度名	分散分析		多重比較				
	F 値 (2, 2310)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構*	3.38	0.034	なし	50.25	家族被害	-2.51	0.150
			家族被害	52.75	ネグレクト	1.48	0.310
			ネグレクト	48.76	ネグレクト*	3.99	0.029
偏向*	3.67	0.026	なし	47.34	家族被害	-0.44	1.000
			家族被害	47.78	ネグレクト*	-2.11	0.021
			ネグレクト	49.45	ネグレクト	-1.67	0.628
自我防衛	2.72	0.066	なし	49.89	家族被害	1.23	0.934
			家族被害	48.65	ネグレクト	1.85	0.098
			ネグレクト	48.03	ネグレクト	0.62	1.000
心気症*	4.08	0.017	なし	53.22	家族被害	-1.62	0.651
			家族被害	54.85	ネグレクト*	-2.44	0.027
			ネグレクト	55.67	ネグレクト	-0.82	1.000
自信欠如	1.28	0.278	なし	49.55	家族被害	-1.41	0.814
			家族被害	50.97	ネグレクト	-1.09	0.685
			ネグレクト	50.66	ネグレクト	0.31	1.000
抑うつ***	6.60	0.001	なし	49.78	家族被害	-0.71	1.000
			家族被害	50.50	ネグレクト***	-3.07	0.001
			ネグレクト	52.86	ネグレクト	-2.36	0.307
不安定	1.77	0.171	なし	49.37	家族被害	0.20	1.000
			家族被害	49.18	ネグレクト	-1.77	0.186
			ネグレクト	51.16	ネグレクト	-1.97	0.659
爆発	1.33	0.264	なし	50.35	家族被害	1.41	0.811
			家族被害	48.95	ネグレクト	-1.05	0.738
			ネグレクト	51.41	ネグレクト	-2.46	0.329
自己顕示*	4.04	0.018	なし	51.52	家族被害	0.64	1.000
			家族被害	50.88	ネグレクト*	-2.53	0.017
			ネグレクト	54.05	ネグレクト	-3.17	0.121
過活動	2.64	0.072	なし	53.69	家族被害	-0.80	1.000
			家族被害	54.48	ネグレクト	-1.85	0.080
			ネグレクト	55.54	ネグレクト	-1.06	1.000
軽躁	0.10	0.904	なし	52.13	家族被害	-0.53	1.000
			家族被害	52.67	ネグレクト	0.01	1.000
			ネグレクト	52.13	ネグレクト	0.54	1.000
従属	0.63	0.534	なし	50.40	家族被害	0.12	1.000
			家族被害	50.28	ネグレクト	-0.99	0.799
			ネグレクト	51.39	ネグレクト	-1.11	1.000
偏狭**	14.70	0.000	なし	50.95	家族被害	-2.13	0.283
			家族被害	53.08	ネグレクト**	-4.73	0.000
			ネグレクト	55.68	ネグレクト	-2.60	0.273

注 1 「\*」及び「\*\*」は、それぞれ有意水準5%以下、1%以下で有意差が認められることを示す。各尺度名についている場合は、分散分析において3群間に有意差が認められることを、比較群についている場合は、多重比較において対となる群間に有意差が認められることを示す。

2 多重比較においては、対となる群の組合せは基準をどちらに取るかのみの違いで2つ同じものが存在する。検定結果は同じであるため、一方のみを示している。

## 資料3 MJPIのT得点の平均値の男女差

尺度名	性別	平均値	標準偏差	平均値の差	自由度	t 値	有意確率
虚構	男	50.21	9.72	-0.42	2,346	-0.61	0.541
	女	50.62	10.03				
偏向**	男	47.11	8.36	-3.47	2,346	-5.93	0.000
	女	50.58	8.88				
自我防衛**	男	49.94	9.22	1.95	2,346	3.02	0.003
	女	47.99	9.77				
心気症**	男	53.01	9.93	-3.71	2,346	-5.38	0.000
	女	56.72	9.97				
自信欠如**	男	49.46	9.73	-1.79	2,346	-2.63	0.008
	女	51.25	9.99				
抑うつ**	男	49.59	9.01	-3.48	267	-4.93	0.000
	女	53.07	10.25				
不安定**	男	49.03	10.00	-3.91	269	-5.07	0.000
	女	52.94	11.20				
爆発**	男	50.12	9.60	-2.23	268	-3.01	0.003
	女	52.36	10.79				
自己顕示**	男	51.38	9.73	-2.53	2,346	-3.73	0.000
	女	53.92	10.00				
過活動	男	53.84	9.09	0.31	299	0.56	0.574
	女	53.53	7.81				
軽躁**	男	52.33	8.96	2.18	2,346	3.49	0.000
	女	50.14	9.21				
従属	男	50.46	9.49	0.35	269	0.48	0.634
	女	50.11	10.54				
偏狭**	男	50.77	9.60	-4.86	270	-6.68	0.000
	女	55.64	10.56				

注 1 N；男子=2,119，女子=229。MJPIを実施していない者を除いた数である。

2 自由度=2,346のものは、Leveneの検定により等分散性が仮定された場合、自由度がそれ以外のものは、等分散性が仮定されなかった場合の検定結果を採用している。

3 各尺度名について「\*\*」は、有意水準1%以下で有意差が見られることを示す。

## 資料4 被害種類別・3群間の分散分析及び多重比較(男子)

## ① 身体的暴力①(軽度)

尺度名	分散分析		多重比較				
	F値 (2, 2030)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構**	9.36	0.000	なし	51.19	家族被害	0.60	0.933
					被虐待**	2.05	0.000
			家族被害	50.59	被虐待*	1.45	0.037
			被虐待	49.14			
偏向	0.88	0.415	なし	47.46	家族被害	0.37	1.000
					被虐待	0.55	0.565
			家族被害	47.10	被虐待	0.18	1.000
			被虐待	46.91			
自我防衛**	7.79	0.000	なし	50.90	家族被害	0.80	0.461
					被虐待**	1.81	0.000
			家族被害	50.10	被虐待	1.01	0.198
			被虐待	49.09			
心気症**	4.98	0.007	なし	52.19	家族被害	-0.63	0.887
					被虐待**	-1.55	0.005
			家族被害	52.83	被虐待	-0.92	0.356
			被虐待	53.75			
自信欠如	1.33	0.266	なし	49.01	家族被害	-0.46	1.000
					被虐待	-0.79	0.312
			家族被害	49.47	被虐待	-0.33	1.000
			被虐待	49.80			
抑うつ*	3.26	0.038	なし	49.06	家族被害	-0.43	1.000
					被虐待*	-1.14	0.034
			家族被害	49.49	被虐待	-0.70	0.571
			被虐待	50.19			
不安定**	5.39	0.005	なし	48.54	家族被害	0.27	1.000
					被虐待*	-1.37	0.019
			家族被害	48.27	被虐待*	-1.64	0.018
			被虐待	49.91			
爆発	1.65	0.192	なし	49.76	家族被害	-0.17	1.000
					被虐待	-0.84	0.244
			家族被害	49.93	被虐待	-0.66	0.743
			被虐待	50.59			
自己顕示**	13.72	0.000	なし	50.01	家族被害	-1.25	0.104
					被虐待**	-2.54	0.000
			家族被害	51.26	被虐待	-1.29	0.078
			被虐待	52.55			
過活動*	3.18	0.042	なし	53.46	家族被害	0.17	1.000
					被虐待	-0.96	0.104
			家族被害	53.29	被虐待	-1.13	0.110
			被虐待	54.42			
軽躁*	4.05	0.018	なし	51.72	家族被害	-0.36	1.000
					被虐待*	-1.24	0.016
			家族被害	52.09	被虐待	-0.88	0.299
			被虐待	52.97			
従属	2.53	0.080	なし	49.88	家族被害	-0.67	0.727
					被虐待	-1.06	0.076
			家族被害	50.56	被虐待	-0.38	1.000
			被虐待	50.94			
偏狭**	7.88	0.000	なし	50.03	家族被害	-0.09	1.000
					被虐待**	-1.74	0.001
			家族被害	50.11	被虐待*	-1.66	0.011
			被虐待	51.77			

## ② 身体的暴力② (重度)

尺度名	分散分析		多重比較				
	F 値 (2, 2041)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構**	4.69	0.009	なし	50.62	家族被害 被虐待 **	0.10 1.49	1.000 0.009
			家族被害	50.52	被虐待	1.39	0.098
			被虐待	49.12			
偏向	1.27	0.281	なし	46.83	家族被害 被虐待	-0.55 -0.61	0.815 0.463
			家族被害	47.38	被虐待	-0.06	1.000
			被虐待	47.44			
自我防衛**	10.38	0.000	なし	50.79	家族被害 被虐待 **	1.20 2.12	0.092 0.000
			家族被害	49.60	被虐待	0.92	0.405
			被虐待	48.68			
心気症*	3.47	0.031	なし	52.44	家族被害 被虐待 *	-1.01 -1.24	0.267 0.047
			家族被害	53.46	被虐待	-0.22	1.000
			被虐待	53.68			
自信欠如	2.22	0.109	なし	48.99	家族被害 被虐待	-1.08 -0.76	0.195 0.393
			家族被害	50.07	被虐待	0.32	1.000
			被虐待	49.75			
抑うつ*	4.57	0.010	なし	49.04	家族被害 被虐待 *	-0.90 -1.34	0.292 0.011
			家族被害	49.93	被虐待	-0.45	1.000
			被虐待	50.38			
不安定**	5.61	0.000	なし	48.40	家族被害 被虐待 **	-0.39 -2.12	1.000 0.000
			家族被害	48.79	被虐待 *	-1.73	0.029
			被虐待	50.52			
爆発**	6.16	0.002	なし	49.54	家族被害 被虐待 **	-0.74 -1.73	0.598 0.001
			家族被害	50.28	被虐待	-0.99	0.370
			被虐待	51.26			
自己顕示**	5.89	0.003	なし	50.91	家族被害 被虐待 **	0.15 -1.60	1.000 0.004
			家族被害	50.76	被虐待 *	-1.75	0.021
			被虐待	52.51			
過活動	2.34	0.097	なし	53.74	家族被害 被虐待	0.59 -0.69	0.836 0.422
			家族被害	53.15	被虐待	-1.29	0.105
			被虐待	54.44			
軽躁	0.57	0.566	なし	52.27	家族被害 被虐待	0.22 -0.38	1.000 1.000
			家族被害	52.05	被虐待	-0.60	0.947
			被虐待	52.65			
従属	0.31	0.736	なし	50.44	家族被害 被虐待	0.28 -0.22	1.000 1.000
			家族被害	50.16	被虐待	-0.49	1.000
			被虐待	50.66			
偏狭**	11.29	0.000	なし	49.87	家族被害 被虐待 **	-1.39 -2.27	0.047 0.000
			家族被害	51.26	被虐待	-0.88	0.500
			被虐待	52.14			

## ③ 性的暴力① (接触)

尺度名	分散分析		多重比較				
	F 値 (2, 2085)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構	0.09	0.915	なし	50.19	家族被害	1.06	1.000
					被虐待	-0.12	1.000
			家族被害	49.13	被虐待	-1.17	1.000
			被虐待	50.31			
偏向**	6.33	0.002	なし	47.05	家族被害 **	-7.55	0.001
					被虐待	-1.18	1.000
			家族被害	54.60	被虐待	6.37	0.127
			被虐待	48.23			
自我防衛	0.36	0.697	なし	49.95	家族被害	1.22	1.000
					被虐待	-1.74	1.000
			家族被害	48.73	被虐待	-2.96	1.000
			被虐待	51.69			
心気症	2.83	0.059	なし	52.97	家族被害	-5.03	0.153
					被虐待	-3.80	0.509
			家族被害	58.00	被虐待	1.23	1.000
			被虐待	56.77			
自信欠如	0.47	0.628	なし	49.45	家族被害	-2.22	1.000
					被虐待	-1.09	1.000
			家族被害	51.67	被虐待	1.13	1.000
			被虐待	50.54			
抑うつ	2.85	0.058	なし	49.58	家族被害	-5.49	0.056
					被虐待	0.96	1.000
			家族被害	55.07	被虐待	6.45	0.176
			被虐待	48.62			
不安定	1.81	0.164	なし	49.02	家族被害	-4.31	0.289
					被虐待	-2.59	1.000
			家族被害	53.33	被虐待	1.72	1.000
			被虐待	51.62			
爆発*	3.48	0.022	なし	50.07	家族被害 *	-6.40	0.030
					被虐待	-2.77	0.894
			家族被害	56.47	被虐待	3.62	0.956
			被虐待	52.65			
自己顕示	0.65	0.520	なし	51.34	家族被害	-2.12	1.000
					被虐待	-2.12	1.000
			家族被害	53.47	被虐待	0.01	1.000
			被虐待	53.46			
過活動	0.65	0.522	なし	53.80	家族被害	-1.47	1.000
					被虐待	-2.43	1.000
			家族被害	55.27	被虐待	-0.96	1.000
			被虐待	56.23			
軽躁	0.45	0.635	なし	52.34	家族被害	-1.26	1.000
					被虐待	-1.96	1.000
			家族被害	53.60	被虐待	-0.71	1.000
			被虐待	54.31			
従属	0.88	0.414	なし	50.46	家族被害	-2.94	0.694
					被虐待	-1.54	1.000
			家族被害	53.40	被虐待	1.40	1.000
			被虐待	52.00			
偏狭**	4.68	0.009	なし	50.70	家族被害 **	-7.43	0.008
					被虐待	-1.68	1.000
			家族被害	58.13	被虐待	5.75	0.338
			被虐待	52.38			

## ④ 性的暴力② (性交)

尺度名	分散分析		多重比較				
	F 値 (2, 2087)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構	0.97	0.381	なし	50.17	家族被害	-2.83	1.000
			家族被害	53.00	被虐待	-6.33	0.584
			被虐待	56.50	被虐待	-3.50	1.000
偏向	1.15	0.317	なし	47.11	家族被害	-5.23	0.830
			家族被害	52.33	被虐待	-4.39	0.873
			被虐待	51.50	被虐待	0.83	1.000
自我防衛	0.70	0.495	なし	49.94	家族被害	-3.06	1.000
			家族被害	53.00	被虐待	-4.81	0.896
			被虐待	54.75	被虐待	-1.75	1.000
心気症	1.34	0.263	なし	53.03	家族被害	-6.31	0.818
			家族被害	59.33	被虐待	6.02	0.680
			被虐待	47.00	被虐待	12.33	0.314
自信欠如	0.52	0.595	なし	49.48	家族被害	2.48	1.000
			家族被害	47.00	被虐待	4.48	1.000
			被虐待	45.00	被虐待	2.00	1.000
抑うつ	0.01	0.989	なし	49.62	家族被害	0.28	1.000
			家族被害	49.33	被虐待	0.62	1.000
			被虐待	49.00	被虐待	0.33	1.000
不安定	0.77	0.463	なし	49.08	家族被害	7.08	0.664
			家族被害	42.00	被虐待	1.08	1.000
			被虐待	48.00	被虐待	-6.00	1.000
爆発	0.13	0.880	なし	50.14	家族被害	-0.52	1.000
			家族被害	50.67	被虐待	2.39	1.000
			被虐待	47.75	被虐待	2.92	1.000
自己顕示	1.90	0.150	なし	51.40	家族被害	9.73	0.252
			家族被害	41.67	被虐待	4.40	1.000
			被虐待	47.00	被虐待	-5.33	1.000
過活動	0.41	0.667	なし	53.84	家族被害	0.50	1.000
			家族被害	53.33	被虐待	4.09	1.000
			被虐待	49.75	被虐待	3.58	1.000
軽躁	1.71	0.340	なし	52.37	家族被害	7.37	0.464
			家族被害	45.00	被虐待	1.62	1.000
			被虐待	50.75	被虐待	-5.75	1.000
従属	1.06	0.346	なし	50.49	家族被害	-5.18	1.000
			家族被害	55.67	被虐待	5.24	0.805
			被虐待	45.25	被虐待	10.42	0.449
偏狭	0.04	0.966	なし	50.77	家族被害	1.44	1.000
			家族被害	49.33	被虐待	-0.23	1.000
			被虐待	51.00	被虐待	-1.67	1.000

## ⑤ 不適切な保護態度

尺度名	分散分析		多重比較				
	F 値 (2, 2081)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構	2.00	0.136	なし	50.22	家族被害	-1.62	0.675
			家族被害	51.84	ネグレクト	1.52	0.369
			ネグレクト	48.70	ネグレクト	3.14	0.162
偏向	1.76	0.172	なし	47.03	家族被害	-0.46	1.000
			家族被害	47.49	ネグレクト	-1.55	0.195
			ネグレクト	48.58	ネグレクト	-1.09	1.000
自我防衛	2.26	0.080	なし	50.08	家族被害	1.40	0.799
			家族被害	48.67	ネグレクト	1.86	0.139
			ネグレクト	48.21	ネグレクト	0.46	1.000
心気症*	3.80	0.019	なし	52.87	家族被害	-1.44	0.868
			家族被害	54.31	ネグレクト*	-2.67	0.024
			ネグレクト	55.53	ネグレクト	-1.22	1.000
自信欠如	1.95	0.142	なし	49.36	家族被害	-1.18	1.000
			家族被害	50.55	ネグレクト	-1.76	0.218
			ネグレクト	51.13	ネグレクト	-0.58	1.000
抑うつ**	6.73	0.001	なし	49.43	家族被害	-1.22	0.960
			家族被害	50.65	ネグレクト**	-3.24	0.001
			ネグレクト	52.67	ネグレクト	-2.02	0.536
不安定	2.69	0.068	なし	48.96	家族被害	-0.83	1.000
			家族被害	49.78	ネグレクト	-2.29	0.071
			ネグレクト	51.24	ネグレクト	-1.46	1.000
爆発	1.23	0.292	なし	50.10	家族被害	0.56	1.000
			家族被害	49.55	ネグレクト	-1.45	0.405
			ネグレクト	51.55	ネグレクト	-2.01	0.632
自己顕示	2.54	0.079	なし	51.29	家族被害	0.57	1.000
			家族被害	50.73	ネグレクト	-2.16	0.085
			ネグレクト	53.46	ネグレクト	-2.73	0.281
過活動	2.83	0.059	なし	53.70	家族被害	-1.32	0.871
			家族被害	55.02	ネグレクト	-2.00	0.090
			ネグレクト	55.70	ネグレクト	-0.68	1.000
軽躁	0.31	0.735	なし	52.34	家族被害	-0.92	1.000
			家族被害	53.25	ネグレクト	-0.24	1.000
			ネグレクト	52.57	ネグレクト	0.68	1.000
従属	0.96	0.383	なし	50.43	家族被害	0.23	1.000
			家族被害	50.20	ネグレクト	-1.31	0.516
			ネグレクト	51.74	ネグレクト	-1.54	0.992
偏狭**	12.04	0.000	なし	50.48	家族被害	-3.04	0.059
			家族被害	53.53	ネグレクト**	-4.25	0.000
			ネグレクト	54.73	ネグレクト	-1.20	1.000

注 資料2の注1・2に同じ。

## 資料5 被害種類別・3群間の分散分析及び多重比較(女子)

## ① 身体的暴力①(軽度)

	分散分析		多重比較				
	F値 (2, 215)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構	0.92	0.399	なし	51.24	家族被害	-0.78	1.000
					被虐待	1.40	1.000
			家族被害	52.02	被虐待	2.18	0.597
			49.84				
偏向	1.41	0.247	なし	48.74	家族被害	-1.80	0.816
					被虐待	-2.34	0.293
			家族被害	50.54	被虐待	-0.55	1.000
			51.08				
自我防衛	0.60	0.550	なし	48.34	家族被害	1.59	1.000
					被虐待	-0.16	1.000
			家族被害	46.76	被虐待	-1.74	0.874
			48.50				
心気症	1.70	0.186	なし	54.81	家族被害	-3.32	0.243
					被虐待	-2.37	0.447
			家族被害	58.13	被虐待	0.95	1.000
			57.18				
自信欠如	0.03	0.971	なし	51.07	家族被害	0.20	1.000
					被虐待	-0.20	1.000
			家族被害	50.87	被虐待	-0.40	1.000
			51.27				
抑うつ	0.01	0.994	なし	52.97	家族被害	0.11	1.000
					被虐待	-0.07	1.000
			家族被害	52.85	被虐待	-0.19	1.000
			53.04				
不安定	0.51	0.601	なし	52.86	家族被害	1.21	1.000
					被虐待	-0.68	1.000
			家族被害	51.65	被虐待	-1.89	0.941
			53.54				
爆発	1.22	0.298	なし	50.67	家族被害	-1.11	1.000
					被虐待	-2.68	0.392
			家族被害	51.78	被虐待	-1.57	1.000
			53.35				
自己顕示	2.74	0.067	なし	53.09	家族被害	1.31	1.000
					被虐待	-2.38	0.432
			家族被害	51.78	被虐待	-3.68	0.082
			55.46				
過活動	0.17	0.842	なし	53.57	家族被害	0.64	1.000
					被虐待	-0.11	1.000
			家族被害	52.93	被虐待	-0.75	1.000
			53.68				
軽躁	1.53	0.218	なし	50.53	家族被害	2.31	0.563
					被虐待	-0.32	1.000
			家族被害	48.22	被虐待	-2.64	0.269
			50.86				
従属	0.11	0.900	なし	50.55	家族被害	0.74	1.000
					被虐待	0.75	1.000
			家族被害	49.81	被虐待	0.01	1.000
			49.80				
偏狭	0.71	0.492	なし	55.43	家族被害	1.23	1.000
					被虐待	-0.87	1.000
			家族被害	54.20	被虐待	-2.10	0.708
			56.30				



## ② 身体的暴力② (重度)

	分散分析		多重比較				
	F 値 (2, 218)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構	1.39	0.251	なし	51.88	家族被害	2.19	0.636
			家族被害	49.69	被虐待	2.34	0.394
			被虐待	49.54		0.15	1.000
偏向	1.94	0.146	なし	49.14	家族被害	-2.54	0.297
			家族被害	51.69	被虐待	-2.23	0.303
			被虐待	51.37		0.31	1.000
自我防衛	0.15	0.858	なし	47.58	家族被害	-0.27	1.000
			家族被害	47.84	被虐待	-0.82	1.000
			被虐待	48.40		-0.55	1.000
心気症	0.09	0.919	なし	56.89	家族被害	-0.07	1.000
			家族被害	56.96	被虐待	0.56	1.000
			被虐待	56.33		0.63	1.000
自信欠如	2.20	0.113	なし	52.79	家族被害	2.81	0.317
			家族被害	49.98	被虐待	2.86	0.188
			被虐待	49.94		0.04	1.000
抑うつ	0.55	0.575	なし	53.67	家族被害	0.34	1.000
			家族被害	53.33	被虐待	1.62	0.921
			被虐待	52.05		1.28	1.000
不安定	0.10	0.907	なし	53.18	家族被害	0.60	1.000
			家族被害	52.59	被虐待	-0.29	1.000
			被虐待	53.47		-0.89	1.000
爆発	1.23	0.295	なし	51.53	家族被害	-0.51	1.000
			家族被害	52.04	被虐待	-2.52	0.389
			被虐待	54.05		-2.01	0.901
自己顕示	0.27	0.766	なし	53.77	家族被害	0.61	1.000
			家族被害	53.16	被虐待	-0.68	1.000
			被虐待	54.45		-1.29	1.000
過活動	0.47	0.625	なし	53.07	家族被害	-1.29	1.000
			家族被害	54.35	被虐待	-0.65	1.000
			被虐待	53.72		0.63	1.000
軽躁	0.29	0.749	なし	49.68	家族被害	-0.47	1.000
			家族被害	50.16	被虐待	-1.10	1.000
			被虐待	50.78		-0.63	1.000
従属	1.91	0.150	なし	51.62	家族被害	1.58	1.000
			家族被害	50.04	被虐待	3.09	0.156
			被虐待	48.53		1.51	1.000
偏狭	0.26	0.771	なし	55.97	家族被害	1.16	1.000
			家族被害	54.80	被虐待	-0.10	1.000
			被虐待	56.06		-1.26	1.000

## ③ 性的暴力① (接触)

	分散分析		多重比較				
	F 値 (2, 225)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構	1.00	0.368	なし	50.28	家族被害	-2.88	0.556
					被虐待	-1.92	1.000
			家族被害	53.17	被虐待	0.97	1.000
			被虐待	52.20			
偏向	1.70	0.184	なし	50.29	家族被害	-0.91	1.000
					被虐待	-5.21	0.213
			家族被害	51.21	被虐待	-4.29	0.597
			被虐待	55.50			
自我防衛	0.26	0.772	なし	47.80	家族被害	-1.53	1.000
					被虐待	-0.20	1.000
			家族被害	49.33	被虐待	1.33	1.000
			被虐待	48.00			
心気症	0.00	1.000	なし	56.72	家族被害	-0.03	1.000
					被虐待	-0.08	1.000
			家族被害	56.75	被虐待	-0.05	1.000
			被虐待	56.80			
自信欠如	0.30	0.745	なし	51.41	家族被害	1.16	1.000
					被虐待	1.91	1.000
			家族被害	50.25	被虐待	0.75	1.000
			被虐待	49.50			
抑うつ	0.42	0.659	なし	53.08	家族被害	1.21	1.000
					被虐待	-2.32	1.000
			家族被害	51.88	被虐待	-3.53	1.000
			被虐待	55.40			
不安定**	5.54	0.004	なし	53.61	家族被害 **	7.57	0.005
					被虐待	-2.69	1.000
			家族被害	46.04	被虐待 *	-10.26	0.042
			被虐待	56.30			
爆発	0.26	0.772	なし	52.56	家族被害	1.68	1.000
					被虐待	0.46	1.000
			家族被害	50.88	被虐待	-1.23	1.000
			被虐待	52.10			
自己顕示	1.03	0.359	なし	54.16	家族被害	3.08	0.462
					被虐待	-0.04	1.000
			家族被害	51.08	被虐待	-3.12	1.000
			被虐待	54.20			
過活動*	3.48	0.033	なし	53.88	家族被害 *	4.17	0.041
					被虐待	-1.72	1.000
			家族被害	49.78	被虐待	-5.89	0.133
			被虐待	55.60			
軽躁	1.81	0.165	なし	50.50	家族被害	3.75	0.182
					被虐待	-0.40	1.000
			家族被害	46.75	被虐待	-4.15	0.695
			被虐待	50.90			
従属	2.60	0.076	なし	50.72	家族被害	4.26	0.183
					被虐待	4.82	0.470
			家族被害	46.46	被虐待	0.56	1.000
			被虐待	45.90			
偏狭	0.53	0.587	なし	55.90	家族被害	1.74	1.000
					被虐待	2.60	1.000
			家族被害	54.17	被虐待	0.87	1.000
			被虐待	53.30			

## ④ 不適切な保護態度

	分散分析		多重比較				
	F 値 (2, 226)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構*	4.03	0.019	なし	50.47	家族被害 *	-12.33	0.019
			家族被害	62.80	ネグレクト	1.36	1.000
			ネグレクト	49.11	ネグレクト *	13.69	0.019
偏向	1.71	0.183	なし	50.23	家族被害	-0.77	1.000
			家族被害	51.00	ネグレクト	-3.92	0.198
			ネグレクト	54.16	ネグレクト	-3.16	1.000
自我防衛	0.10	0.907	なし	48.07	家族被害	-0.33	1.000
			家族被害	48.40	ネグレクト	1.02	1.000
			ネグレクト	47.05	ネグレクト	1.35	1.000
心気症	0.43	0.651	なし	56.65	家族被害	-4.15	1.000
			家族被害	60.80	ネグレクト	0.23	1.000
			ネグレクト	56.42	ネグレクト	4.38	1.000
自信欠如	1.46	0.235	なし	51.43	家族被害	-4.17	1.000
			家族被害	55.60	ネグレクト	3.33	0.495
			ネグレクト	48.11	ネグレクト	7.49	0.408
抑うつ	0.49	0.611	なし	53.10	家族被害	4.30	1.000
			家族被害	48.80	ネグレクト	-0.80	1.000
			ネグレクト	53.89	ネグレクト	-5.09	0.975
不安定	2.73	0.067	なし	53.40	家族被害	10.80	0.099
			家族被害	42.60	ネグレクト	2.72	0.926
			ネグレクト	50.68	ネグレクト	-8.08	0.448
爆発	2.55	0.081	なし	52.76	家族被害	10.36	0.102
			家族被害	42.40	ネグレクト	2.13	1.000
			ネグレクト	50.63	ネグレクト	-8.23	0.384
自己顕示	1.19	0.307	なし	53.64	家族被害	1.04	1.000
			家族被害	52.60	ネグレクト	-3.62	0.395
			ネグレクト	57.26	ネグレクト	-4.66	1.000
過活動	1.21	0.301	なし	53.54	家族被害	4.94	0.490
			家族被害	48.60	ネグレクト	-1.14	1.000
			ネグレクト	54.68	ネグレクト	-6.08	0.367
軽躁	0.50	0.610	なし	50.28	家族被害	4.08	0.991
			家族被害	46.20	ネグレクト	0.54	1.000
			ネグレクト	49.74	ネグレクト	-3.54	1.000
従属	0.06	0.945	なし	50.14	家族被害	-1.06	1.000
			家族被害	51.20	ネグレクト	0.61	1.000
			ネグレクト	49.53	ネグレクト	1.67	1.000
偏狭*	3.72	0.026	なし	55.34	家族被害	7.14	0.397
			家族被害	48.20	ネグレクト	-5.51	0.087
			ネグレクト	60.84	ネグレクト	-12.64	0.050

注 1 性的暴力②(性交)においては、「虐待」群の数が1であるため、分析を行わなかった。

2 資料2の注1・2に同じ。

## 資料6 被害の種類をまとめた場合の3群間の分散分析及び多重比較

## ① 身体的暴力

	分散分析		多重比較				
	F値 (2, 2245)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構**	12.43	0.000	なし	51.57	家族被害	0.89	0.375
					被虐待**	2.35	0.000
			家族被害	50.68	被虐待*	1.46	0.015
			被虐待				
偏向	0.08	0.925	なし	47.35	家族被害	-0.03	1.000
					被虐待	-0.15	1.000
			家族被害	47.38	被虐待	-0.12	1.000
			被虐待				
自我防衛**	12.70	0.000	なし	51.34	家族被害**	1.96	0.001
					被虐待**	2.28	0.000
			家族被害	49.38	被虐待	0.32	1.000
			被虐待				
心気症**	5.28	0.005	なし	52.25	家族被害	-1.31	0.082
					被虐待**	-1.59	0.004
			家族被害	53.56	被虐待	-0.28	1.000
			被虐待				
自信欠如	2.74	0.065	なし	48.81	家族被害	-1.12	0.163
					被虐待	-1.05	0.094
			家族被害	49.93	被虐待	0.07	1.000
			被虐待				
抑うつ*	3.58	0.028	なし	49.15	家族被害	-0.99	0.207
					被虐待*	-1.21	0.026
			家族被害	50.14	被虐待	-0.21	1.000
			被虐待				
不安定**	9.30	0.000	なし	48.38	家族被害	-0.41	1.000
					被虐待**	-2.01	0.000
			家族被害	48.79	被虐待*	-1.60	0.010
			被虐待				
爆発**	6.53	0.001	なし	49.24	家族被害	-1.19	0.120
					被虐待**	-1.75	0.001
			家族被害	50.42	被虐待	-0.57	0.828
			被虐待				
自己顕示**	14.95	0.000	なし	50.16	家族被害	-0.83	0.462
					被虐待**	-2.54	0.000
			家族被害	50.98	被虐待**	-1.71	0.003
			被虐待				
過活動*	4.04	0.018	なし	53.45	家族被害	0.36	1.000
					被虐待	-0.88	0.146
			家族被害	53.09	被虐待*	-1.24	0.029
			被虐待				
軽躁*	3.57	0.028	なし	51.63	家族被害	0.05	1.000
					被虐待	-0.99	0.083
			家族被害	51.58	被虐待	-1.04	0.091
			被虐待				
従属	1.10	0.332	なし	49.95	家族被害	-0.52	1.000
					被虐待	-0.71	0.418
			家族被害	50.47	被虐待	-0.19	1.000
			被虐待				
偏狭**	10.49	0.000	なし	49.93	家族被害	-1.03	0.232
					被虐待**	-2.20	0.000
			家族被害	50.96	被虐待	-1.18	0.072
			被虐待				

## ② 性的暴力

	分散分析		多重比較				
	F 値 (2, 2313)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構	0.52	0.597	なし	50.20	家族被害	-1.42	1.000
			家族被害	51.62	被虐待	-0.97	1.000
			被虐待	51.17		0.45	1.000
偏向**	9.60	0.000	なし	47.33	家族被害 **	-5.18	0.000
			家族被害	52.51	被虐待	-3.75	0.088
			被虐待	51.08		1.43	1.000
自我防衛	0.12	0.886	なし	49.77	家族被害	0.66	1.000
			家族被害	49.10	被虐待	-0.40	1.000
			被虐待	50.17		-1.06	1.000
心気症*	3.82	0.022	なし	53.29	家族被害 *	-3.94	0.045
			家族被害	57.23	被虐待	-2.75	0.544
			被虐待	56.04		1.19	1.000
自信欠如	0.28	0.758	なし	49.61	家族被害	-1.17	1.000
			家族被害	50.79	被虐待	0.08	1.000
			被虐待	49.54		1.25	1.000
抑うつ	2.74	0.065	なし	49.88	家族被害	-3.22	0.090
			家族被害	53.10	被虐待	-1.70	1.000
			被虐待	51.58		1.52	1.000
不安定	1.86	0.156	なし	49.41	家族被害	0.57	1.000
			家族被害	48.85	被虐待	-3.96	0.176
			被虐待	53.38		-4.53	0.261
爆発	1.98	0.139	なし	50.28	家族被害	-2.74	0.245
			家族被害	53.03	被虐待	-1.96	0.978
			被虐待	52.25		0.78	1.000
自己顕示	0.43	0.654	なし	51.59	家族被害	-0.41	1.000
			家族被害	52.00	被虐待	-1.79	1.000
			被虐待	53.38		-1.38	1.000
過活動	1.27	0.281	なし	53.81	家族被害	1.96	0.530
			家族被害	51.85	被虐待	-1.52	1.000
			被虐待	55.33		-3.49	0.405
軽躁	1.87	0.154	なし	52.18	家族被害	2.80	0.162
			家族被害	49.38	被虐待	-0.27	1.000
			被虐待	52.46		-3.07	0.565
従属	0.57	0.568	なし	50.48	家族被害	1.36	1.000
			家族被害	49.13	被虐待	1.20	1.000
			被虐待	49.29		-0.16	1.000
偏狭*	4.34	0.013	なし	51.15	家族被害 *	-4.54	0.012
			家族被害	55.69	被虐待	-1.35	1.000
			被虐待	52.50		3.19	0.624

## ③ 全被害

	分散分析		多重比較				
	F値 (2, 2245)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構**	12.59	0.000	なし	51.61	家族被害 被虐待 **	0.93 2.38	0.331 0.000
			家族被害	50.68	被虐待 *	1.44	0.017
			被虐待	49.25			
偏向	0.14	0.872	なし	47.38	家族被害 被虐待	0.07 -0.15	1.000 1.000
			家族被害	47.31	被虐待	-0.22	1.000
			被虐待	47.54			
自我防衛**	15.12	0.000	なし	51.50	家族被害 被虐待 **	2.18 2.50	0.000 0.000
			家族被害	49.32	被虐待	0.32	1.000
			被虐待	49.01			
心気症**	5.64	0.004	なし	52.22	家族被害 被虐待 **	-1.29 -1.67	0.093 0.003
			家族被害	53.51	被虐待	-0.38	1.000
			被虐待	53.88			
自信欠如*	3.02	0.049	なし	48.78	家族被害 被虐待	-1.17 -1.13	0.142 0.066
			家族被害	49.95	被虐待	0.04	1.000
			被虐待	49.89			
抑うつ*	4.58	0.010	なし	49.03	家族被害 被虐待 **	-1.15 -1.37	0.111 0.009
			家族被害	50.18	被虐待	-0.22	1.000
			被虐待	50.39			
不安定**	9.75	0.000	なし	48.34	家族被害 被虐待 **	-0.46 -2.07	1.000 0.000
			家族被害	48.80	被虐待 **	-1.61	0.009
			被虐待	50.39			
爆発**	6.09	0.002	なし	49.26	家族被害 被虐待 **	-1.21 -1.70	0.115 0.002
			家族被害	50.47	被虐待	-0.49	1.000
			被虐待	50.95			
自己顯示**	15.85	0.000	なし	50.12	家族被害 被虐待 **	-0.84 -2.62	0.454 0.000
			家族被害	50.96	被虐待 **	-1.78	0.002
			被虐待	52.74			
過活動**	5.33	0.005	なし	53.39	家族被害 被虐待	0.37 -1.04	1.000 0.063
			家族被害	53.02	被虐待 *	-1.41	0.010
			被虐待	54.42			
軽躁*	3.06	0.047	なし	51.68	家族被害 被虐待	0.03 -0.93	1.000 0.122
			家族被害	51.65	被虐待	-0.96	0.142
			被虐待	52.60			
従属	1.21	0.299	なし	49.97	家族被害 被虐待	-0.42 -0.74	1.000 0.365
			家族被害	50.39	被虐待	-0.33	1.000
			被虐待	50.71			
偏狭**	11.96	0.000	なし	49.82	家族被害 被虐待 **	-1.12 -2.36	0.168 0.000
			家族被害	50.94	被虐待	-1.24	0.053
			被虐待	52.18			

注 1 「①身体的暴力」の「なし」群は、身体的暴力①（軽度）及び身体的暴力②（重度）のいずれの被害経験も被虐待経験もない者、「家族被害」群は、これらの少なくとも一つで被害経験を有するが、被虐待経験はない者、「被虐待」群は、少なくとも一つで被虐待経験を有する者である。「②性的暴力」は、性的暴力①（接触）及び性的暴力②（性交）をまとめたもの、「③全被害」は不適切な保護態度を含む全被害種類をまとめたものであり、その定義は身体的暴力と同様である。

2 資料2の注1・2に同じ。

## 資料7 虐待の種類の組合せによる群間の多重比較

	分散分析		多重比較				
	F 値 (5,1116)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構	0.15	0.979	身体的虐待のみ	49.26	性的虐待のみ	-1.74	1.000
					ネグレクトのみ	0.42	1.000
					身体的+性的虐待	-1.34	1.000
					身体的虐待+ネグレクト	0.51	1.000
			性的虐待のみ	51.00	身体的+性的虐待+ネグレクト	-0.74	1.000
					ネグレクトのみ	2.17	1.000
					身体的+性的虐待	0.40	1.000
					身体的虐待+ネグレクト	2.25	1.000
			ネグレクトのみ	48.83	身体的+性的虐待+ネグレクト	1.00	1.000
					身体的+性的虐待	-1.77	1.000
					身体的虐待+ネグレクト	0.08	1.000
			身体的+性的虐待	50.60	身体的+性的虐待+ネグレクト	-1.17	1.000
					身体的虐待+ネグレクト	1.85	1.000
			身体的虐待+ネグレクト	48.75	身体的+性的虐待+ネグレクト	0.60	1.000
身体的+性的虐待+ネグレクト	-1.25	1.000					
偏向*	2.77	0.017	身体的虐待のみ	47.19	性的虐待のみ	0.44	1.000
					ネグレクトのみ	-0.92	1.000
					身体的+性的虐待	-6.01	0.096
					身体的虐待+ネグレクト	-2.28	0.157
			性的虐待のみ	46.75	身体的+性的虐待+ネグレクト	-2.47	1.000
					ネグレクトのみ	-1.36	1.000
					身体的+性的虐待	-6.45	1.000
					身体的虐待+ネグレクト	-2.72	1.000
			ネグレクトのみ	48.11	身体的+性的虐待+ネグレクト	-2.92	1.000
					身体的+性的虐待	-5.09	1.000
					身体的虐待+ネグレクト	-1.36	1.000
			身体的+性的虐待	53.20	身体的+性的虐待+ネグレクト	-1.56	1.000
					身体的虐待+ネグレクト	3.73	1.000
			身体的虐待+ネグレクト	49.47	身体的+性的虐待+ネグレクト	3.53	1.000
身体的+性的虐待+ネグレクト	-0.20	1.000					
自我防衛	0.80	0.549	身体的虐待のみ	49.10	性的虐待のみ	1.10	1.000
					ネグレクトのみ	2.99	1.000
					身体的+性的虐待	-0.30	1.000
					身体的虐待+ネグレクト	0.78	1.000
			性的虐待のみ	48.00	身体的+性的虐待+ネグレクト	-6.23	1.000
					ネグレクトのみ	1.89	1.000
					身体的+性的虐待	-1.40	1.000
					身体的虐待+ネグレクト	-0.32	1.000
			ネグレクトのみ	46.11	身体的+性的虐待+ネグレクト	-7.33	1.000
					身体的+性的虐待	-3.29	1.000
					身体的虐待+ネグレクト	-2.21	1.000
			身体的+性的虐待	49.40	身体的+性的虐待+ネグレクト	-9.22	1.000
					身体的虐待+ネグレクト	1.08	1.000
			身体的虐待+ネグレクト	48.32	身体的+性的虐待+ネグレクト	-5.93	1.000
身体的+性的虐待+ネグレクト	-7.01	1.000					
心気症	1.64	0.147	身体的虐待のみ	53.64	性的虐待のみ	1.64	1.000
					ネグレクトのみ	-1.81	1.000
					身体的+性的虐待	-4.50	1.000
					身体的虐待+ネグレクト	-2.16	0.666
					身体的+性的虐待+ネグレクト	5.64	1.000

	分散分析		多重比較							
	F 値 (5,1116)	有意確率	平均値	比較群	平均値の差	有意確率				
			性的虐待のみ	52.0	ネグレクトのみ	-3.44	1.000			
					身体的+性的虐待	-6.13	1.000			
					身体的虐待+ネグレクト	-3.80	1.000			
					身体的+性的虐待+ネグレクト	4.00	1.000			
			ネグレクトのみ	55.44	身体的+性的虐待	-2.69	1.000			
					身体的虐待+ネグレクト	-0.36	1.000			
					身体的+性的虐待+ネグレクト	7.44	1.000			
			身体的+性的虐待	58.13	身体的虐待+ネグレクト	2.33	1.000			
					身体的+性的虐待+ネグレクト	10.13	1.000			
			身体的虐待+ネグレクト	55.80	身体的+性的虐待+ネグレクト	7.80	1.000			
			身体的+性的虐待+ネグレクト	48.00						
			自信欠如	0.26	0.937	身体的虐待のみ	49.83	性的虐待のみ	2.83	1.000
								ネグレクトのみ	-2.00	1.000
								身体的+性的虐待	-0.10	1.000
	身体的虐待+ネグレクト	-0.47					1.000			
	身体的+性的虐待+ネグレクト	-0.17					1.000			
性的虐待のみ	47.00	ネグレクトのみ				-4.83	1.000			
		身体的+性的虐待				-2.93	1.000			
		身体的虐待+ネグレクト				-3.30	1.000			
		身体的+性的虐待+ネグレクト				-3.00	1.000			
ネグレクトのみ	51.83	身体的+性的虐待				1.90	1.000			
		身体的虐待+ネグレクト				1.53	1.000			
		身体的+性的虐待+ネグレクト				1.83	1.000			
身体的+性的虐待	49.93	身体的虐待+ネグレクト				-0.37	1.000			
		身体的+性的虐待+ネグレクト				-0.07	1.000			
身体的虐待+ネグレクト	50.30	身体的+性的虐待+ネグレクト	0.30	1.000						
身体的+性的虐待+ネグレクト	50.00									
抑うつ*	2.51	0.029	身体的虐待のみ	50.08	性的虐待のみ	2.08	1.000			
					ネグレクトのみ	-2.42	1.000			
					身体的+性的虐待	-3.65	1.000			
					身体的虐待+ネグレクト *	-2.83	0.048			
					身体的+性的虐待+ネグレクト	3.41	1.000			
			性的虐待のみ	48.00	ネグレクトのみ	-4.50	1.000			
					身体的+性的虐待	-5.73	1.000			
					身体的虐待+ネグレクト	-4.91	1.000			
					身体的+性的虐待+ネグレクト	1.33	1.000			
			ネグレクトのみ	52.50	身体的+性的虐待	-1.23	1.000			
					身体的虐待+ネグレクト	-0.41	1.000			
					身体的+性的虐待+ネグレクト	5.83	1.000			
			身体的+性的虐待	53.73	身体的虐待+ネグレクト	0.82	1.000			
					身体的+性的虐待+ネグレクト	7.07	1.000			
身体的虐待+ネグレクト	52.91	身体的+性的虐待+ネグレクト	6.24	1.000						
身体的+性的虐待+ネグレクト	46.67									
不安定	0.90	0.478	身体的虐待のみ	50.28	性的虐待のみ	0.28	1.000			
					ネグレクトのみ	-1.33	1.000			
					身体的+性的虐待	-4.38	1.000			
					身体的虐待+ネグレクト	-0.49	1.000			
					身体的+性的虐待+ネグレクト	-6.72	1.000			
			性的虐待のみ	50.00	ネグレクトのみ	-1.61	1.000			
					身体的+性的虐待	-4.67	1.000			
					身体的虐待+ネグレクト	-0.77	1.000			
					身体的+性的虐待+ネグレクト	-7.00	1.000			
			ネグレクトのみ	51.61	身体的+性的虐待	-3.06	1.000			
					身体的虐待+ネグレクト	0.84	1.000			
					身体的+性的虐待+ネグレクト	-5.39	1.000			



	分散分析		多重比較					
	F値 (5,1116)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率	
			身体的+性的虐待	54.67	身体的虐待+ネグレクト	3.90	1.000	
					身体的+性的虐待+ネグレクト	-2.33	1.000	
			身体的虐待+ネグレクト	50.77	身体的+性的虐待+ネグレクト	-6.23	1.000	
					身体的+性的虐待+ネグレクト	57.00		
爆発	0.70	0.625	身体的虐待のみ	50.91	性的虐待のみ	1.91	1.000	
					ネグレクトのみ	1.96	1.000	
					身体的+性的虐待	-1.09	1.000	
					身体的虐待+ネグレクト	-0.53	1.000	
			性的虐待のみ	49.00	身体的+性的虐待+ネグレクト	-8.43	1.000	
					ネグレクトのみ	0.06	1.000	
					身体的+性的虐待	-3.00	1.000	
					身体的虐待+ネグレクト	-2.44	1.000	
			ネグレクトのみ	48.94	身体的+性的虐待+ネグレクト	-10.33	1.000	
					身体的+性的虐待	-3.06	1.000	
					身体的虐待+ネグレクト	-2.50	1.000	
					身体的+性的虐待+ネグレクト	-10.39	1.000	
			身体的+性的虐待	52.00	身体的虐待+ネグレクト	0.56	1.000	
					身体的+性的虐待+ネグレクト	-7.33	1.000	
					身体的虐待+ネグレクト	51.44		
					身体的+性的虐待+ネグレクト	59.33		
自己顕示	0.64	0.669	身体的虐待のみ	52.54	性的虐待のみ	4.29	1.000	
					ネグレクトのみ	-1.57	1.000	
					身体的+性的虐待	-0.32	1.000	
					身体的虐待+ネグレクト	-1.46	1.000	
			性的虐待のみ	48.25	身体的+性的虐待+ネグレクト	-0.12	1.000	
					ネグレクトのみ	-5.86	1.000	
					身体的+性的虐待	-4.62	1.000	
					身体的虐待+ネグレクト	-5.75	1.000	
			ネグレクトのみ	54.11	身体的+性的虐待+ネグレクト	-4.42	1.000	
					身体的+性的虐待	1.24	1.000	
					身体的虐待+ネグレクト	0.11	1.000	
					身体的+性的虐待+ネグレクト	1.44	1.000	
			身体的+性的虐待	52.87	身体的虐待+ネグレクト	-1.13	1.000	
					身体的+性的虐待+ネグレクト	0.20	1.000	
					身体的虐待+ネグレクト	54.00		
					身体的+性的虐待+ネグレクト	52.67		
過活動	0.78	0.568	身体的虐待のみ	54.25	性的虐待のみ	-1.00	1.000	
					ネグレクトのみ	-3.81	1.000	
					身体的+性的虐待	0.31	1.000	
					身体的虐待+ネグレクト	-0.79	1.000	
			性的虐待のみ	55.25	身体的+性的虐待+ネグレクト	-0.42	1.000	
					ネグレクトのみ	-2.81	1.000	
					身体的+性的虐待	1.32	1.000	
					身体的虐待+ネグレクト	0.21	1.000	
			ネグレクトのみ	58.06	身体的+性的虐待+ネグレクト	0.58	1.000	
					身体的+性的虐待	4.12	1.000	
					身体的虐待+ネグレクト	3.02	1.000	
					身体的+性的虐待+ネグレクト	3.39	1.000	
			身体的+性的虐待	53.93	身体的虐待+ネグレクト	-1.11	1.000	
					身体的+性的虐待+ネグレクト	-0.73	1.000	
					身体的虐待+ネグレクト	55.04		
					身体的+性的虐待+ネグレクト	54.67		
軽躁	0.38	0.862	身体的虐待のみ	52.65	性的虐待のみ	5.40	1.000	
					ネグレクトのみ	1.09	1.000	
					身体的+性的虐待	-0.15	1.000	

	分散分析		多重比較							
	F 値 (5,1116)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率			
					身体的虐待+ネグレクト	0.38	1.000			
					身体的+性的虐待+ネグレクト	1.32	1.000			
			性的虐待のみ	47.25	ネグレクトのみ	-4.31	1.000			
					身体的+性的虐待	-5.55	1.000			
					身体的虐待+ネグレクト	-5.02	1.000			
					身体的+性的虐待+ネグレクト	-4.08	1.000			
					身体的+性的虐待	0.22	1.000			
			ネグレクトのみ	51.56	身体的+性的虐待	-1.24	1.000			
					身体的虐待+ネグレクト	-0.71	1.000			
					身体的+性的虐待+ネグレクト	0.22	1.000			
			身体的+性的虐待	52.80	身体的虐待+ネグレクト	0.53	1.000			
					身体的+性的虐待+ネグレクト	1.47	1.000			
			身体的虐待+ネグレクト	52.27	身体的+性的虐待+ネグレクト	0.94	1.000			
			身体的+性的虐待+ネグレクト	51.33						
従属	0.46	0.806	身体的虐待のみ	50.65	性的虐待のみ	1.90	1.000			
					ネグレクトのみ	-2.30	1.000			
					身体的+性的虐待	2.18	1.000			
					身体的虐待+ネグレクト	-0.38	1.000			
					身体的+性的虐待+ネグレクト	2.65	1.000			
			性的虐待のみ	48.75	ネグレクトのみ	-4.19	1.000			
					身体的+性的虐待	0.28	1.000			
					身体的虐待+ネグレクト	-2.28	1.000			
					身体的+性的虐待+ネグレクト	0.75	1.000			
			ネグレクトのみ	52.94	身体的+性的虐待	4.48	1.000			
					身体的虐待+ネグレクト	1.91	1.000			
					身体的+性的虐待+ネグレクト	4.94	1.000			
			身体的+性的虐待	48.47	身体的虐待+ネグレクト	-2.56	1.000			
					身体的+性的虐待+ネグレクト	0.47	1.000			
			身体的虐待+ネグレクト	51.03	身体的+性的虐待+ネグレクト	3.03	1.000			
			身体的+性的虐待+ネグレクト	48.00						
			偏狭**	3.94	0.002	身体的虐待のみ	51.75	性的虐待のみ	6.25	1.000
								ネグレクトのみ	-4.03	1.000
身体的+性的虐待	-2.52	1.000								
身体的虐待+ネグレクト **	-3.79	0.002								
身体的+性的虐待+ネグレクト	-2.25	1.000								
性的虐待のみ	45.50	ネグレクトのみ				-10.28	0.780			
		身体的+性的虐待				-8.77	1.000			
		身体的虐待+ネグレクト				-10.04	0.595			
		身体的+性的虐待+ネグレクト				-8.50	1.000			
ネグレクトのみ	55.78	身体的+性的虐待				1.51	1.000			
		身体的虐待+ネグレクト				0.24	1.000			
		身体的+性的虐待+ネグレクト				1.78	1.000			
身体的+性的虐待	54.27	身体的虐待+ネグレクト				-1.27	1.000			
		身体的+性的虐待+ネグレクト				0.27	1.000			
身体的虐待+ネグレクト	55.54	身体的+性的虐待+ネグレクト	1.54	1.000						
身体的+性的虐待+ネグレクト	54.00									

注 資料2の注1・2に同じ。

## 資料8 被害態様別・虐待時期による分散分析及び多重比較

## ① 身体的暴力①(軽度)

	分散分析		多重比較				
	F 値 (2, 919)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構	0.70	0.498	小学生まで	48.59	中学生から	-1.10	0.995
					早発・長期	-0.72	0.919
			中学生から	49.69	早発・長期	0.38	1.000
			早発・長期	49.31			
偏向	1.04	0.354	小学生まで	46.73	中学生から	-1.02	0.946
					早発・長期	-0.86	0.519
			中学生から	47.74	早発・長期	0.16	1.000
			早発・長期	47.59			
自我防衛	0.56	0.574	小学生まで	48.80	中学生から	-1.07	0.989
					早発・長期	-0.04	1.000
			中学生から	49.87	早発・長期	1.03	0.929
			早発・長期	48.84			
心気症	0.68	0.507	小学生まで	54.69	中学生から	0.28	1.000
					早発・長期	0.87	0.777
			中学生から	54.41	早発・長期	0.59	1.000
			早発・長期	53.82			
自信欠如	0.40	0.673	小学生まで	50.38	中学生から	0.84	1.000
					早発・長期	0.58	1.000
			中学生から	49.54	早発・長期	-0.26	1.000
			早発・長期	49.80			
抑うつ	1.36	0.257	小学生まで	51.17	中学生から	1.59	0.447
					早発・長期	0.92	0.543
			中学生から	49.57	早発・長期	-0.67	1.000
			早発・長期	50.25			
不安定	0.01	0.988	小学生まで	50.19	中学生から	-0.07	1.000
					早発・長期	-0.12	1.000
			中学生から	50.27	早発・長期	-0.04	1.000
			早発・長期	50.31			
爆発	0.27	0.767	小学生まで	51.31	中学生から	0.74	1.000
					早発・長期	0.45	1.000
			中学生から	50.56	早発・長期	-0.29	1.000
			早発・長期	50.86			
自己顕示*	3.09	0.046	小学生まで	53.41	中学生から *	2.89	0.044
					早発・長期	0.46	1.000
			中学生から	50.52	早発・長期	-2.43	0.080
			早発・長期	52.95			
過活動	0.81	0.447	小学生まで	54.72	中学生から	1.31	0.670
					早発・長期	0.57	1.000
			中学生から	53.41	早発・長期	-0.74	1.000
			早発・長期	54.16			
軽躁	0.73	0.484	小学生まで	52.31	中学生から	0.09	1.000
					早発・長期	-0.70	0.883
			中学生から	52.22	早発・長期	-0.79	1.000
			早発・長期	53.01			
従属	1.86	0.157	小学生まで	51.81	中学生から	1.40	0.678
					早発・長期	1.35	0.184
			中学生から	50.40	早発・長期	-0.05	1.000
			早発・長期	50.46			
偏狭	2.05	0.130	小学生まで	52.35	中学生から	1.91	0.294
					早発・長期	-0.24	1.000
			中学生から	50.44	早発・長期	-2.16	0.131
			早発・長期	52.59			

## ② 身体的暴力② (重度)

	分散分析		多重比較				
	F 値 (2, 625)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構	0.37	0.691	小学生まで	48.62	中学生から	-0.75	1.000
					早発・長期	-0.82	1.000
			中学生から	49.37	早発・長期	-0.07	1.000
			早発・長期	49.44			
偏向	1.49	0.226	小学生まで	47.19	中学生から	0.15	1.000
					早発・長期	-1.17	0.613
			中学生から	47.04	早発・長期	-1.32	0.434
			早発・長期	48.36			
自我防衛	0.66	0.519	小学生まで	49.01	中学生から	-0.26	1.000
					早発・長期	0.69	1.000
			中学生から	49.27	早発・長期	0.95	0.897
			早発・長期	48.32			
心気症	0.27	0.768	小学生まで	54.02	中学生から	0.52	1.000
					早発・長期	-0.23	1.000
			中学生から	53.49	早発・長期	-0.76	1.000
			早発・長期	54.25			
自信欠如	1.11	0.331	小学生まで	48.69	中学生から	-1.04	1.000
					早発・長期	-1.50	0.413
			中学生から	49.73	早発・長期	-0.46	1.000
			早発・長期	50.19			
抑うつ	1.22	0.295	小学生まで	50.61	中学生から	1.11	0.970
					早発・長期	-0.32	1.000
			中学生から	49.50	早発・長期	-1.43	0.357
			早発・長期	50.93			
不安定	0.90	0.406	小学生まで	50.16	中学生から	-0.10	1.000
					早発・長期	-1.15	0.816
			中学生から	50.25	早発・長期	-1.05	0.908
			早発・長期	51.31			
爆発	1.11	0.329	小学生まで	51.71	中学生から	1.24	0.969
					早発・長期	-0.27	1.000
			中学生から	50.48	早発・長期	-1.51	0.413
			早発・長期	51.99			
自己顕示	1.32	0.268	小学生まで	51.88	中学生から	-0.34	1.000
					早発・長期	-1.48	0.461
			中学生から	52.22	早発・長期	-1.13	0.787
			早発・長期	53.36			
過活動	1.97	0.141	小学生まで	53.21	中学生から	-0.69	1.000
					早発・長期	-1.71	0.188
			中学生から	53.90	早発・長期	-1.02	0.764
			早発・長期	54.93			
軽躁	1.42	0.243	小学生まで	51.57	中学生から	-1.93	0.285
					早発・長期	-0.86	1.000
			中学生から	53.50	早発・長期	1.07	0.758
			早発・長期	52.43			
従属	0.73	0.483	小学生まで	49.67	中学生から	-0.51	1.000
					早発・長期	-1.14	0.749
			中学生から	50.19	早発・長期	-0.63	1.000
			早発・長期	50.82			
偏狭*	3.27	0.039	小学生まで	51.67	中学生から	0.50	1.000
					早発・長期	-1.70	0.259
			中学生から	51.16	早発・長期	-2.21	0.070
			早発・長期	53.37			

## ③ 性的暴力① (接触)

	分散分析		多重比較				
	F 値 (2, 18)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構	1.77	0.199	小学生まで	50.45	中学生から	-5.21	0.873
					早発・長期	6.20	0.826
			中学生から	55.67	早発・長期	11.42	0.232
			早発・長期	44.25			
偏向	0.45	0.648	小学生まで	50.27	中学生から	-3.23	1.000
					早発・長期	-4.73	1.000
			中学生から	53.50	早発・長期	-1.50	1.000
			早発・長期	55.00			
自我防衛*	4.22	0.032	小学生まで	51.91	中学生から	-0.42	1.000
					早発・長期 *	11.41	0.042
			中学生から	52.33	早発・長期	11.83	0.059
			早発・長期	50.50			
心気症*	3.61	0.048	小学生まで	58.55	中学生から	9.21	0.215
					早発・長期	-6.70	0.726
			中学生から	49.33	早発・長期	-15.92	0.054
			早発・長期	65.25			
自信欠如*	4.28	0.030	小学生まで	50.00	中学生から	5.67	0.462
					早発・長期	-8.50	0.204
			中学生から	44.33	早発・長期 *	-14.17	0.027
			早発・長期	58.50			
抑うつ*	3.73	0.044	小学生まで	48.36	中学生から	-1.64	1.000
					早発・長期 *	-15.14	0.045
			中学生から	50.00	早発・長期	-13.50	0.132
			早発・長期	63.50			
不安定	0.10	0.902	小学生まで	53.45	中学生から	-0.71	1.000
					早発・長期	-3.30	1.000
			中学生から	54.17	早発・長期	-2.58	1.000
			早発・長期	56.75			
爆発	0.98	0.394	小学生まで	52.64	中学生から	4.97	1.000
					早発・長期	-4.36	1.000
			中学生から	47.67	早発・長期	-9.33	0.558
			早発・長期	57.00			
自己顕示	0.68	0.520	小学生まで	55.55	中学生から	4.71	0.778
					早発・長期	1.80	1.000
			中学生から	50.83	早発・長期	-2.92	1.000
			早発・長期	53.75			
過活動	0.19	0.830	小学生まで	56.82	中学生から	0.48	1.000
					早発・長期	2.82	1.000
			中学生から	56.33	早発・長期	2.33	1.000
			早発・長期	54.00			
軽躁	2.87	0.083	小学生まで	52.82	中学生から	-4.18	0.942
					早発・長期	8.07	0.298
			中学生から	57.00	早発・長期	12.25	0.085
			早発・長期	44.75			
従属	1.36	0.283	小学生まで	51.27	中学生から	7.77	0.517
					早発・長期	-2.23	1.000
			中学生から	43.50	早発・長期	-10.00	0.503
			早発・長期	53.50			
偏狭	2.96	0.077	小学生まで	52.91	中学生から	5.08	0.720
					早発・長期	-7.84	0.360
			中学生から	47.83	早発・長期	-12.92	0.077
			早発・長期	60.75			

## ④ ネグレクト

	分散分析		多重比較				
	F 値 (2, 114)	有意確率	平均値		比較群	平均値の差	有意確率
虚構	0.82	0.442	小学生まで	46.82	中学生から	-1.06	1.000
					早発・長期	-2.79	0.633
			中学生から	47.88	早発・長期	-1.73	1.000
			早発・長期	49.61			
偏向	1.20	0.304	小学生まで	47.59	中学生から	-1.48	1.000
					早発・長期	-3.75	0.389
			中学生から	49.07	早発・長期	-2.27	0.994
			早発・長期	51.34			
自我防衛	0.24	0.784	小学生まで	48.71	中学生から	1.47	1.000
					早発・長期	0.63	1.000
			中学生から	47.24	早発・長期	-0.84	1.000
			早発・長期	48.07			
心気症	1.62	0.203	小学生まで	54.12	中学生から	-0.60	1.000
					早発・長期	-3.88	0.321
			中学生から	54.71	早発・長期	-3.29	0.447
			早発・長期	58.00			
自信欠如	1.15	0.320	小学生まで	48.94	中学生から	-3.46	0.397
					早発・長期	-1.89	1.000
			中学生から	52.40	早発・長期	1.58	1.000
			早発・長期	50.83			
抑うつ	0.13	0.877	小学生まで	52.56	中学生から	-0.92	1.000
					早発・長期	-0.03	1.000
			中学生から	53.48	早発・長期	0.89	1.000
			早発・長期	52.59			
不安定	0.18	0.837	小学生まで	51.29	中学生から	-0.59	1.000
					早発・長期	0.81	1.000
			中学生から	51.88	早発・長期	1.39	1.000
			早発・長期	50.49			
爆発	0.04	0.960	小学生まで	51.91	中学生から	0.67	1.000
					早発・長期	0.35	1.000
			中学生から	51.24	早発・長期	-0.32	1.000
			早発・長期	51.56			
自己顕示	1.52	0.223	小学生まで	54.29	中学生から	1.65	1.000
					早発・長期	-2.12	1.000
			中学生から	52.64	早発・長期	-3.77	0.253
			早発・長期	56.41			
過活動	0.78	0.460	小学生まで	54.21	中学生から	-1.37	1.000
					早発・長期	-2.65	0.642
			中学生から	55.57	早発・長期	-1.28	1.000
			早発・長期	56.85			
軽躁*	3.56	0.032	小学生まで	50.18	中学生から	-1.42	1.000
					早発・長期*	-4.82	0.036
			中学生から	51.60	早発・長期	-3.40	0.179
			早発・長期	55.00			
従属	0.47	0.629	小学生まで	50.47	中学生から	-2.32	1.000
					早発・長期	-0.94	1.000
			中学生から	52.79	早発・長期	1.37	1.000
			早発・長期	51.41			
偏狭	0.31	0.736	小学生まで	54.76	中学生から	-0.88	1.000
					早発・長期	-1.67	1.000
			中学生から	55.64	早発・長期	-0.80	1.000
			早発・長期	55.67			

注 1 「小学生まで」は、虐待が小学校卒業前に虐待が開始、終了した群、「中学生から」は、虐待が中学校入学以降に開始した群、「早発・長期」は、虐待が、小学校入学前あるいは小学生時から始まり、中学生時あるいは中学校卒業以降まで続いた群である。

2 性的暴力②(性交)においては、「中学生から」及び「早発・長期」の群がともにケース数1であるため、分析を行わなかった。

3 資料2の注1・2に同じ。

## 資料9 MJPIの各尺度を従属変数とした重回帰分析により有意とされた変数

## ①虚構

定数・変数	非標準化係数	標準化係数	t	有意確率	分散分析によるF値	回帰式の有意確率	R <sup>2</sup>
定数	50.94		185.57	0.000	F(2,2208) =11.30	0.000	0.010
身体的暴力①(軽度)・ 被虐待**	-1.83	-0.09	-4.36	0.000			
ネグレクト・ 家族被害*	2.88	0.05	2.16	0.031			

## ②偏向

定数・変数	非標準化係数	標準化係数	t	有意確率	分散分析によるF値	回帰式の有意確率	R <sup>2</sup>
定数	47.21		257.09	0.000	F(3,2207) =7.82	0.000	0.011
性的暴力①(接触)・ 家族被害**	4.79	0.07	3.26	0.001			
性的暴力①(接触)・ 被虐待*	4.44	0.05	2.43	0.015			
ネグレクト*	1.73	0.05	2.18	0.030			

## ③自我防衛

定数・変数	非標準化係数	標準化係数	t	有意確率	分散分析によるF値	回帰式の有意確率	R <sup>2</sup>
定数	50.59		186.29	0.000	F(3,2207) =8.30	0.000	0.011
身体的暴力②(重度)・ 被虐待**	-1.87	-0.91	-4.08	0.000			
身体的暴力②(重度)・ 家族被害*	-1.30	-0.05	-2.43	0.015			
性的暴力②(性交)・ 家族被害*	-6.94	-0.50	-2.35	0.019			

## ④心気症

定数・変数	非標準化係数	標準化係数	t	有意確率	分散分析によるF値	回帰式の有意確率	R <sup>2</sup>
定数	52.70		187.64	0.000	F(2,2208) =7.78	0.000	0.007
身体的暴力①(軽度)・ 被虐待**	1.36	0.07	3.18	0.002			
性的暴力①(接触)・ 家族被害*	3.97	0.05	2.27	0.023			

## ⑤抑うつ

定数・変数	非標準化係数	標準化係数	t	有意確率	分散分析によるF値	回帰式の有意確率	R <sup>2</sup>
定数	49.76		248.56	0.000	F(2,2208) =8.33	0.000	0.007
ネグレクト**	2.71	0.07	3.13	0.002			
性的暴力②(性交)・ 家族被害*	7.20	0.05	2.48	0.013			

## ⑥不安定

定数・変数	非標準化係数	標準化係数	t	有意確率	分散分析によるF値	回帰式の有意確率	R <sup>2</sup>
定数	48.92		191.27	0.000	F(1,2209) =16.79	0.000	0.008
身体的暴力②(重度)・ 被虐待**	1.96	0.09	4.10	0.000			

## ⑦爆発

定数・変数	非標準化係数	標準化係数	t	有意確率	分散分析によるF値	回帰式の有意確率	R <sup>2</sup>
定数	49.88		204.08	0.000	F(1,2209) =14.37	0.000	0.006
身体的暴力②(重度)・ 被虐待**	1.73	0.08	3.79	0.000			

## ⑧自己顕示

定数・変数	非標準化係数	標準化係数	t	有意確率	分散分析によるF値	回帰式の有意確率	R <sup>2</sup>
定数	50.58		184.69	0.000	F(2,2208) =16.72	0.000	0.015
身体的暴力①(軽度)・ 被虐待**	2.11	0.11	4.97	0.000			
ネグレクト*	1.99	0.05	2.14	0.033			

## ⑨過活動

定数・変数	非標準化係数	標準化係数	t	有意確率	分散分析によるF値	回帰式の有意確率	R <sup>2</sup>
定数	53.37		211.71	0.000	F(2,2208) =5.09	0.006	0.005
身体的暴力①(軽度)・ 被虐待*	0.81	0.05	2.07	0.038			
ネグレクト*	1.78	0.05	2.07	0.039			



## ⑩軽躁

定数・変数	非標準化係数	標準化係数	t	有意確率	分散分析 による F 値	回帰式の 有意確率	R <sup>2</sup>
定数	51.69		204.32	0.000	F (2,2208) =6.46	0.002	0.006
身体的暴力①（軽度）・ 被虐待**	1.09	0.06	2.82	0.005			
性的暴力②（性交）・ 家族被害*	-6.55	-0.05	-2.29	0.022			

## ⑪偏狭

定数・変数	非標準化係数	標準化係数	t	有意確率	分散分析 による F 値	回帰式の 有意確率	R <sup>2</sup>
定数	49.95		159.84	0.000	F (5,2204) =10.72	0.000	0.024
ネグレクト**	3.53	0.08	3.72	0.000			
身体的暴力①（軽度）・ 被虐待*	1.04	0.05	2.19	0.029			
性的暴力①（接触）・ 家族被害*	4.35	0.05	2.54	0.011			
身体的暴力②（重度）・ 被虐待*	1.34	0.06	2.45	0.014			
身体的暴力②（重度）・ 家族被害*	1.14	0.05	2.04	0.041			

注 変数名について「\*」及び「\*\*」は、それぞれ有意水準5%以下、1%以下でその変数が回帰式に対して有意であることを示す。「R<sup>2</sup>」は、MJPI各尺度の変動を回帰式で説明できる説明率である。

## 第8 被害・被虐待経験と非行

以下では、被害・被虐待経験と非行について、まず、回答者を家族からの加害行為の全体的な被害状況に応じて分けた、被虐待経験あり群、家族被害経験のみ群及び経験なし群について、初発非行の時期や検挙・補導歴等に差が見られるかどうかを分析し、次に視点を変えて、加害者が家族かそれ以外の者であるかに応じて分けた、一般被害群、家族被害群及び被虐待群について、少年自身が身体的暴力等の被害・被虐待経験と非行との関連をどのように認識しているかを見ることとする。

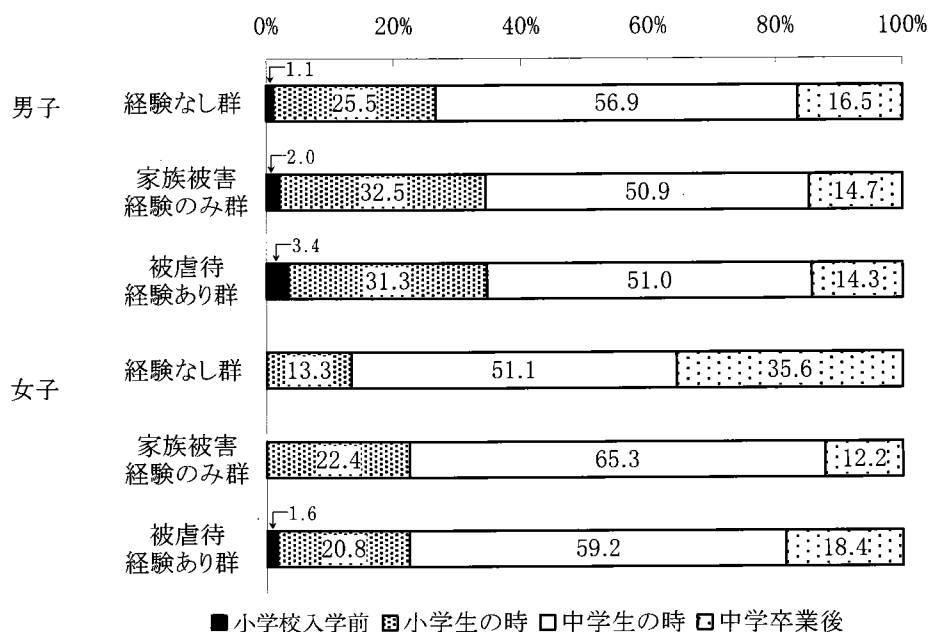
### 1 初発非行

図33は、被虐待経験あり群、家族被害経験のみ群、経験なし群について初発非行の時期を見たものである。初発非行の時期は、男女ともいずれの群についても、中学生の時とする者が半数以上と最も多く、次いで、男子では3群とも小学生の時が多いが、女子の場合は、家族被害経験のみ群及び被虐待経験あり群で小学生の時が多いのに対し、経験なし群では中学卒業後が多くなっている。

男子で初発非行の時期について3群間で有意差が見られ、残差分析の結果、経験なし群で初発時期が小学校入学前及び小学生の時とするものが有意に少なく、中学生の時が有意に多く、被虐待経験あり群で小学校入学前が有意に多くなっている。

なお、被虐待経験あり群についてみると、初発非行の時期に男女で有意差が見られ( $\chi^2(3)=7.890$ ,  $p=0.048$ )、残差分析の結果、男子で初発非行が小学生の時とする者が有意に多い。

図33 家族からの加害行為の状況と初発非行の時期



		初発非行の時期				合 計	検定結果
		小学校入学前	小学生の時	中学生の時	中学卒業後		
男子	経験なし群	6 (1.1) ▼[-2.5]	145 (25.5) ▼[-2.7]	323 (56.9) △[2.4]	94 (16.5) [1.2]	568 (100.0)	$\chi^2(6)=17.809$  p=0.007**
	家族被害経験のみ群	9 (2.0) [-0.7]	148 (32.5) [1.3]	232 (50.9) [-0.9]	67 (14.7) [-0.2]	456 (100.0)	
	被虐待経験あり群	34 (3.4) △[2.8]	316 (31.3) [1.3]	515 (51.0) [-1.4]	144 (14.3) [-0.9]	1,009 (100.0)	
	合 計	49 (2.4)	609 (30.0)	1,070 (52.6)	305 (15.0)	2,033 (100.0)	
女子	経験なし群	0 -	6 (13.3)	23 (51.1)	16 (35.6)	45 (100.0)	(m)  p=0.114
	家族被害経験のみ群	0 -	11 (22.4)	32 (65.3)	6 (12.2)	49 (100.0)	
	被虐待経験あり群	2 (1.6)	26 (20.8)	74 (59.2)	23 (18.4)	125 (100.0)	
	合 計	2 (0.9)	43 (19.6)	129 (58.9)	45 (20.5)	219 (100.0)	

- 注 1 法務総合研究所の調査による。  
 2 無回答を除く。  
 3 ( )内は、構成比である。  
 4 図1の注3・4に同じ。  
 5 表2の注6に同じ。

表45は、被虐待経験あり群について、初発非行の時期と虐待の開始時期を見たものである。男女とも、小学生の時に虐待が始まり中学生の時に初発非行に到った者が、約30%と最も高い比率を占め、次いで、男子では、虐待の開始時期と初発非行時期がともに小学生の時である者、及び小学校入学前に虐待が始まり初発非行が中学生の時とする者が約20%と高くなっている。これに対し、女子は、虐待の開始時期と初発非行時期がともに小学生の時又は中学生の時である者が、約10%と高くなっている。虐待の開始時期と初発非行の時期には、男子で有意な関連が認められ、残差分析の結果、両者が同時期であるものが中学生の時及び中学卒業後で有意に多くなっている。

なお、初発非行の内容については、本調査で職員が記入する調査票において、自由記述で回答を求めたため、記載内容が多岐にわたり、その意味するところが正確に特定できないおそれがあるので、今回は分析の対象としない。

表45 虐待の開始時期と初発非行の時期

	虐待の開始時期	初発非行の時期				合計	検定結果
		小学校入学前	小学生の時	中学生の時	中学卒業後		
男子	小学校入学前	15 (4.8) [1.6]	92 (29.3) [-1.0]	163 (51.9) [0.4]	44 (14.0) [-0.1]	314 (100.0)	(m)  p=0.003**
	小学生の時	18 (3.3) [-0.3]	186 (33.9) [1.9]	268 (48.8) [-1.5]	77 (14.0) [-0.2]	549 (100.0)	
	中学生の時	0 - ▼[-2.1]	29 (25.7) [-1.4]	70 (61.9) △[2.5]	14 (12.4) [-0.6]	113 (100.0)	
	中学卒業後	1 (11.1) [1.3]	2 (22.2) [-0.6]	1 (11.1) ▼[-2.4]	5 (55.6) △[3.6]	9 (100.0)	
	合計	34 (3.5)	309 (31.4)	502 (51.0)	140 (14.2)	985 (100.0)	
女子	小学校入学前	1 (2.3)	10 (22.7)	25 (56.8)	8 (18.2)	44 (100.0)	(m)  p=0.899
	小学生の時	0 -	12 (21.8)	34 (61.8)	9 (16.4)	55 (100.0)	
	中学生の時	0 -	4 (22.2)	12 (66.7)	2 (11.1)	18 (100.0)	
	中学卒業後	0 -	0 -	1 (50.0)	1 (50.0)	2 (100.0)	
	合計	1 (0.8)	26 (21.8)	72 (60.5)	20 (16.8)	119 (100.0)	

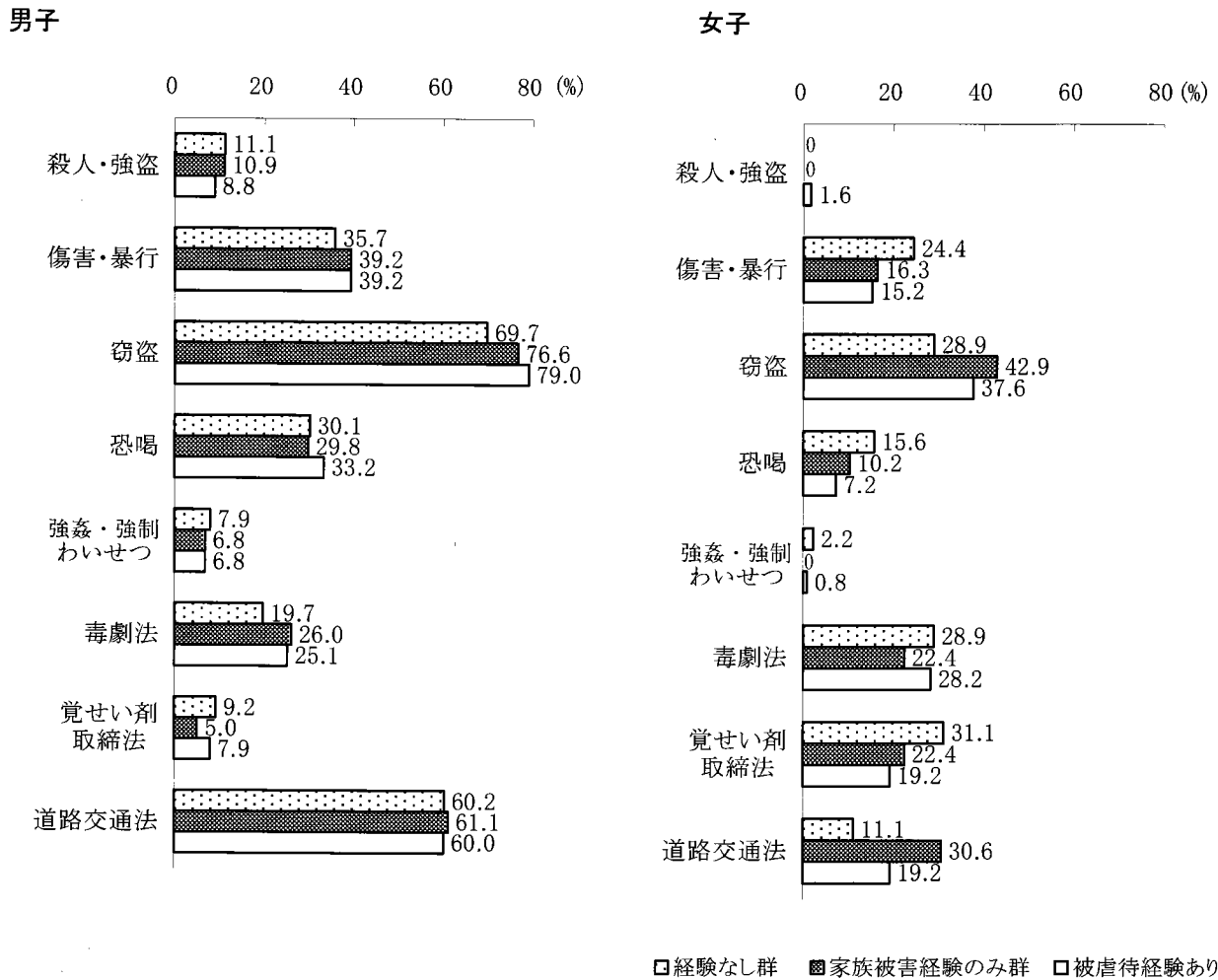
- 注 1 法務総合研究所の調査による。  
 2 無回答を除く。  
 3 ( )内は、構成比である。  
 4 図1の注3・4に同じ。  
 5 表2の注6に同じ。

## 2 非行歴

### (1) 検挙・補導歴

図34は、本件非行以前の検挙・補導歴の有無を、強盗、窃盗等主要な非行名について群別に見たものである。男子では、いずれの群も、窃盗の検挙・補導歴を有する者の比率が最も高く、次いで道路交通法違反である。女子では、家族被害経験のみ群と被虐待経験あり群において窃盗が最も高いが、経験なし群では覚せい剤取締法違反が最も高い。3群間の有意差が見られた非行名は、男子の窃盗、毒劇法違反及び覚せい剤取締法違反であり、残差分析の結果、検挙・補導歴のある者は、窃盗については被虐待経験あり群で有意に多く、経験なし群で有意に少ない。また、毒劇法については経験なし群で、覚せい剤取締法違反については家族被害経験のみ群で、それぞれ有意に少ない。

図34 主要非行名別検挙・補導歴



□経験なし群 ■家族被害経験のみ群 ▨被虐待経験あり群

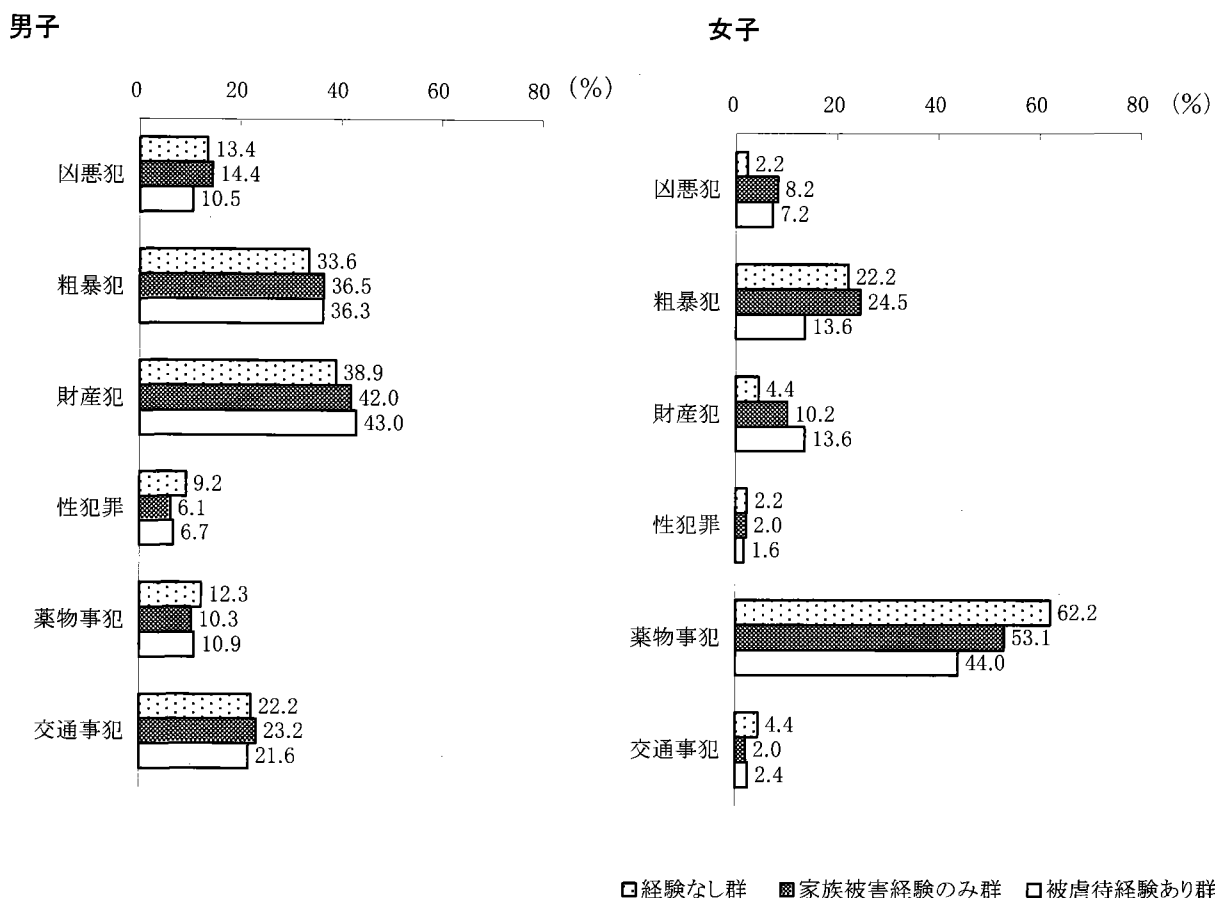
	男子				検定結果	女子				検定結果
	経験なし群	家族被害経験のみ群	被虐待経験あり群	合計		経験なし群	家族被害経験のみ群	被虐待経験あり群	合計	
殺人・強盗	63 (11.1)	50 (10.9)	89 (8.8)	202 (9.9)	$\chi^2(2)=2.767$ $p=0.251$	0 -	0 -	2 (1.6)	2 (0.9)	(m) $p=0.511$
傷害・暴行	203 (35.7)	179 (39.2)	396 (39.2)	778 (38.2)	$\chi^2(2)=2.103$ $p=0.349$	11 (24.4)	8 (16.3)	19 (15.2)	38 (17.4)	$\chi^2(2)=2.018$ $p=0.365$
窃盗	396 (69.7) ▼[-4.0]	350 (76.6) [0.4]	797 (79.0) △[3.3]	1,543 (75.9)	$\chi^2(2)=17.226$ $p=0.000^{**}$	13 (28.9)	21 (42.9)	47 (37.6)	81 (37.0)	$\chi^2(2)=2.011$ $p=0.366$
恐喝	171 (30.1)	136 (29.8)	335 (33.2)	642 (31.6)	$\chi^2(2)=2.5$ $p=0.286$	7 (15.6)	5 (10.2)	9 (7.2)	21 (9.6)	(m) $p=0.241$
強姦・強制わいせつ	45 (7.9)	31 (6.8)	69 (6.8)	145 (7.1)	$\chi^2(2)=0.751$ $p=0.687$	1 (2.2)	0 -	1 (0.8)	2 (0.9)	(m) $p=0.738$
毒劇法	112 (19.7) ▼[-2.7]	119 (26.0) [1.3]	253 (25.1) [1.3]	484 (23.8)	$\chi^2(2)=7.386$ $p=0.025^*$	13 (28.9)	11 (22.4)	35 (28.2)	59 (27.1)	$\chi^2(2)=0.689$ $p=0.708$
覚せい剤取締法	52 (9.2) [1.6]	23 (5.0) ▼[-2.4]	80 (7.9) [0.5]	155 (7.6)	$\chi^2(2)=6.383$ $p=0.041^*$	14 (31.1)	11 (22.4)	24 (19.2)	49 (22.4)	$\chi^2(2)=2.703$ $p=0.259$
道路交通法	342 (60.2)	279 (61.1)	605 (60.0)	1,226 (60.3)	$\chi^2(2)=0.157$ $p=0.924$	5 (11.1)	15 (30.6)	24 (19.2)	44 (20.1)	$\chi^2(2)=5.701$ $p=0.058$
総数	568	457	1,009	2,034		45	49	125	219	

注 1 法務総合研究所の調査による。  
 2 無回答を除く。  
 3 重複選択による。  
 4 グラフ及び表は、各項目に該当したもののみを挙げている。  
 5 ( )内は、総数に対する比率である。  
 6 図1の注3・4に同じ。  
 7 図5の注5に同じ。

(2) 本件非行

図35は、本件を非行種別に見たものである。男子では、いずれの群も財産犯の比率が最も高く、次いで粗暴犯であり、女子では、いずれの群も薬物事犯が最も高く、次いで被虐待経験あり群は財産犯と粗暴犯が、その他の群は粗暴犯が、それぞれ高くなっている。しかし、男女とも、いずれの非行種も3群間に有意差は見られなかった。

図35 非行種別本件非行



	男 子				女 子					
	経験なし 群	家族被害 経験のみ 群	被虐待経 験あり群	合 計	検定結果	経験なし 群	家族被害 経験のみ 群	被虐待経 験あり群	合 計	検定結果
凶 悪 犯	76 (13.4)	66 (14.4)	106 (10.5)	248 (12.2)	$\chi^2(2)=5.591$ p=0.610	1 (2.2)	4 (8.2)	9 (7.2)	14 (6.4)	(m) p=0.485
粗 暴 犯	191 (33.6)	167 (36.5)	366 (36.3)	724 (35.6)	$\chi^2(2)=1.342$ p=0.511	10 (22.2)	12 (24.5)	17 (13.6)	39 (17.8)	$\chi^2(2)=3.606$ p=0.165
財 産 犯	221 (38.9)	192 (42.0)	434 (43.0)	847 (41.6)	$\chi^2(2)=2.553$ p=0.279	2 (4.4)	5 (10.2)	17 (13.6)	24 (11.0)	$\chi^2(2)=2.879$ p=0.237
性 犯 罪	52 (9.2)	28 (6.1)	68 (6.7)	148 (7.3)	$\chi^2(2)=4.297$ p=0.117	1 (2.2)	1 (2.0)	2 (1.6)	4 (1.8)	(m) p=1.000
薬物事犯	70 (12.3)	47 (10.3)	110 (10.9)	227 (11.2)	$\chi^2(2)=1.197$ p=0.550	28 (62.2)	26 (53.1)	55 (44.0)	109 (49.8)	$\chi^2(2)=4.668$ p=0.097
交通事犯	126 (22.2)	106 (23.2)	218 (21.6)	450 (22.1)	$\chi^2(2)=0.463$ p=0.793	2 (4.4)	1 (2.0)	3 (2.4)	6 (2.7)	(m) p=0.734
総 数	568	457	1,009	2,034		45	49	125	219	

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 重複選択による。

4 非行種別は次により、各非行名は未遂を含む。

凶悪犯：殺人、強盗、放火

粗暴犯：傷害、暴行、脅迫、恐喝、凶器準備集合、暴力行為等処罰法違反

財産犯：窃盗、詐欺、横領

性犯罪：強姦、強制わいせつ、公然わいせつ

薬物事犯：毒劇法違反、覚せい剤取締法違反

交通事犯：道路交通法違反

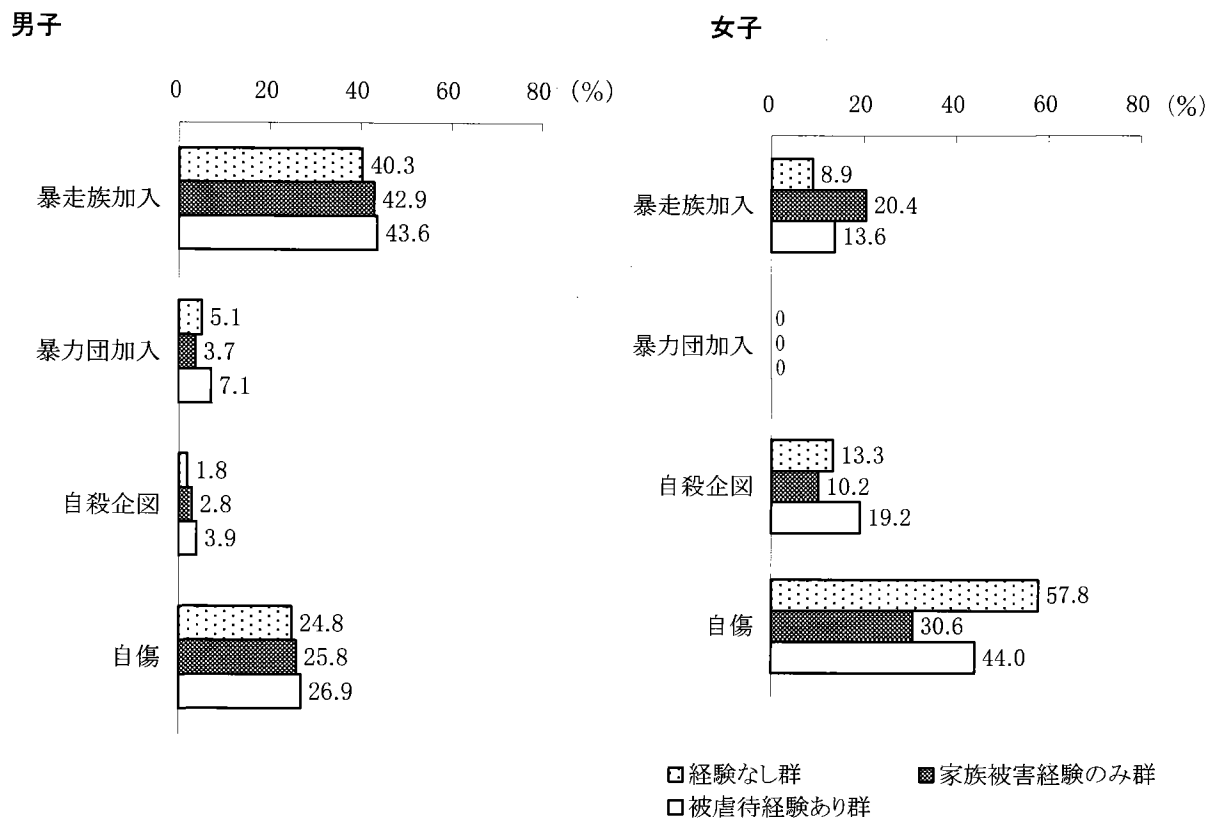
5 図1の注3に同じ。

6 図34の注4・5に同じ。

### (3) 問題行動歴

図36は、3群について、暴走族への加入等の問題行動歴のある者の比率を比べてみたものである。男子の暴力団への加入について、3群間で有意差が見られ、残差分析の結果、加入歴のある者は被虐待経験あり群で有意に多くなっている。自殺企図についても、男子の被虐待経験あり群で有意に多い傾向が見られる。また、女子で自傷をした者は、経験なし群で有意に多い。

図36 問題行動歴



	男 子					女 子				
	経験なし群	家族被害経験のみ群	被虐待経験あり群	合計	検定結果	経験なし群	家族被害経験のみ群	被虐待経験あり群	合計	検定結果
暴走族加入	229 (40.3)	196 (42.9)	440 (43.6)	865 (42.5)	$\chi^2(2)=1.642$ p=0.440	4 (8.9)	10 (20.4)	17 (13.6)	31 (14.2)	$\chi^2(2)=2.635$ p=0.268
暴力団加入	29 (5.1) [-0.8]	17 (3.7) ▼[-2.2]	72 (7.1) △[2.6]	118 (5.8)	$\chi^2(2)=7.414$ p=0.025*	0 -	0 -	0 -	0 -	-
自殺企図	10 (1.8)	13 (2.8)	39 (3.9)	62 (3.0)	$\chi^2(2)=5.530$ p=0.063	6 (13.3)	5 (10.2)	24 (19.2)	35 (16.0)	$\chi^2(2)=2.417$ p=0.299
自 傷	141 (24.8)	118 (25.8)	271 (26.9)	530 (26.1)	$\chi^2(2)=0.798$ p=0.671	26 (57.8) △[2.1]	15 (30.6) ▼[-2.1]	55 (44.0) [0.1]	96 (43.8)	$\chi^2(2)=7.034$ p=0.030*
総 数	568	457	1,009	2,034		45	49	125	219	

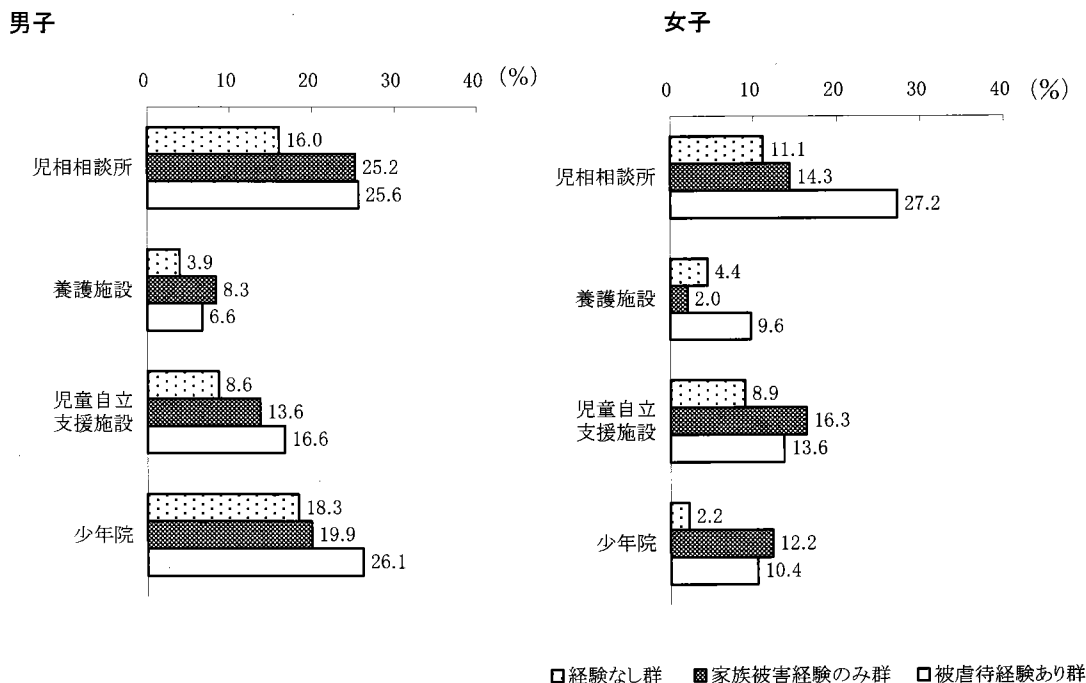
注 1 法務総合研究所の調査による。  
 2 無回答を除く。  
 3 重複選択による。  
 4 「検定結果」欄の「-」は、検定ができなかったことを示す。  
 5 表4の注3に同じ。  
 6 図1の注4に同じ。  
 7 図34の注4・5に同じ。



3 施設係属歴

図37は、児童相談所、養護施設、児童自立支援施設及び少年院への係属歴のある者を3群について見たものである。

図37 施設係属歴



	男 子					女 子				
	経験なし群	家族被害経験のみ群	被虐待経験あり群	合計	検定結果	経験なし群	家族被害経験のみ群	被虐待経験あり群	合計	検定結果
児童相談所	91 (16.0) ▼[-4.5]	115 (25.2) [1.4]	258 (25.6) △[2.9]	464 (22.8)	$\chi^2(2)=20.670$ p=0.000**	5 (11.1) [-1.8]	7 (14.3) [-1.3]	34 (27.2) △[2.6]	46 (21.0)	$\chi^2(2)=6.879$ p=0.032*
養護施設	22 (3.9) ▼[-2.8]	38 (8.3) △[2.1]	67 (6.6) [0.7]	127 (6.2)	$\chi^2(2)=9.073$ p=0.011*	2 (4.4)	1 (2.0)	12 (9.6)	15 (6.8)	(m) p=0.184
児童自立支援施設	49 (8.6) ▼[-4.1]	62 (13.6) [-0.1]	167 (16.6) △[3.8]	278 (13.7)	$\chi^2(2)=19.345$ p=0.000**	4 (8.9)	8 (16.3)	17 (13.6)	29 (13.2)	$\chi^2(2)=1.162$ p=0.559
少年院	104 (18.3) ▼[-2.8]	91 (19.9) [-1.5]	263 (26.1) △[3.8]	458 (22.5)	$\chi^2(2)=14.821$ p=0.001**	1 (2.2)	6 (12.2)	13 (10.4)	20 (9.1)	(m) p=0.157
総 数	568	457	1,009	2,034		45	49	125	219	

注 1 法務総合研究所の調査による。  
 2 無回答を除く。  
 3 重複選択による。  
 4 図1の注3・4に同じ。  
 5 図5の注5に同じ。  
 6 図34の注4・5に同じ。

各施設への係属歴ありとする者の比率は、女子の養護施設を除き、経験なし群が最も低い。女子の養護施設、児童自立支援施設及び少年院を除き、各施設への係属の有無について3群間に有意差が見られる。残差分析の結果、男子では、係属歴ありの者が、養護施設で経験なし群で有意に少なく、家族被害経験のみ群で有意に多くなっているほかは、3施設とも経験なし群で有意に少なく、被虐待経験あり群で有意に多くなっている。女子では、児童相談所係属歴ありとする者が、被虐待経験あり群で有意に多くなっている。

被虐待経験あり群について、各施設への係属歴ありとするものの比率を見ると、児童相談所と少年院が約4分の1、養護施設は約7%、児童自立支援施設は約17%である。

#### 4 非行との関連についての認識

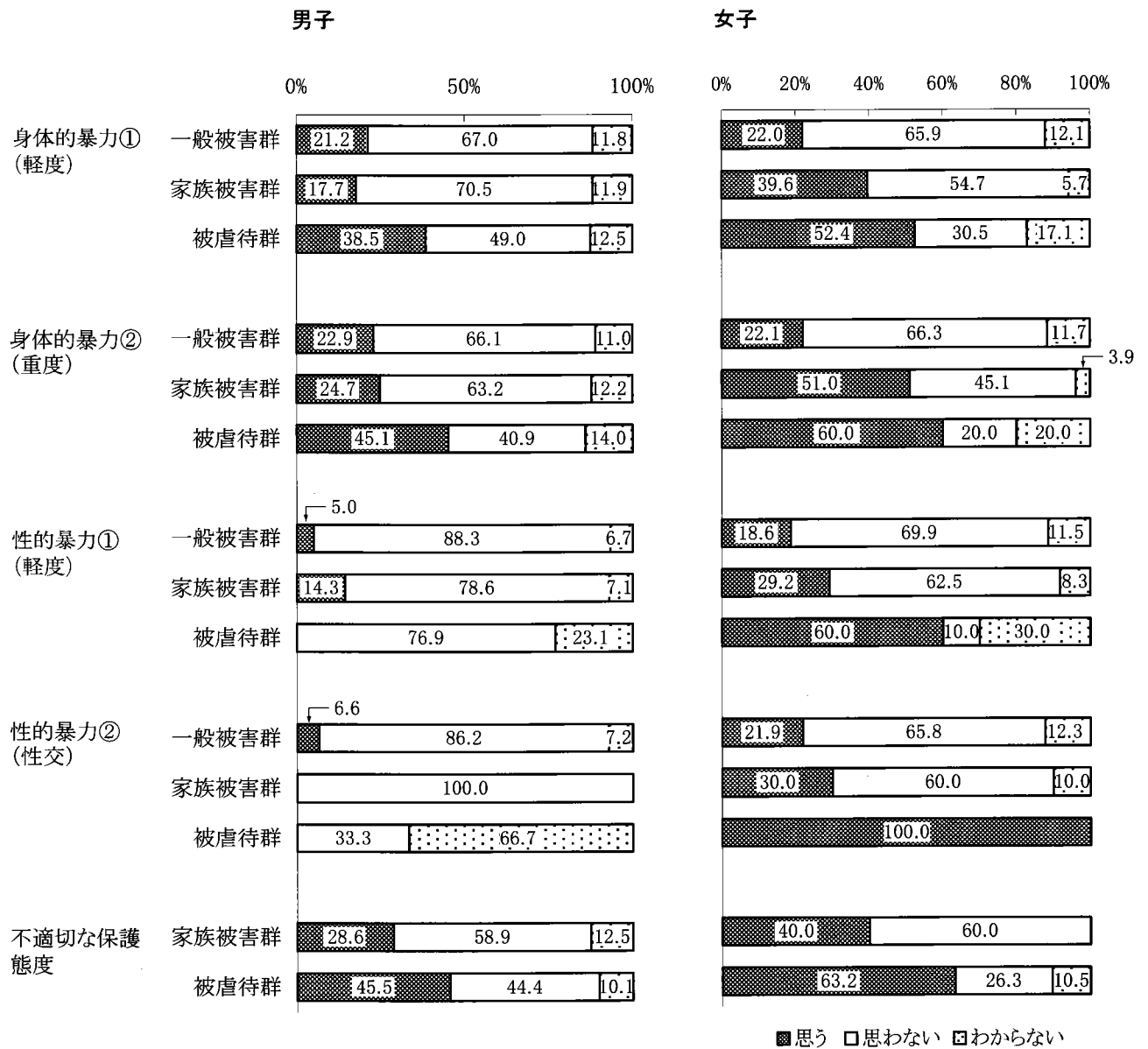
##### (1) 被害の状況別

被害・被虐待経験と非行の関連の有無についての認識（以下、「非行関連認識」という。）を見るために、「あなたは、その被害を受けたために非行に走るようになったと思いますか」（問7、不適切な保護態度のみ問6。）と尋ねた。その結果を、加害行為の種類ごとに一般被害群、家族被害群及び被虐待群について見たものが図38である。

男子を見ると、全ての加害行為の一般被害群及び家族被害群で、「思わない」（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせたもの。以下同じ。）の比率が、「思う」（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせたもの。以下同じ。）及び「わからない」の比率を上回っている。被虐待群では、性的暴力①（接触）、②（性交）で「思う」とする者はないが、身体的暴力②（重度）及び不適切な保護態度では、「思う」が「思わない」とほぼ同率かやや上回っている。また、身体的暴力①（軽度）、②（重度）では、「思う」とする比率は、一般的被害群、家族被害群では20%前後であるが、被虐待群では①（軽度）が約40%、②（重度）が約50%と高くなっている。

女子の場合は、いずれの加害行為でも、「思う」とする比率は被虐待群が最も高く、身体的暴力①（軽度）で約50%のほかは、すべて60%以上である。これに対し一般被害群では、「思わない」とする比率が、いずれの加害行為についても60%以上を占めている。また、全体的に見て、女子は男子に比べ「思う」とする比率が高い。

図38 被害の経験と非行の関連認識（加害行為の種類別）



		男 子				女 子			
		思う	思わない	わからない	合 計	思う	思わない	わからない	合 計
身体的暴力 ① (軽度)	一般被害群	276 (21.2)	870 (67.0)	153 (11.8)	1,299 (100.0)	29 (22.0)	87 (65.9)	16 (12.1)	132 (100.0)
	家族被害群	73 (17.7)	291 (70.5)	49 (11.9)	413 (100.1)	21 (39.6)	29 (54.7)	3 (5.7)	53 (100.0)
	被虐待群	329 (38.5)	419 (49.0)	107 (12.5)	855 (100.0)	55 (52.4)	32 (30.5)	18 (17.1)	105 (100.0)
身体的暴力 ② (重度)	一般被害群	388 (22.9)	1,119 (66.1)	187 (11.0)	1,694 (100.0)	36 (22.1)	108 (66.3)	19 (11.7)	163 (100.1)
	家族被害群	89 (24.7)	228 (63.2)	44 (12.2)	361 (100.1)	26 (51.0)	23 (45.1)	2 (3.9)	51 (100.0)
	被虐待群	251 (45.1)	228 (40.9)	78 (14.0)	557 (100.0)	45 (60.0)	15 (20.0)	15 (20.0)	75 (100.0)
性的暴力 ① (接触)	一般被害群	18 (5.0)	316 (88.3)	24 (6.7)	358 (100.0)	29 (18.6)	109 (69.9)	18 (11.5)	156 (100.0)
	家族被害群	2 (14.3)	11 (78.6)	1 (7.1)	14 (100.0)	7 (29.2)	15 (62.5)	2 (8.3)	24 (100.0)
	被虐待群	0 -	10 (76.9)	3 (23.1)	13 (100.0)	6 (60.0)	1 (10.0)	3 (30.0)	10 (100.0)
性的暴力 ② (性交)	一般被害群	10 (6.6)	131 (86.2)	11 (7.2)	152 (100.0)	34 (21.9)	102 (65.8)	19 (12.3)	155 (100.0)
	家族被害群	0 -	2 (100.0)	0 -	2 (100.0)	3 (30.0)	6 (60.0)	1 (10.0)	10 (100.0)
	被虐待群	0 -	1 (33.3)	2 (66.7)	3 (100.0)	1 (100.0)	0 -	0 -	1 (100.0)
不適切な 保護態度	家族被害群	16 (28.6)	33 (58.9)	7 (12.5)	56 (100.0)	2 (40.0)	3 (60.0)	0 -	5 (100.0)
	被虐待群	45 (45.5)	44 (44.4)	10 (10.1)	99 (100.0)	12 (63.2)	5 (26.3)	2 (10.5)	19 (100.0)

注 1 法務総合研究所の調査による。

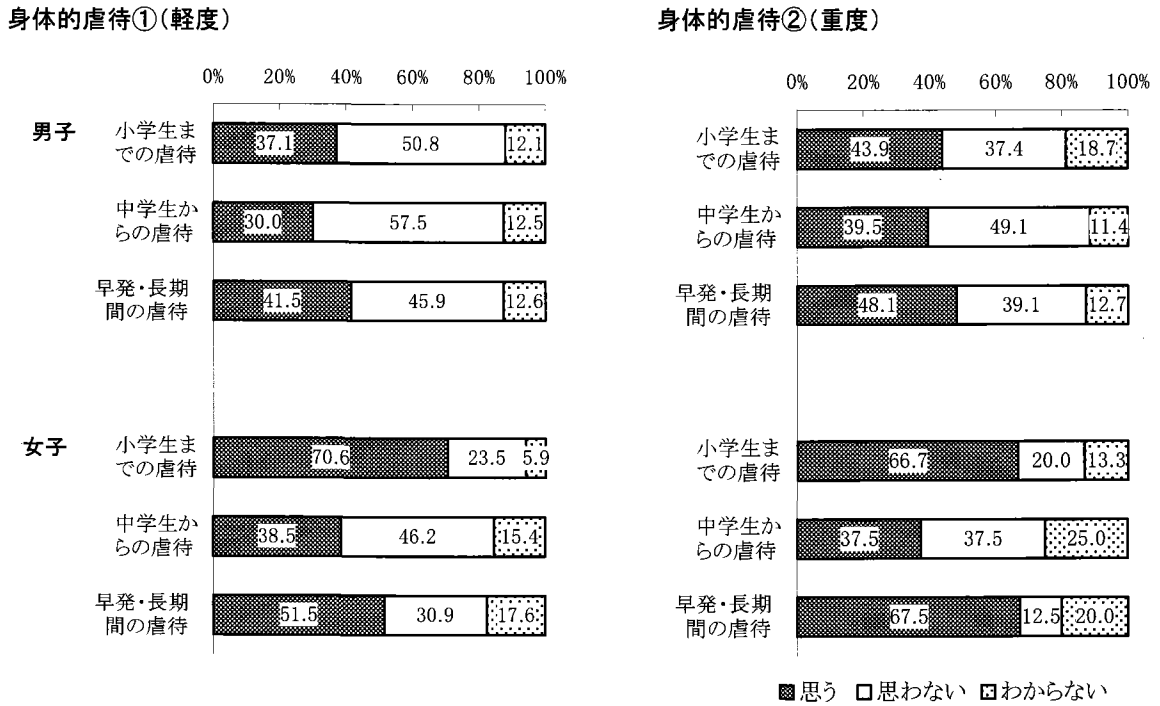
2 無回答を除く。

3 「思う」は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせたものであり、「思わない」は、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせたものである。

4 ( ) 内は、構成比である。

図39は、家族からの身体的暴力①（軽度）、②（重度）の被虐待群について、非行関連認識を被虐待期間別に見たものである。

図39 身体的虐待の経験と非行の関連認識（被虐待期間別）



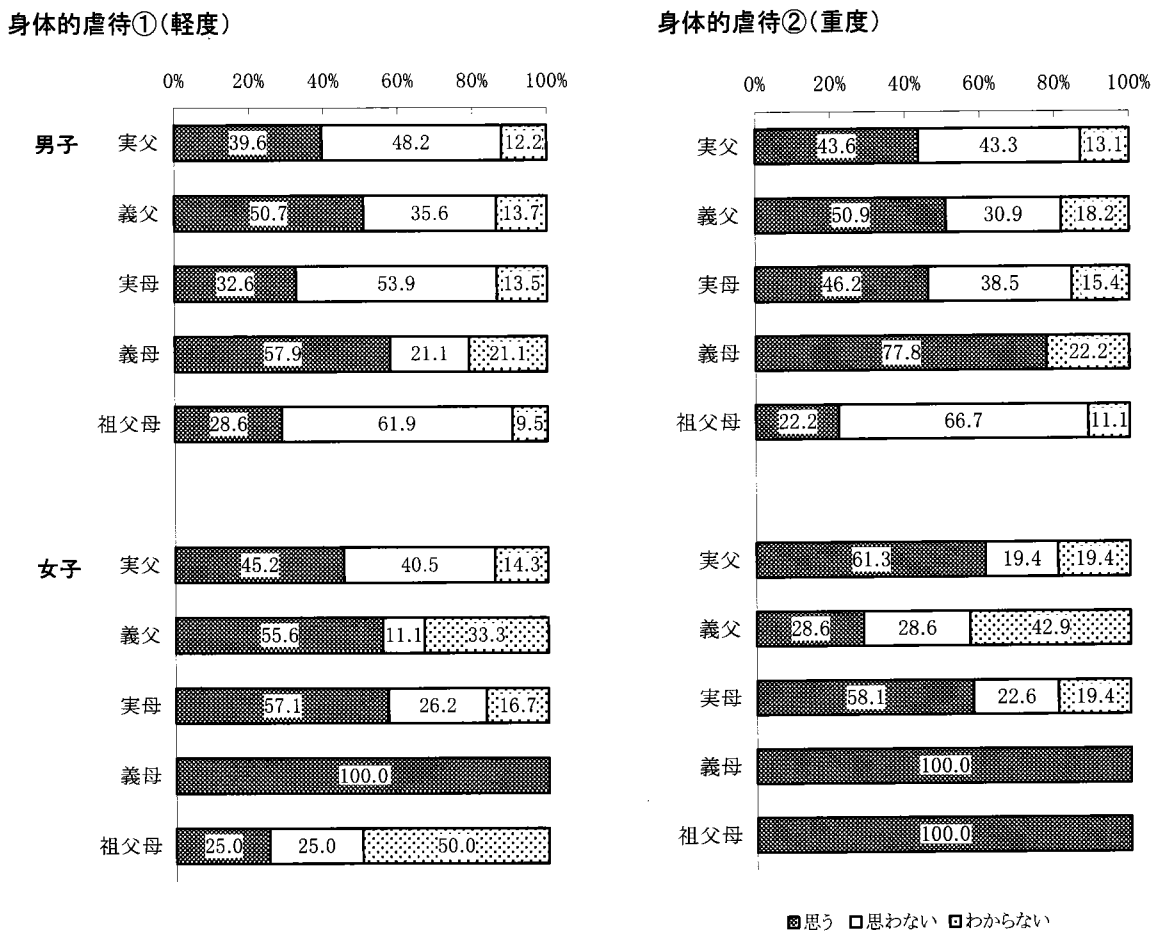
		身体的虐待①（軽度）				検定結果	身体的虐待②（重度）				検定結果
		思う	思わない	わからない	合計		思う	思わない	わからない	合計	
男子	小学生までの虐待	89 (37.1)	122 (50.8)	29 (12.1)	240 (100.0)	$\chi^2(4)=5.025$  $p=0.285$	47 (43.9)	40 (37.4)	20 (18.7)	107 (100.0)	$\chi^2(4)=6.533$  $p=0.163$
	中学生からの虐待	24 (30.0)	46 (57.5)	10 (12.5)	80 (100.0)		45 (39.5)	56 (49.1)	13 (11.4)	114 (100.0)	
	早発・長期間の虐待	208 (41.5)	230 (45.9)	63 (12.6)	501 (100.0)		155 (48.1)	126 (39.1)	41 (12.7)	322 (100.0)	
	合計	321 (39.1)	398 (48.5)	102 (12.4)	821 (100.0)		247 (45.5)	222 (40.9)	74 (13.6)	543 (100.0)	
女子	小学生までの虐待	12 (70.6)	4 (23.5)	1 (5.9)	17 (100.0)	$p=0.419$	10 (66.7)	3 (20.0)	2 (13.3)	15 (100.0)	$p=0.212$
	中学生からの虐待	5 (38.5)	6 (46.2)	2 (15.4)	13 (100.1)		6 (37.5)	6 (37.5)	4 (25.0)	16 (100.0)	
	早発・長期間の虐待	35 (51.5)	21 (30.9)	12 (17.6)	68 (100.0)		27 (67.5)	5 (12.5)	8 (20.0)	40 (100.0)	
	合計	52 (53.1)	31 (31.6)	15 (15.3)	98 (100.0)		43 (60.6)	14 (19.7)	14 (19.7)	71 (100.0)	

注 1 法務総合研究所の調査による。  
 2 無回答を除く。  
 3 ( )内は、構成比である。  
 4 図1の注3に同じ。  
 5 図38の注3に同じ。

①, ②の男女とも, 「思う」とする比率が最も低いのは中学生からの虐待であり, 逆に最も高いのは, 男子は, ①, ②とも早発・長期間の虐待であり, 女子は, 小学生までの虐待(①, ②)及び早発・長期間の虐待(②)である。

図40は, 家族からの身体的暴力①(軽度), ②(重度)の被虐待群について, 非行関連認識を最もひどい加害者別に見たものである。①について, 男子では, 「思う」とする者の比率が, 実父, 実母で30%台であるのに対し, 義父, 義母では50%台となっている。女子では, 「思う」が, 実父で40%台であるほかは, 義父, 実母, 義母とも50%を上回っている。②について, 男子では①と同様に, 「思う」の比率は, 実父, 実母より義父, 義母において高くなっている。女子では, 義父が20%台であるほかは, 実父, 実母, 義母とも高い比率になっている。

図40 身体的虐待の経験と非行の関連認識(最もひどい加害者別)



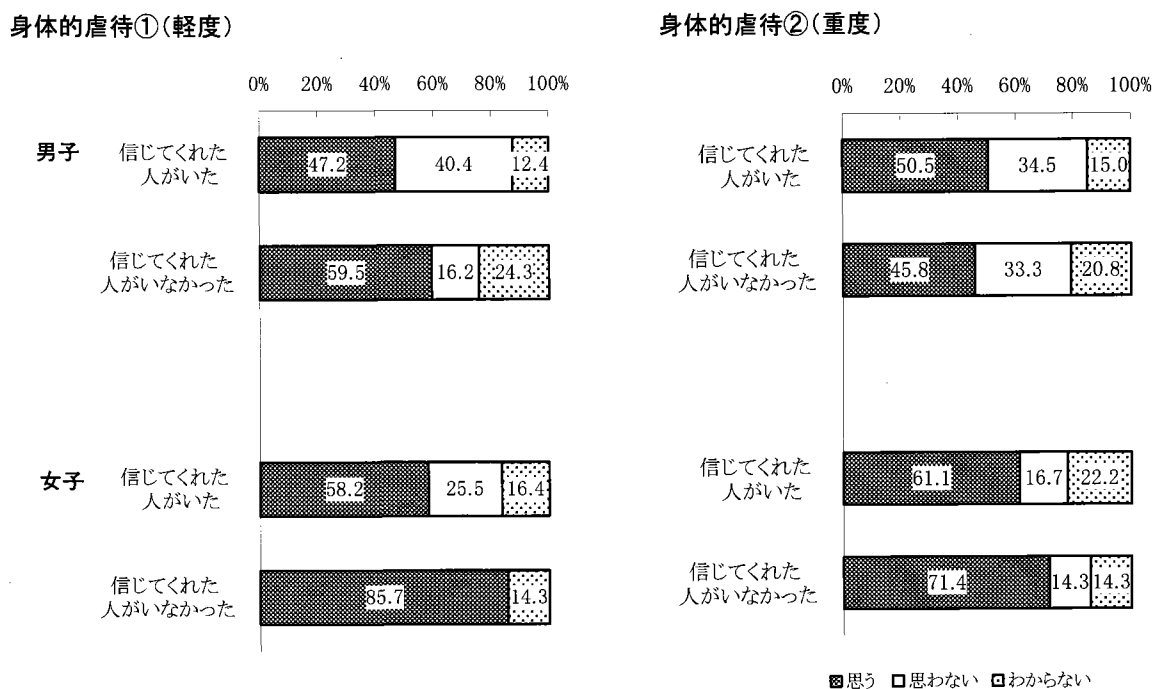
		身体的虐待① (軽度)				検定結果	身体的虐待② (重度)				検定結果
		思う	思わない	わからない	合計		思う	思わない	わからない	合計	
男子	実父	185 (39.6) [0.4]	225 (48.2) [0.0]	57 (12.2) [-0.6]	467 (100.0)	(m)  p=0.046*	167 (43.6)	166 (43.3)	50 (13.1)	383 (100.0)	(m)  p=0.233
	義父	37 (50.7) △[2.1]	26 (35.6) ▼[-2.2]	10 (13.7) [0.2]	73 (100.0)		28 (50.9)	17 (30.9)	10 (18.2)	55 (100.0)	
	実母	63 (32.6) ▼[-2.1]	104 (53.9) [1.8]	26 (13.5) [0.3]	193 (100.0)		30 (46.2)	25 (38.5)	10 (15.4)	65 (100.0)	
	義母	11 (57.9) [1.7]	4 (21.1) ▼[-2.4]	4 (21.1) [1.1]	19 (100.0)		7 (77.8)	0 -	2 (22.2)	9 (100.0)	
	祖父母	6 (28.6) [-1.0]	13 (61.9) [1.3]	2 (9.5) [-0.5]	21 (100.0)		2 (22.2)	6 (66.7)	1 (11.1)	9 (100.0)	
	合計	302 (39.1)	372 (48.1)	99 (12.8)	773 (100.0)		234 (44.9)	214 (41.1)	73 (14.0)	521 (100.0)	
女子	実父	19 (45.2)	17 (40.5)	6 (14.3)	42 (100.0)	(m)  p=0.223	19 (61.3)	6 (19.4)	6 (19.4)	31 (100.0)	(m)  p=0.665
	義父	5 (55.6)	1 (11.1)	3 (33.3)	9 (100.0)		2 (28.6)	2 (28.6)	3 (42.9)	7 (100.0)	
	実母	24 (57.1)	11 (26.2)	7 (16.7)	42 (100.0)		18 (58.1)	7 (22.6)	6 (19.4)	31 (100.0)	
	義母	3 (100.0)	0 -	0 -	3 (100.0)		2 (100.0)	0 -	0 -	2 (100.0)	
	祖父母	1 (25.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	4 (100.0)		2 (100.0)	0 -	0 -	2 (100.0)	
	合計	52 (52.0)	30 (30.0)	18 (18.0)	100 (100.0)		43 (58.9)	15 (20.5)	15 (20.5)	73 (100.0)	

- 注 1 法務総合研究所の調査による。  
 2 無回答を除く。  
 3 ( )内は、構成比である。  
 4 「祖父母」は、「祖父」と「祖母」を合わせたものである。  
 5 図1の注3に同じ。  
 6 表4の注3に同じ。  
 7 図38の注3に同じ。

(2) 被虐待経験の表出時の状況別

図41は、家族からの身体的暴力①(軽度)、②(重度)の被虐待群について、非行関連認識を、被虐待経験の話を通じて信じてくれた他者の有無別に見たものである。①では、男女とも、信じてくれた他者の有無にかかわらず、半数以上の者が「思う」としている。非行関連認識と被虐待経験の話を通じて信じてくれた人の有無については、男子で有意差が見られ、残差分析の結果、「思わない」とする者は、信じてくれた人がいたで有意に多く、信じてくれた人がいなかったで有意に少なく、「わからない」は、信じてくれた人がいたで有意に少なく、いなかったで有意に多くなっている。②でも、男女とも、信じてくれた他者の有無にかかわらず、半数以上の者が「思う」としている。

図41 身体的虐待の経験と非行の関連認識(信じてくれた人の有無別)



■思う □思わない ▨わからない

		身体的虐待①(軽度)				検定結果	身体的虐待②(重度)				検定結果
		思う	思わない	わからない	合計		思う	思わない	わからない	合計	
男子	信じてくれた人がいた	126 (47.2) [-1.4]	108 (40.4) △[2.9]	33 (12.4) ▼[-2.0]	267 (100.0)	p=0.009**	101 (50.5)	69 (34.5)	30 (15.0)	200 (100.0)	p=0.797
	信じてくれた人がいなかった	22 (59.5) [1.4]	6 (16.2) ▼[-2.9]	9 (24.3) △[2.0]	37 (100.0)		11 (45.8)	8 (33.3)	5 (20.8)	24 (100.0)	
	合計	148 (48.7)	114 (37.5)	42 (13.8)	304 (100.0)		112 (50.0)	77 (34.4)	35 (15.6)	224 (100.0)	
女子	信じてくれた人がいた	32 (58.2)	14 (25.5)	9 (16.4)	55 (100.0)	p=0.323	22 (61.1)	6 (16.7)	8 (22.2)	36 (100.0)	p=1.000
	信じてくれた人がいなかった	6 (85.7)	0 -	1 (14.3)	7 (100.0)		5 (71.4)	1 (14.3)	1 (14.3)	7 (100.0)	
	合計	38 (61.3)	14 (22.6)	10 (16.1)	62 (100.0)		27 (62.8)	7 (16.3)	9 (20.9)	43 (100.0)	

注 1 法務総合研究所の調査による。  
 2 無回答を除く。  
 3 ( )内は、構成比である。  
 4 「信じてくれた人がいなかった」は、「わからない」を含む。  
 5 図1の注3・4に同じ。  
 6 表2の注6に同じ。  
 7 図38の注3に同じ。



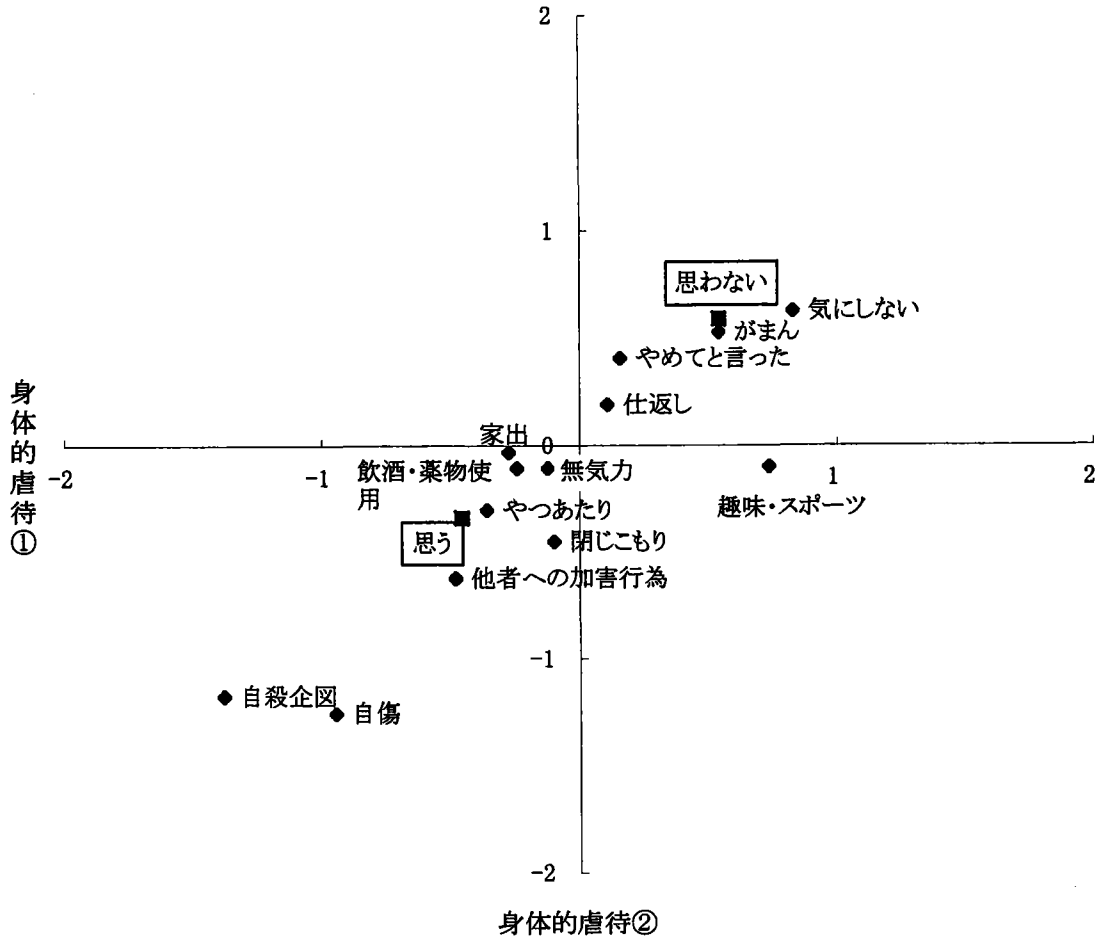
### (3) 虐待を受けた時の行動との関連

家族からの身体的暴力①（軽度）、②（重度）の男子の被虐待群について、非行関連認識と被虐待時の行動の関係をコレスポネンス分析で見たところ、「わからない」とするものについては寄与率が極めて低かったので、これを除き、「思う」とする者と「思わない」とする者を取り上げて、被虐待時の行動を見たものが図42である。

①については、「思う」とする者の周りに、「家出した」、「やつあたりや、いやがらせをした」、「酒を飲んだ／薬物を使用した」、「自分も他の人に同じようなことをした」があり、「思わない」の周りには、「じっとがまんした」、「趣味・スポーツをした」、「気にしたり、考えたりしないようにした」がある。

これに対し、②で「思う」の周りには、「家に閉じこもった」、「やつあたりや、いやがらせをした」、「何もしたくなくなった」、「酒を飲んだ／薬物を使用した」、「自分も他の人に同じようなことをした」があり、「思わない」の周りには、「やめてといった／言ってもらった」、「じっとがまんした」、「気にしたり、考えたりしないようにした」がある。

図42 身体的虐待を受けた時の行動（男子・身体的虐待の経験と非行の関連認識別）



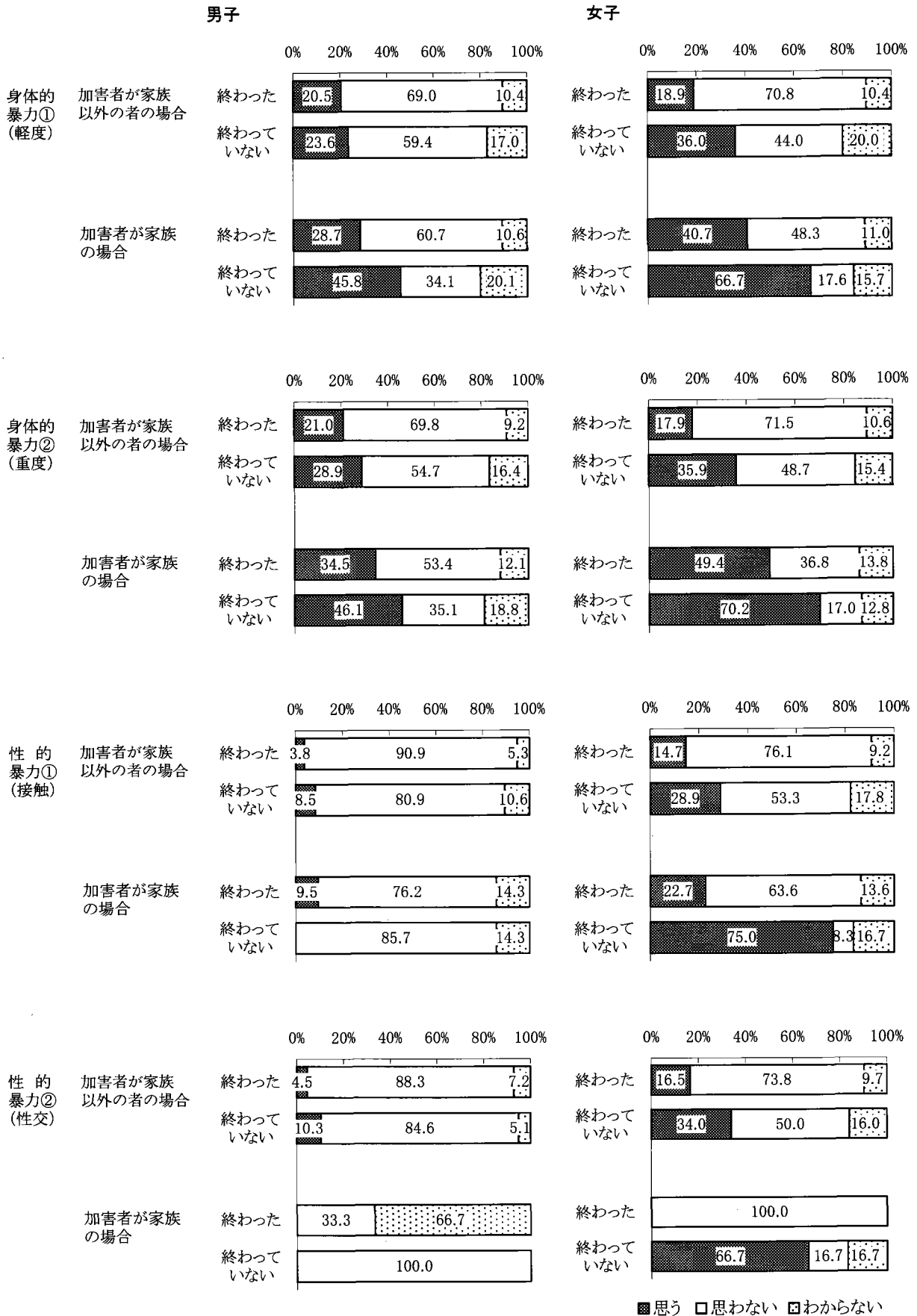
	グラフのラベル	対応する選択肢	次元の得点	
			身体的虐待① (軽度)	身体的虐待② (重度)
非行との 関連認識	思う		-0.45	-0.34
	思わない		0.54	0.59
虐待を受けた 時の行動	やめてと言った	やめるよう言った／言ってもらった	0.16	0.41
	家出	家出した	-0.27	-0.03
	がまん	じっとがまんした	0.54	0.53
	気にしない	気にしたり、考えたりしないようにした	0.83	0.63
	自殺企図	自殺しようとした	-1.38	-1.17
	自傷	自分の体を傷つけた	-0.95	-1.25
	閉じこもり	家に閉じこもった	-0.10	-0.45
	無気力	何もしたくなくなった	-0.12	-0.11
	趣味・スポーツ	趣味・スポーツをした	0.73	-0.10
	やつあたり	やつあたりや、いやがらせをした	-0.36	-0.31
	飲酒・薬物使用	酒を飲んだ／薬物を使用した	-0.24	-0.11
	仕返し	相手にやり返した／仕返しをした	0.11	0.19
	他者への加害行為	自分も他の人に同じようなことをした	-0.48	-0.63

注 1 法務総合研究所の調査による。  
 2 無回答を除く。  
 3 「虐待を受けた時の行動」については、重複選択による。  
 4 図16の注4に同じ。  
 5 図38の注3に同じ。

#### (4) 被害の終了の有無別

図43は、各加害行為について加害者が家族以外と家族の場合について、非行関連認識をそれぞれの被害・被虐待経験の終了の有無別に見たものである。男子で加害者が家族である場合の性的暴力を除いた全ての場合について、被害・被虐待経験と非行との関連があるとする者の比率は、その被害・被虐待が終わっていないとする者の方が高い。また、男子の身体的暴力並びに女子の身体的暴力及び性的暴力の一部について、被害・被虐待経験の終了の有無と非行関連認識に有意な関連が見られる。このうち、家族以外の者からの身体的暴力①（軽度）並びに家族以外の者から及び家族からの身体的暴力②（重度）においては、被害・被虐待経験と非行との関連があるとする者は、その経験が終わったとする者で有意に少なく、終わっていないとする者で有意に多い傾向が、男女ともに一貫して見られる。また、女子については、家族以外の者からの性的暴力①（接触）及び家族以外の者から及び家族からの性的暴力②（性交）においても、同様の傾向が見られる。

図43 家族又は家族以外の者からの被害の経験と非行との関連認識（加害行為別被害の終了の有無別）



加害行為の種類	加害者	被害の終了の有無	男子					
			被害の経験と非行との関連についての認識					検定結果
			思う	思わない	わからない	合計		
身体的暴力① (軽度)	家族以外の者	終わった	210 (20.5) [-1.1]	707 (69.0) △[3.0]	107 (10.4) ▼[-3.0]	1,024 (100.0)	$\chi^2(2)=11.668$  p=0.003**	
		終わっていない	64 (23.6) [1.1]	161 (59.4) ▼[-3.0]	46 (17.0) △[3.0]	271 (100.0)		
		合計	274 (21.2)	868 (67.0)	153 (11.8)	1,295 (100.0)		
	家 族	終わった	317 (28.7) ▼[-4.9]	671 (60.7) △[7.2]	117 (10.6) ▼[-3.9]	1,105 (100.0)	$\chi^2(2)=52.536$  p=0.000**	
		終わっていない	98 (45.8) △[4.9]	73 (34.1) ▼[-7.2]	43 (20.1) △[3.9]	214 (100.0)		
		合計	415 (31.5)	744 (56.4)	160 (12.1)	1,319 (100.0)		
身体的暴力② (重度)	家族以外の者	終わった	266 (21.0) ▼[-3.3]	884 (69.8) △[5.6]	117 (9.2) ▼[-4.0]	1,267 (100.0)	$\chi^2(2)=33.833$  p=0.000**	
		終わっていない	120 (28.9) △[3.3]	227 (54.7) ▼[-5.6]	68 (16.4) △[4.0]	415 (100.0)		
		合計	386 (22.9)	1,111 (66.1)	185 (11.0)	1,682 (100.0)		
	家 族	終わった	264 (34.5) ▼[-3.0]	409 (53.4) △[4.5]	93 (12.1) ▼[-2.4]	766 (100.0)	$\chi^2(2)=21.014$  p=0.000**	
		終わっていない	88 (46.1) △[3.0]	67 (35.1) ▼[-4.5]	36 (18.8) △[2.4]	191 (100.0)		
		合計	352 (36.8)	476 (49.7)	129 (13.5)	957 (100.0)		

加害行為の種類	加害者	被害の終了の有無	女子				
			被害の経験と非行との関連についての認識				
			思う	思わない	わからない	合計	検定結果
身体的暴力① (軽度)	家族以外の者	終わった	20 (18.9) [-1.9]	75 (70.8) △[2.5]	11 (10.4) [-1.3]	106 (100.0)	$\chi^2(2)=6.421$  p=0.040*
		終わっていない	9 (36.0) [1.9]	11 (44.0) ▼[-2.5]	5 (20.0) [1.3]	25 (100.0)	
		合計	29 (22.1)	86 (65.6)	16 (12.2)	131 (100.0)	
	家 族	終わった	48 (40.7) ▼[-3.1]	57 (48.3) △[3.7]	13 (11.0) [-0.8]	118 (100.0)	$\chi^2(2)=14.152$  p=0.001**
		終わっていない	34 (66.7) △[3.1]	9 (17.6) ▼[-3.7]	8 (15.7) [0.8]	51 (100.0)	
		合計	82 (48.5)	66 (39.1)	21 (12.4)	169 (100.0)	
身体的暴力② (重度)	家族以外の者	終わった	22 (17.9) ▼[-2.4]	88 (71.5) △[2.6]	13 (10.6) [-0.8]	123 (100.0)	$\chi^2(2)=7.244$  p=0.027*
		終わっていない	14 (35.9) △[2.4]	19 (48.7) ▼[-2.6]	6 (15.4) [0.8]	39 (100.0)	
		合計	36 (22.2)	107 (66.0)	19 (11.7)	162 (100.0)	
	家 族	終わった	43 (49.4) ▼[-2.3]	32 (36.8) △[2.4]	12 (13.8) [0.2]	87 (100.0)	$\chi^2(2)=6.340$  p=0.042*
		終わっていない	33 (70.2) △[2.3]	8 (17.0) ▼[-2.4]	6 (12.8) [-0.2]	47 (100.0)	
		合計	76 (56.7)	40 (29.9)	18 (13.4)	134 (100.0)	

加害行為の種類	加害者	被害の終了の有無	男子				
			被害の経験と非行との関連についての認識				
			思う	思わない	わからない	合計	検定結果
性的暴力① (接触)	家族以外の者	終わった	10 (3.8) [-1.8]	239 (90.9) △[2.6]	14 (5.3) [-1.8]	263 (100.0)	$\chi^2(2)=6.743$  p=0.034*
		終わっていない	8 (8.5) [1.8]	76 (80.9) ▼[-2.6]	10 (10.6) [1.8]	94 (100.0)	
		合計	18 (5.0)	315 (88.2)	24 (6.7)	357 (100.0)	
	家 族	終わった	2 (9.5)	16 (76.2)	3 (14.3)	21 (100.0)	(m)  p=1.000
		終わっていない	0 -	6 (85.7)	1 (14.3)	7 (100.0)	
		合計	2 (7.1)	22 (78.6)	4 (14.3)	28 (100.0)	
性的暴力② (性交)	家族以外の者	終わった	5 (4.5)	98 (88.3)	8 (7.2)	111 (100.0)	(m)  p=0.401
		終わっていない	4 (10.3)	33 (84.6)	2 (5.1)	39 (100.0)	
		合計	9 (6.0)	131 (87.3)	10 (6.7)	150 (100.0)	
	家 族	終わった	0 -	1 (33.3)	2 (66.7)	3 (100.0)	(f)  p=0.400
		終わっていない	0 -	2 (100.0)	0 -	2 (100.0)	
		合計	0 -	3 (60.0)	2 (40.0)	5 (100.0)	

加害行為の種類	加害者	被害の終了の有無	女子				
			被害の経験と非行との関連についての認識				
			思う	思わない	わからない	合計	検定結果
性的暴力① (接触)	家族以外の者	終わった	16 (14.7) ▼[-2.1]	83 (76.1) △[2.8]	10 (9.2) [-1.5]	109 (100.0)	$\chi^2(2)=7.818$  p=0.020*
		終わっていない	13 (28.9) △[2.1]	24 (53.3) ▼[-2.8]	8 (17.8) [1.5]	45 (100.0)	
		合計	29 (18.8)	107 (69.5)	18 (11.7)	154 (100.0)	
	家 族	終わった	5 (22.7) ▼[-3.0]	14 (63.6) △[3.1]	3 (13.6) [-0.2]	22 (100.0)	(m)  p=0.005**
		終わっていない	9 (75.0) △[3.0]	1 (8.3) ▼[-3.1]	2 (16.7) [0.2]	12 (100.0)	
		合計	14 (41.2)	15 (44.1)	5 (14.7)	34 (100.0)	
性的暴力② (性交)	家族以外の者	終わった	17 (16.5) ▼[-2.4]	76 (73.8) △[2.9]	10 (9.7) [-1.1]	103 (100.0)	$\chi^2(2)=8.654$  p=0.013*
		終わっていない	17 (34.0) △[2.4]	25 (50.0) ▼[-2.9]	8 (16.0) [1.1]	50 (100.0)	
		合計	34 (22.2)	101 (66.0)	18 (11.8)	153 (100.0)	
	家 族	終わった	0 - ▼[-2.3]	5 (100.0) △[2.8]	0 - [-1.0]	5 (100.0)	(m)  p=0.029*
		終わっていない	4 (66.7) △[2.3]	1 (16.7) ▼[-2.8]	1 (16.7) [1.0]	6 (100.0)	
		合計	4 (36.4)	6 (54.5)	1 (9.1)	11 (100.0)	

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 「終わっていない」は、「わからない」を含む。

4 「思う」は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を、「思わない」は、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を、それぞれ合わせたものである。

5 ( )内は、構成比である。

6 表2の注5に同じ。

7 図1の注3・4に同じ。

8 図5の注5に同じ。

9 図38の注3に同じ。



## 5 まとめ

ここでは、家族からの身体的暴力等を受けた経験と非行との関連を、次の二つの観点から分析した。一つは、家族からの加害行為の経験の有無やその状況と非行との関連、もう一つは、家族から受けた加害行為と自らの非行との関連についての少年自身の認識である。以下では、その分析結果の概要を述べる。

### (1) 家族からの加害行為を受けた経験と非行

- ① 初発非行の時期は、経験なし群、家族被害経験のみ群、被虐待経験あり群とも、中学生の時とする者が半数以上である。男子の被虐待経験あり群は、男子の他の2群及び女子の被虐待経験あり群と比べて、初発非行の時期が小学生の時又はそれ以前とする者が多い。
- ② 初発非行の時期と虐待の開始時期について、男子で有意な関連が認められ、中学生及びそれ以後については、両者が同時期である傾向が見られる。
- ③ 今回調査した11の非行名に関する検挙・補導歴については、3群間に有意差はなく、男子は道路交通法違反、窃盗が多く、女子は窃盗、覚せい剤取締法違反が多い。
- ④ 非行種別に見た本件非行については、3群間に有意差はなく、男子は財産犯、粗暴犯が多く、女子は薬物事犯が多い。
- ⑤ 児童相談所、養護施設、児童自立支援施設及び少年院への過去の係属歴の有無については、男子については全て、女子は児童相談所について、群間に有意差が見られ、係属歴のある者は、男子では全ての施設について経験なし群で有意に少なく、養護施設を除く3施設について、被虐待経験あり群で有意に多い。女子でも児童相談所への係属歴のある者は、被虐待経験あり群で有意に多い。

### (2) 非行関連認識

- ① 非行関連認識は、一般被害群、家族被害群及び被虐待群で異なり、一般被害群は全ての加害行為において、被害経験と非行との関連はないとする者が半数を超えて最も多いのに対し、被虐待群は、男子の性的暴力を除く全ての加害行為において、関連がないとする者は半数を割っている。また、男女を比べると、身体的暴力②（重度）の一般被害群を除き、関連があるとする比率は、女子の方が高い。
- ② 身体的暴力の被虐待群の非行関連認識を被虐待期間別に見ると、②（重度）の女子を除き、男女とも、関連があるとする者の比率は、中学生からの虐待において最も低い。
- ③ 身体的暴力の被虐待群のうち被虐待経験を他者に話した者について、その話を信じてくれた人の有無別に非行関連認識を見ると、①（軽度）の男子で有意差が見られ、信じてくれた人がいた場合は、非行との関連がないとする者が多い。
- ④ 身体的暴力の被虐待群の非行関連認識別に被害を受けたときの行動を見ると、非行との関連があるとする者は、①（軽度）ではやつあたり、家出、飲酒・薬物使用をしたものが多く、②（重度）では閉じこもり、やつあたり、飲酒・薬物使用、他者への加害行為をしたものが多い。
- ⑤ 加害者が家族以外の場合と家族の場合に分けて、加害行為の終了の有無別に非行関連認識を見ると、男子の身体的暴力と女子の全ての加害行為で、関連がないとする者は、加害行為が「終わった」とする者に多い。また、家族以外の者からの身体的暴力①（軽度）等一部を除き、関連があるとする者は、加害行為が「終わっていない」とするものに多い。

## 6 考察

ここでは、5に述べた家族からの加害行為の経験と非行との関連に関する分析結果を踏まえ、少年の処遇及び虐待全般に関し、次の2点について若干の考察を加えたい。

第1点目は被虐待経験と非行との関連についてである。

被虐待経験と犯罪・非行について、初発非行の時期、補導・検挙歴、本件非行及び問題行動の観点から分析したが、初発非行時期及び問題行動の一部以外には、有意な関連は見られなかった。もとより、虐待も非行も、さまざまな要因を背景とした複雑な事象であり、両者の関連の有無等について、今後とも更に調査研究が必要であることは言うまでもない。

第2点目は、非行関連認識についてである。

自らの被害・被虐待経験と非行との関連があるとする比率は、ほとんどの加害行為において、加害者が家族の場合のほうが家族以外の場合より高く、特に女子では、すべての加害行為において被虐待群が最も高く、次いで家族被害群、一般被害群となっている。これは、家族以外の者による場合に比べ、家族から受ける被害・被虐待経験の重さを表すものとして、経験的にも了解できる結果である。

少年が被虐待経験と非行との間に感じている関連性が、客観的に妥当であるか否かによらず、少年自身がその関連のありようを整理することが大切であろう。特に、虐待が終わっていないとする者に、被虐待経験と非行との関連を認める者が多いことは、出院後、虐待を受け非行に到る道を再びたどる危険性のある者がいることを示唆しており、再非行防止の点からも必要な手当であると思われる。

## むすび

少年院在院者に対する被害経験を問うアンケート調査は、本人の回想によるというその方法論上の限界はあるものの、非行少年における虐待問題の広がり的一端を示す結果になったと思われる。言うまでもなく、矯正、更生保護とも、虐待問題が本人の非行や社会復帰にかかわりがあると思われる場合は、個別的に指導、援助をしてきたところである。しかしながら、対象者のほぼ半数に何らかの被虐待経験があるという今回の調査結果を見ると、少なくとも非行少年にかかわる現場においては、従来からの個々の少年に対する指導に加えて、次のような点について新たな対応を検討することが必要ではないかと考える。

第1点目は、被虐待経験と少年が非行に到った過程を整理し、今後対応が必要な事例を把握するスクリーニングの方法の検討である。

我々は、ここで少年院在院者における被虐待経験の広がりを確認するとともに、その多くが虐待をしのいできたサバイバーであることも同時に心に留める必要がある。

少年院在院者の中には、被虐待経験者が少なくない。しかし、少年院においては、すべての被虐待事例について何らかの対応することが求められているわけではない。大切なことは、我々が多くの被虐待経験者の中から、被虐待経験が少年の非行に少なからぬ関連があり、その社会復帰のために虐待の問題に取り組む必要があると考えられる事例を的確に把握することである。虐待問題は、喩えてみれば「パンドラの箱」のようなもので、その扱いには慎重を期す必要がある。少年自身が「虐待は終わったこと」として、現在に到っていることをまず尊重し、被虐待経験時から現在までの少年の辿ってきた跡を注意深く受け止める中から、その蓋を開ける必要があり、その後のフォローが可能な事例かどうかを判断する姿勢が必要と考える。

第2点目は、「子供としての少年」を主体としている現在の家族問題指導に加え、「親になる少年」についても関心を払い、将来の家族像をつかませるような指導を検討することである。本調査と並行して行った面接から、被虐待経験のある青少年の中には、将来自分が親になった時、自分の親と同じことを繰り返すのではないかと心配し、新しい家庭を持つことに消極的な者が見られた。いわゆる虐待の世代間連鎖については、今後の慎重な研究の成果に待たなければならないが、少なくとも当面は、被虐待経験者に対し、自分が親となって築く将来の家庭像を自信を持って描けるような働きかけが必要であると思う。

第3点目は、指導に当たる職員の虐待に対する認識を高め、虐待と非行とが深く関連したと思われる事例分析を積み重ね、その中から共有できる処遇方法をまとめることである。少年院処遇の現場では、虐待が少年の非行や今後の更生に深く影響を与えていると思われる事例に対し、カウンセリング、役割交換書簡法、ロールプレイング等さまざまな手立てを通して処遇をしてきた実績がある。しかしながら、この問題の広がりを見ると、個々の事例の差異を超えた更に一つ上の被虐待経験者の処遇というレベルで、共通する処遇方法を確立する必要があると思われる。

今回の調査結果からは、児童虐待問題への一般的な取組についても、いくつか示唆が得られた。中でも、少年院在院者の場合、家庭で身体的、性的暴力等の被害にあっている（いた）ことが、本人から同輩集団へ伝えられていることは重要である。その情報を受け取った者が自分からあるいは被虐待経験を励まして、必要な相談機関に情報をつなげるような仕組みがあれば、早期に対応できた可能性があったと思われる。

同輩集団に被虐待経験を話すということが、少年院在院者に固有の傾向なのか、一般にも見られることなのかは今後の検討課題ではあるが、当事者あるいはそのごく身近な存在となる可能性のある子供自身にも、児童虐待に関する認識を高めさせることも検討されてよいのではないか。ある地方新聞（東奥日報01/3/17）の伝えるところでは、その県内で、自ら虐待されていることを通報してきた件数が、一昨年の2件から昨年は11件に急増したという。「虐待はいけないことだ、自分が恥ずかしがることはない」と、一般予防として子供自身に認識させることも必要ではないかと考える。

最後に、今回は児童虐待防止法の定義するところにてできるだけ依拠し、保護者による繰り返される加害行為を虐待として、これに焦点を当てて分析したが、併せて、きょうだいからの身体的、性的暴力や、保護者による一度きりの被害経験についても問題提起ができたと思う。特に、ここでは身体的暴力②とした、「殴られる、蹴られる、刃物で刺される、首を絞められる、やけどを負わされるなど、血が出たり、あざができた、息ができなくなるような暴力」については、その加害者、被害回数にかかわらず、被害当時の行動や、被害経験と非行の関連認識に深い影を投げかけている。

現在、われわれは児童虐待というテーマで研究をしているが、今後は、児童虐待のみにとどまらず、今回「家族被害経験」と定義したもの及び分析の対象としなかった家族間の暴力の目撃経験なども視野に入れた家族間暴力（従来の家庭内暴力が、子供から親への意味が強いのであえて言葉を変えた。）として広くとらえていくことが適切であると思われる。